

杉森孝次郎著作目録

松田 義男 編
改訂 2023年7月23日
2005年3月16日

目次

1. 著書
2. 共著
3. 評論等(新聞・雑誌掲載)
4. 評論集初出

凡例

- ・杉森孝次郎(1881.4.9-1968.12.8)の著作を、1.著書、2.共著、3.評論等(新聞・雑誌掲載)に区分し、それぞれ年次順に配列し、参考までに、4.評論集初出を掲げた。
- ・原本または掲載未確認の著作については*を付した。
- ・新聞・雑誌掲載著作は、表題、掲載紙誌、掲載巻号数、掲載月日の順に記した。ただし、日刊新聞の号数は省略した。
- ・連載評論で、初回とその後で表題が異なる場合、原則として初回の表題を採用し、初回掲載に一括して記した。
- ・雑誌掲載評論で、目次と本文で表題が異なる場合、原則として本文の表題を採用した。
- ・杉森孝次郎を除く署名[白松孝次郎、白松南山、南山、孝次郎]については« »に記した。白松は旧姓、南山は雅号である。
- ・新聞・雑誌における常設欄・特集・アンケートなどは[]に「」で示した。特集・アンケートへの寄稿で無題のものは、特集・アンケート表題を著作表題とした。
- ・その他、適宜、注記事項を[]に示した。

本著作目録の作成に際しては、大阪市立大学学術情報センター・同恒藤記念室、大阪府立中之島図書館、岡山市立中央図書館、岡山大学附属図書館、お茶の水図書館、関西大学総合図書館、京都府立総合資料館、群馬県立図書館、県立長野図書館、神戸大学社会科学系図書館、国立国会図書館、金光図書館、静岡県立中央図書館、玉川大学教育学術情報図書館、東京大学社会科学研究所、東京都立図書館、同志社大学人文科学研究所・同今出川図書館、日本近代文学館、日本新聞博物館新聞ライブラリー、福岡県立図書館、北海道大学附属図書館、明治大学図書館、早稲田大学中央図書館・同現代政治経済研究所より資料閲覧の便宜を得ました。付記して謝意を表します。

1. 著書

- 『シュトルツとシヤーム』《杉森南山》日本図書新報社、1914年2月4日[評論集]
- The principles of the moral empire*, London: University of London Press.熊崎武良温訳『道徳的帝国の原理』＜自由文化叢書第1編＞冬夏社、1917年10月15日
- 『人類の再生』東方時論社、1919年12月21日[評論集]
- 『新社会の原則』天佑社、1921年2月15日[評論集]
- 『社会人の誕生』隆文館、1922年6月2日[評論集]
- 『神になる意志』＜近代名著文庫 第10編＞近代名著文庫刊行会、1923年2月20日[評論集]
- 『国家の明日と新政治原則 社会国家への主張』早稲田大学出版部、1923年7月3日[評論集]
- 『社会進歩の純粹原則』内外出版、1924年9月20日[「社会進歩の純粹原則」(『中央公論』39-2、3、2月1日、3月1日)の加筆修正]
- 『倫理学(或る新意識に於ける)』早稲田大学出版部、1924年4月18日
- 『性意識の哲学化』黎明社、1924年4月25日
- 『社会学』早稲田大学出版部、1927年5月10日
- 『英雄論』改造社、1929年11月15日[評論集]
- 『綜合倫理学』早稲田大学出版部、1929年6月8日[改訂増補1936年、増訂新版1938年、増訂新版5版、1942年]
- 『教育改造と社会改造—その時務及び基本理論—』日東書院、1931年5月25日[評論集]
- 『社会倫理学概説』三省堂、1932年2月6日
- 『世界の今明日』＜世界の今明日叢書 第1巻＞平凡社、1933年9月25日
- *『時局の分析及び批判から必要なる指導意識の再確認へ』＜満鉄夏期大学叢書＞南満州鉄道株式会社地方部地方課、1934年12月10日
- 『行動政治哲学』中央公論社、1937年1月28日[評論集]
- 『国際日本の自覚 東亞に先進する者の義務』理想社出版部、1937年11月27日[評論集]
- *『時局の分析及び批判から必要なる指導意識の再確認へ』＜満鉄夏期大学叢書＞南満州鉄道株式会社地方部地方課、1939年12月
- A new internationalism: a practical philosophy of history*, Waseda Guardian, 1940年6月[評論集]
- 『新世界秩序への炬火』＜新世代叢書 15＞育生社弘道閣、1941年9月15日[評論集]
- *『大東亜建設の指導原理』＜振東社叢書第1輯＞振東社、1941年
- 『新世界秩序建設の書』元元書房、1942年9月19日[評論集]
- 『世界政治学の必然』＜国民学術選書 6＞中央公論社、1943年3月25日
- 『建設倫理学』早稲田大学出版部、1943年8月14日
- 『世界共和制への必然及び必要』文明協会、1946年6月10日
- 『世界人權の原則』研進社、1947年1月25日[評論集]
- 『人間の自由(特にユネスコの将来にささぐ)』＜友愛叢書 第1輯＞友愛研究会、1948年2月15日
- The religion universally needed: The first requisite for world citizenship*, Waseda university, 1963.

2. 共著

プラグマティズム講話『早稲田文学社文学普及会講話叢書 第五編』文学普及会、1914年9月25日<杉森南山>

最近哲学界の諸潮流『最近哲学の進歩』尼子止編、大日本学術協会、1920年3月25日

プラグマティズム講話『文芸百科要義 上巻』相馬御風・中村星湖編、春陽堂、1921年1月1日

常識の最低限必要としての普通選挙『識者の見たる普通選挙』永井柳太郎編、自由活版所、1921年3月25日

現代婦人と近世思想『新婦人問題』<婦人問題講演集 6>石川六郎編、民友社、1921年8月1日

詩に対するわたくしの観念『忘れた顔』大藤治郎著、玄文社詩歌部、1922年5月15日

この巻及びその原著の推薦『社会学』マッキーヴァ著・井上吉次郎訳、早稲田大学出版部、1922年5月25日

日本再造の原則『新日本の建設』小松謙助編、岩波書店、1922年6月10日

新時代の修行『実業教育現代補習読本 後期用 卷二』峰間信吉編、宝文館、1922年9月4日

公刑の権威とそれの根柢思想[1923年10月22日]『問題の人甘粕正彦』山根倬三著、小西書店、1924年3月30日[初出不詳]

一社会機能としての新聞『新聞総覧 昭和二年』日本電報通信社、1927年6月25日

*現代文化の批判的研究『早稲田大学政治経済講義 1』早稲田大学出版部、[1927年]<佐賀県立図書館所蔵>

最善級の社会思想読本『産業文明の前途』B.ラッセル著・塚越菊治訳、早稲田大学出版部、1928年4月29日

最近のいはゆる思想善導を論評す『思想善導論』<『教育学術界』臨時増刊>モナス、1928年11月1日
[『教育改造と社会改造』収録。復刻版『思想善導論』<日本教育史基本文献 史料叢書 7>(大空社、1991年)収録]

序『社会科学辞典』杉森孝次郎編、社会思想研究所、1929年10月20日

イデオロギーの発生(道徳)『岩波講座哲学 社会史的思想史』岩波書店、1931年12月30日

一挙にして碑文且つ預言書たるべきもの『偉人伝全集』[内容見本]改造社、[1931年7月から刊行]

必要は発明の母『日本文学大全集』[内容見本]改造社、[1931年]

婦人解放の生命線[巻頭言]『婦人公論大学 婦人問題篇』中央公論社、1932年2月12日

歴史と英雄『歴史の諸問題』理想社出版部、1932年4月1日

社会主義の倫理学『岩波講座教育科学』[第13冊]岩波書店、1932年10月17日

大塚氏の新著『移植民と教育問題』の稿を読み『移植民と教育問題』大塚好著、刀江書院、1933年2月22日

戦争の倫理『戦争論』理想社出版部、1933年5月25日[普及版、1936年]

中野令夫人の追憶『追思』猶興居編<中野多美子追憶録、非売品>1934年10月7日

人間道に於て世界に當れ『「世界を明るくせよ」日本はかく叫ぶ』国際日本協会出版部、1934年12月7日

東郷元師と發展的日本『世界之東郷元帥』世界之東郷元帥編纂会、1934年12月31日

新日本国民同志会創立ニ対スル祝賀及希望ノ辞『新日本主義の提唱』高広三郎著、友生書院、1935年8月20日

志見君の業、志、人及び社会『明治初期に於ける高山県の政治学的研究』志見正次著、高陽書院、1937年10月31日[国会図書館所蔵版では11月18日と訂正]

最近の國際情勢を論じて志見君の靈に捧ぐ『志見正次君追憶集』故志見正次遺稿刊行会編・刊、1937年12月30日

現代と権威『社会学 第六輯』<日本社会学会年報>、1938年12月26日

東亜新民族主義『全体主義政策綱領』中野正剛・杉森孝次郎編、育生社、1939年2月20日

戦争と教育『若き教師に与ふ』小学館、1939年7月20日[復刻：『昭和前期「教師論」文献集成 第22巻』（ゆまに書房、1993年）収録]

大国民論・全人教育論—についての座談会—『大国民論・全人教育論』<国民学校研究叢書第3巻>小原国芳編、玉川学園出版部、1940年8月1日[座談会：長谷川如是閑、小野源蔵]

自学自習論『自学自習論・個性尊重論』<国民学校研究叢書第5巻>小原国芳編、玉川学園出版部、1940年9月10日

個性尊重論『自学自習論・個性尊重論』<国民学校研究叢書第5巻>小原国芳編、玉川学園出版部、1940年9月10日

序言『現代アメリカの經濟及文化』白揚社、1940年12月15日

戦後の世界大勢 三大ブロック体制へ『新体制と今後に来るもの』統制經濟研究所編、東亜書院、1940年11月10日

戦後の世界大勢 三大ブロック体制へ『新体制下日本はどうなる』東亜書院、1941年4月3日

世界情勢の歴史哲学的分析『国民学術協会公開講座 第1輯』中央公論社、1941年6月8日

序 野口教授のエジソン伝を送る『人間エジソン』フランシス・アーサー・ジョーンズ著・野口勇訳、世界堂、1941年9月20日

序『世界政治研究』世界政治研究会編、中央公論社、1941年12月31日

追序『世界政治研究』世界政治研究会編、中央公論社、1941年12月31日

世界政治研究の時務性『世界政治研究』世界政治研究会編、中央公論社、1941年12月31日

討米英の必然『日・米英決戦の展開』日本評論家協会編、元元書房、1942年1月20日

革新期の政治理念『現代政治の革新論』<現代日本政治講座 第2巻>昭和書房、1942年4月10日

大東亜政治の基礎構想『綜合文化講座 大東亜政治の構想』日本評論家協会編、日本出版社、1942年6月30日

序『日本学生の理念』[編]同文館出版、1942年9月5日

大東亜建設戦と青年学徒『日本学生の理念』[編]同文館出版、1942年9月5日

村上正好君とその新著[序文]『アメリカの現状分析』村上正好著、興亜書房、1942年9月20日

序—清水さんの人物及び思想—『清水芳太郎全集 第一巻』増進堂、1942年10月5日
英国社会思想の動向『崩れ行く英帝国二十年史』毎日新聞社編・刊、1943年2月15日
国際関係学研究の時務性『国際政治の分析』伊藤安二著、六人社、1943年5月25日
大東亜共栄圏と民族問題『日本民族論』＜民族科学大系 9＞帝国書院、1943年12月25日
序『大東亜戦争と世界』世界政治研究会、中央公論社、1944年7月1日
大東亜戦争の世界史的必然『大東亜戦争と世界』世界政治研究会、中央公論社、1944年7月1日
現代民族論の課題『民族の理論』＜民族科学体系 1＞民族科学研究所編、育英出版、1944年11月15日
民主主義の哲学『民主主義大講座 第1巻』日本正学館、1946年7月15日
民主主義と教育『民主主義大講座 第4巻』日本正学館、1947年11月25日
善『世界哲学講座 第7』日本哲学会編、光の書房、1948年6月30日
国際政治『輿論と政治』＜社会学大系 第12巻＞田辺寿利編、国立書院、1948年11月10日[石泉社、1954年]
浮田先生を敬憶す『浮田和民先生追懐録』故浮田和民先生追懐録編纂委員会編・刊(非売品、1948年12月25日)
王堂氏の『福沢諭吉』と日本の将来『王堂選集 第2冊 福沢諭吉』関書院、1949年1月1日
福沢諭吉『近代日本の教養人 日夏耿之介博士華甲記念文』辰野隆編、実業之日本社、1950年6月1日
政治篇『新日本建設大観』小貫修一郎編、神港新聞社、1952年10月10日[多数の地方新聞社から刊行]
『二宮尊徳の哲学』と服部君『二宮尊徳の哲学』＜現代教養文庫 41＞服部弁之助著、社会思想研究会出版部、1952年12月17日
知性の人『中野正剛は生きている』正剛会編、あけぼの社、1954年6月1日
[相馬御風宛書簡 9 通]『相馬御風宛書簡集Ⅱ』相馬御風記念館編、糸魚川市教育委員会、2006年3月31日

刊行年未詳

*今日及び明日の生活の理想的原則としての倫理学『文学科叢書』早稲田大学出版部

*新時代が要求する社会観『文学科叢書』早稲田大学出版部

3. 評論等(新聞・雑誌掲載)<1757 篇>

1906 (明治 39) 年

カント哲学より見たる陽明学[「雑纂」]『早稲田学報』134、135、6月1日、7月1日

網島梁川氏を訪ふ『早稲田文学』8、8月1日

1907 (明治 40) 年

読伝習録『早稲田文学』13、1月1日

昨今の文芸対道徳論に因みて『早稲田文学』15、3月1日

我が民族性と音楽『早稲田文学』20、7月1日<白松>

教育界『早稲田文学』20、7月1日<白松>

『ヒューマニズム研究』を讀みて『早稲田文学』22、9月1日<白松南山>

教育界『早稲田文学』22、9月1日<白松>

価値意識の放漫『早稲田文学』24、11月1日<白松>

真理の本性『早稲田文学』24、11月1日<白松南山>

プラグマティズムと新自然主義『早稲田文学』25、12月1日<南山>

1908 (明治 41) 年

哲学上の自然主義『早稲田文学』26、1月1日<白松南山>

早稲田哲学界記事『早稲田文学』27、2月1日<南山>

新文芸の重大なる一任務『早稲田文学』29、4月1日<南山生>[目次では<白松南山>]

哲学会の記『早稲田文学』30、5月1日<南山>

不可思議力のみなもと『早稲田文学』33、8月1日[『シュトルツとシヤーム』、『神になる意志』収録]<南山生>[目次では<白松南山>]

感じ、こゝろもち及び風『早稲田文学』34、9月1日<南山生>[目次では<白松南山>]

気分を尊重するの説『早稲田文学』36、11月1日[『シュトルツとシヤーム』、『神になる意志』収録]<南山生>[目次では<白松南山>]

1909 (明治 42) 年

先づ虚栄心を去れ[「教学評論」]『早稲田文学』41、4月1日[『シュトルツとシヤーム』、『神になる意志』収録]<白松南山>

プラグマティズムに於けるジェエームス氏とシラー氏との根本的相違[「研究」]『早稲田学報』170、4月5日

四月の教学界『早稲田文学』42、5月1日<南山生>

六月の教学界『早稲田文学』44、7月1日<<南山生>>[「無題録」と改題、『シュトルツとシヤーム』収録]

八月の教学界『早稲田文学』46、9月1日<<白松南山>>[「無題録」と改題、『シュトルツとシヤーム』収録]

全我的気分心持本位の態度『早稲田文学』47、10月1日<<白松南山>>[『シュトルツとシヤーム』、『神になる意志』]

印象録『早稲田文学』47、10月1日<<南山>>

十月の教学界『早稲田文学』48、11月1日<<白松南山>>

現実の語義と中味[「現実とは何ぞや」]『文章世界』4-15、11月15日<<白松南山>>[「何が現実であるか」と改題、『シュトルツとシヤーム』、『神になる意志』収録]

印象録『早稲田文学』49、12月1日<<南山>>

1910 (明治 43) 年

大西操山論『早稲田文学』50、1月1日<<白松南山>>

当来の新哲学『早稲田文学』21-1、1月1日<<白松南山>>

丘氏の「人類の将来」を読んで[白松南山]『早稲田文学』52、3月1日<<白松南山>>[『シュトルツとシヤーム』、『神になる意志』収録]

最深要求の事実化の態度『早稲田文学』57、8月1日<<南山生>>[『シュトルツとシヤーム』、『神になる意志』、『英雄論』収録]

道德家と勝利者『早稲田文学』58、9月1日<<南山生>>[目次では<<白松南山>>][『シュトルツとシヤーム』、『神になる意志』、『英雄論』収録]

オイッケン論『早稲田文学』59、10月1日<<白松南山>>

逝けるジェームス『読売新聞』10月2、4日

世界的責任を自覚せる自力主義『大崎学報』15、11月15日<<白松南山>>

1911 (明治 44) 年

藤井氏の『主観道德学要旨』を読んで『早稲田文学』68、7月1日[『シュトルツとシヤーム』収録]

『書齋より街頭に』を読んで『早稲田文学』70、9月1日<<白松南山>>[『シュトルツとシヤーム』、『神になる意志』収録]

プラグマティズム講話『早稲田文学』71、10月1日<<白松南山>>[『シュトルツとシヤーム』、『神になる意志』、『早稲田文学社文学普及会講話叢書 第5編』(文学普及会、1914年9月)収録]

1912 (明治 45・大正元) 年

光彩ある世界[「文芸」]『読売新聞』1月24日<<南山>>[『シュトルツとシヤーム』、『神になる意志』収録]

道德の権威『東洋時論』3-3、3月1日[『シュトルツとシヤーム』、『神になる意志』収録]

神になる意志『早稲田文学』77、4月1日<<白松南山>>[『シュトルツとシヤーム』、『神になる意志』、『英雄論』収録]

1913（大正2）年

去年の思想界に就ての断感[「雑録」]『丁酉倫理会倫理講演集』125、1月10日<<南山生>>[『シュトルツとシヤーム』、『神になる意志』収録]

批評家の道義的精神其他[談]『秀才文壇』13-5、5月1日<<白松南山>>

1918（大正7）年

英国より一世界形勢我観『東方時論』3-3、3月1日

英国通信『東方時論』3-4、4月1日

英国より(世界形勢我観)『東方時論』3-5、5月1日

英国の新教育法令『大阪朝日新聞』12月15~18、19~21日[『東京朝日新聞』12月20、22~26日。『人類の再生』収録]

1919（大正8）年

世界に奉公する志『東方時論』4-1、2、4、6、1月1日、2月1日、4月1日、6月1日[『人類の再生』収録]

英国の新国会『東京朝日新聞』2月17日[『大阪朝日新聞』2月18日]

戦後の英国婦人界[「よみうり婦人付録」]『読売新聞』5月7~9日

英国の哲学[談]『時事新報[夕刊]』5月8日

大戦乱を背景としたる国民主義と世界主義[談]『二六新報』5月15日

近来の英国婦人の傾向 東西婦人の相違点『婦人週報』5-19、5月16日

眞の哲学者と道徳国[談、「思想と科学」]『読売新聞』5月18、20日

戦後の英国婦人界『廓清』9-5、5月31日

社会改良の原則『中国民報』5月31日

講和会議と人格主義能力主義に依る世界の改造[「講和条約の基本的考察と将来の世界的変局に対する日本の国是」]『改造』1-3、6月1日

競争相手としての英国人に対する準備『実業之日本』22-12、6月1日

国際連盟の真相と英国の日本観『新小説』24-6、6月1日

英国教育界の現状『創造』<『教育実験界』改題後継誌>40-6、6月1日

国民主義と世界主義『大観』2-6、6月1日[『人類の再生』収録]

英語国民の将来と能力総動員[「英米両国の世界優越主義に対して」]『中外新論』3-6、6月1日[「英米両国の新地歩」と改題、『人類の再生』収録]

願望の巷に立ちて[「思ふが儘に」]『東方時論』4-6、6月1日[『人類の再生』収録]

欧羅巴で持囃さるゝ日本文明『有効乃活動』5-6、6月1日

時局問題『早稲田文学』163、6月1日

戦後の英国婦人界『布哇報知』6月9、10、12日

大戦の思想界に及ぼせる影響『太陽』25-8、6月15日[『人類の再生』収録]

社会主義の長短[「社会主義批判」]『改造』1-4、7月1日

産業戦の相手国と対策『国産時報』4-7、7月1日

講和会議の中心勢力たる英米二国の対外的魂胆『実業之日本』22-14、7月1日

改造と制度『青年雄弁』4-7、7月1日

戦時の英国観『太陽』25-9、7月1日[「アスクォイスよりロイド・ジョージへ」と改題、『人類の再生』収録]

社会改良の原則『哲学雑誌』389、7月1日[「社会改造の原則」と改題、『人類の再生』収録]

デモクラシーの本義[「思ふが儘に」]『東方時論』4-7、7月1日[『人類の再生』収録]

英国の婦人参政権運動『婦人公論』4-7、7月1日[『人類の再生』収録]

デモクラシーに対する倫理的考察『丁酉倫理会倫理講演集』203、7月10日[『人類の再生』収録]

労働問題の核心『中央公論』34-8、7月15日[『人類の再生』、『新思想の解剖 第二』(教文社、1922年)収録]

教育上のデモクラシ『解放』1-3、8月1日[『人類の再生』収録]

改造後の世界に起る四大問題『実業之日本』22-16、8月1日

英国婦人界の一瞥『女学世界』19-8、8月1日

各能本位の全体的組織の政治の創造『新時代』3-8、8月1日

カイゼル処罰問題[「カイゼル審判問題」]『中央公論』34-9、8月1日[『人類の再生』収録]

産業界改造の原則としての特殊化と組織化『東方時論』4-8、8月1日[『人類の再生』収録]

*サボタージュ同盟『内外時論』8-11、8月1日

安定と進歩『雄弁』10-9、8月1日

最近の英国[於第8回時局研究会]『時局の研究』7、8月10日

値上げと時間 労働組合が出来ねば労働運動は徹底せぬ[談]『日布時事』8月14日

労働者の道徳的責任『実業之日本』22-17、8月15日

*望ましき聖人の心と英雄の手『中学生』4-1、9月1日

改造の哲学『東方時論』4-9、9月1日[『人類の再生』収録]

同盟罷工に対する倫理的考察[「労働組合同盟罷工研究」]『改造』1-6、9月1日

労働問題の徹底[「国民生活の危機」]『経済時報』199、9月1日

英国の常設産業会議[「労資の協同」]『実業之日本』22-18、9月1日

同盟罷業の倫理的批評[「同盟罷業の頻発に就て」]『太陽』25-11、9月1日

資本主義と社会主義『中外新論』3-9、9月1日

倫理的批判[「労働問題の倫理的批判」]『東亞之光』14-9、9月1日

ロシヤ問題[「時評」]『東方時論』4-9、9月1日

新道徳の三要素『文章世界』14-9、9月1日[『新思想の解剖 第二』(教文社、1922年)収録]

組合の設立は焦眉の急務也[談、「労働組合問題」]『国民新聞』9月21、22日

問ふ生活の目的は何ぞ[「時代の新目標『能率主義』の宣伝」]『実業之日本』22-20、10月1日

労働問題は如何に帰着する『新公論』34-10、10月1日

倫理上より観たる世界改造『大観』2-10、10月1日[『人類の再生』収録]

個人策及び国策としての聖雄主義『中央公論』34-11、10月1日[『人類の再生』収録。「聖雄主義」と改題、
『英雄論』収録。「聖雄主義の提唱」と題して『新公論』34-11、11月1日に抄録]

最近の英国[「説苑」]『東亜之光』14-10、10月1日

新国民主義『東方時論』4-10、10月1日[『人類の再生』収録]

時評[以下3篇:「女子の外遊」「言論の自由」「労働使節に餞す」]『東方時論』4-10、10月1日

社会悲劇解決の根本義—人間性の改造に在り—『婦人公論』4-10、10月1日[「社会悲劇と人間性」と改題、
『新社会の原則』収録]

[「生活改造は何より着手すべきか」]『婦人之友』13-10、10月1日

最近に於ける英国婦人界の傾向『婦人問題』3-4、10月1日

予の提唱する国民主義『有効乃活動』5-10、10月1日

常識の改造『早稲田文学』167、10月1日

英米関係の表裏『公論』1-1、10月13日

日本改造の第一義『太陽』25-13、11月1日

国民精神生活の改造[「生活の現状打破」]『改造』1-8、11月1日

教育の改造と社会運動『教育論叢』2-5、11月1日

労働組合問題—焦眉の急也『経済時報』200、11月1日

時評[以下5篇:「諸学校に哲学科を設けよ」、「国際生活の新要素としての飛行船」、「労働者教育の設備」、「プロパガンダ」、「英国の新外相」]『東方時論』4-11、11月1日

新国家哲学の必要『東方時論』4-11、11月1日[『新社会の原則』収録]

最近世界思想界ノ中枢問題[1919年9月20日講演(於校友会講演会)]『千葉医学専門学校校友会雑誌』116、
11月15日

労働者参政の基礎『解放』1-7、12月1日

真の哲学者と道徳国『教育学術界』40-3、12月1日

内政及外交上より見たる労働問題[「我国の政治及外交上より見たる労働問題」]『新時代』3-12、12月1日

時評 独語と対話[以下6篇:「新宗教の準備」「米露を知れ」「仏総選挙の結果を理解せよ」「学校哲学の隠居」
「任用令を雙廢せよ」「普選運動者に告ぐ」]『東方時論』4-12、12月1日

筋肉労働と頭脳労働『東方時論』4-12、12月1日[『新社会の原則』収録]

1920（大正9）年

- 政治の新原則『大阪毎日新聞』1月1～5日[『新社会の原則』、『国家の明日と新政治原則』収録]
- 混沌たる現在の思想批判と国家として取るべき方針[「健全思想の樹立」]『実業之日本』23-1、1月1日
- [「現代名士の社会主義観」]『新公論』35-1、1月1日
- 英国民の将来『信州』2-1、1月1日
- ラッセルとその主張の批判的解剖『太陽』26-1、2、1月1日、2月1日[『新社会の原則』収録]
- 国家哲学の更新[「各方面に於ける世界改造の新基礎」]『中央公論』35-1、1月1日[『新思想の解剖 第一』(教文社、1922年)、田中浩編『近代文明批判「国家」の批判から「社会」の批判へ』<思想の海へ10>(社会評論社、1990年12月)]
- 新現象と新人物『東方時論』5-1、1月1日[『新社会の原則』収録]
- 懺悔の価値『婦人公論』5-1、1月1日[『新社会の原則』収録]
- デモクラシイと宗教『雄弁』11-1、1月1日[『新社会の原則』収録]
- 婦人労働問題の高唱『神戸新聞』1月4日
- [「新年の生活改善」]『婦女新聞』1024、1月4日
- [「新時代の教育に任ずべき今後の教育者に与ふる言葉」]『教育時論』1250、1月5日
- 新時代に生きんとする婦人の覚悟『婦女新聞』1025、1月11日
- *根本的の改革『青年改造』1-2、2月1日
- 西伯利亚駐兵是非『中央公論』35-2、2月1日
- 森戸氏問題を機会として教育の目的と行政の真義を論ず『東方時論』5-2、2月1日[『新社会の原則』収録]
- 普通選挙実現上の重要問題『実業之日本』23-4、2月15日
- 国家の新意義『大阪朝日新聞』2月19～22日[『新社会の原則』収録]
- 文芸の使命は何『時事新報』2月21日(『大阪時事新報』2月24日)
- 自治の愛護と国際心[「この改造期にはどんな内閣が現はれねばならぬか」]『新時代』4-3、3月1日
- 思想問題についての国民の心得べき条件[「思想問題に対する司法官憲の態度」]『中央公論』35-3、3月1日[『新社会の原則』、『国家の明日と新政治原則』収録]
- 時評[以下2篇:「中学を改新せよ」、「天才保護の国策を立てよ」]『東方時論』5-3、3月1日[「中学の改新、天才保護の国策」と改題、『新社会の原則』収録]
- 最近世界の革命的傾向(その意義及び善導策)『東方時論』5-3、3月1日[『新社会の原則』、『国家の明日と新政治原則』収録]
- 解散後の希望[「議会解散表裏」]『東方時論』5-3、3月1日
- ロイド、ジョージに因みて『信州』2-3、3月3日
- 個性、組合、社会(新時代の政治の要件)『中央公論』35-4、4月1日[『新社会の原則』収録]
- 生存競争説と相互扶助説『中央公論』35-4、4月1日[「生存競争と相互扶助」と改題、『新社会の原則』収録]

政治の新常識『東方時論』5-4、4月1日[『新社会の原則』収録]

時評[以下2篇:「ドイツのやり返し何を警告するか」、「政見と人物に注意せよ」]『東方時論』5-4、4月1日

国家と思想問題[2月7日森戸氏筆禍事件大講演会記事]『文化運動』111、4月1日

如何なる程度の変化[「百年後の日本 どうなるか」]『日本及日本人』780、4月5日

クロボトキンの哲学倫理[「クロボトキン著作総評」]『改造』2-5、5月1日[『新社会の原則』収録]

現今思想界の主要問題『小学校』29-4、5月1日

国際盲の受くべき禍果『新時代』4-5、5月1日

世界の犬勢と政治家『実業之世界』17-5、5月1日

政友会が絶対多数党となつたら『中央公論』35-5、5月1日

時評[以下5篇:「国際的社会を注視せよ」「女子の新修養としての社会科学と政治」、「教育組合の首途に饒す」「居留民を引きあぐべし」、「現内閣の前途」]『東方時論』5-5、5月1日

教育の本場と学校『婦人之友』14-5、5月1日

総選挙に現れたる我國民の政治思想批判『実業之日本』23-11、6月1日

選挙競争の倫理的批判『太陽』26-6、6月1日

ドイツの明日[「新独逸の研究」]『中央公論』35-6、6月1日

審議会に望む[「総選挙の後はどうなる?」]『東方時論』5-6、6月1日

新社会と新宗教『東方時論』5-6~9、6月1日、7月1日、8月1日、9月1日[『新社会の原則』収録]

新政府の踏みだし[「普選遂行、言論圧迫、民衆反抗」]『改造』2-7、7月1日

新社会主義へ進め『中央公論』35-8、7月15日[『新社会の原則』収録]

新国家哲学より観たる教育[文責在記者]『教育時論』1273、8月25日

新時代が必要とする教育方針[「新時代に適應すべき新教育」]『改造』2-9、9月1日[『新社会の原則』収録]

正及び善の原則を論じて社会主義と国際連盟に希望す『中央公論』35-10、9月1日[『新社会の原則』、『国家の明日と新政治原則』収録]

時代の背景と新著—コール氏の社会論その他[「時代と新著」]『東方時論』5-9、9月1日

奇蹟と予言[「自由思想家の宗教観」]『大観』3-10、10月1日[『新社会の原則』収録]

新経済人のスケッチ[「不景気の国民生活及国民思想に及ぼす影響と教訓」]『中央公論』35-11、10月1日[『新社会の原則』収録]

職業自治と地方自治『東方時論』5-10、10月1日

デュリコー提督著『グラント・フリート』—ヂャットランド海戦批判[「時代と新著」]『東方時論』5-10、10月1日

新国家観『早稲田文学』179、10月1日[『新社会の原則』収録]

信仰の生活より無信仰の生活へ『実業之日本』23-19、10月1日[『新社会の原則』、『英雄論』収録]

新国家観[「学説」]『早稲田学報』308、10月10日
現下文壇に寄す[「文芸」]『時事新報[夕刊]』10月14日
絶食自殺を執行せる市長の死に方[「日曜付録」]『読売新聞』10月31日
行き悩む国際主義の行進曲『東方時論』5-11、11月1日[『新社会の原則』、『国家の明日と新政治原則』
収録]
聡明なる女性美の獲得へ[「『女子教育の社会化』を提唱す」]『婦人公論』5-11、11月1日[「聡明なる女性
美」と改題、『新社会の原則』収録]
新時代の理想的原則序説『中央公論』35-13、12月1日[『新社会の原則』収録]
問はぬが花[「地方講演について感ずる事」]『中央公論』35-13、12月1日
発明を信ずる制度、習慣『東方時論』5-12、12月1日[『新社会の原則』収録]

1921 (大正 10) 年

信州大学を設立せよ『信州』3-1、1月1日
歴史価と論理価の社会的調節『太陽』27-1、1月1日[『新社会の原則』収録]
民族的団結と思想的団結『中央公論』36-1、1月1日[『新社会の原則』収録]
偉大なる日本、世界を創作する決意[「巻頭言」]『東方時論』6-1、1月1日[『社会人の誕生』収録]
問題、運動、傾向と社会『東方時論』6-1、1月1日[『新社会の原則』収録]
中央集権の分裂進化と第三社会への途『東京朝日新聞』1月1日(『大阪朝日新聞』1月7日)[『新社会の
原則』収録]
女子教育と文化『婦人之友』15-1、1月1日[『新社会の原則』収録]
新民主主義の極致『京都日出新聞』1月1、2日
現代青年の心の解剖『実業之日本』24-3、2月1日[「現代青年の心理」と改題、『社会人の誕生』収録]
旧囊新酒から新酒新囊へ『大観』4-2、2月1日[『社会人の誕生』収録]
武力主義と戦ふ文化主義の楯の寸進[「自国本位主義対国際協同主義批判」]『中央公論』36-2、2月1日[『社
会人の誕生』収録]
中央集権の分裂進化の終点と軌路[「巻頭言」]『東方時論』6-2、2月1日
新意思の政治団の出現を望み、併せて機能代表制の実試を勧む『東方時論』6-2、2月1日[『社会人の誕
生』収録]
機能代表制と組合の創始価[「日曜論壇」]『国民新聞』2月6日[『社会人の誕生』収録]
国民が希望すべき文相、内閣[「社会現象批判」]『改造』3-3、3月1日[『社会人の誕生』収録]
思想と表現との関係の一瞥『新文学』16-3、3月1日
思想備の充実を先要条件とする軍備の充実[「尾崎学堂の軍備制限論批判」]『太陽』27-3、3月1日[『社会
人の誕生』収録]
婦人問題の論理『中央公論』36-3、3月1日[『社会人の誕生』、『教育改造と社会改造』収録]

新ノブレス・オブリージの創造[「労働者道確立の提唱」]『中央公論』36-3、3月1日[『社会人の誕生』収録]

強兵以上の国策[「巻頭言」]『東方時論』6-3、3月1日[『社会人の誕生』収録]

社会進歩の原因としての組合の価値『東方時論』6-3、3月1日[『社会人の誕生』、『国家の明日と新政治原則』収録]

政治的英国の昨今と明日[「世界政治思想の横断面」]『大観』4-4、4月1日[『社会人の誕生』収録]

個性主義の社会的徹底『中央公論』36-4、4月1日[『社会人の誕生』、『国家の明日と新政治原則』収録]

言論圧迫の社会的損失[「我が憲政を阻害する憂ふべき近時の諸現象」]『中央公論』36-4、4月1日[『社会人の誕生』収録]

花相似、人不同[「巻頭言」]『東方時論』6-4、4月1日

民族自決の新原則批評『東方時論』6-4、4月1日

批評の対象としての余地[「日本婦人の美点としての貞操の根拠」]『婦人公論』6-4、4月1日[「貞操の根拠」と改題、『社会人の誕生』収録]

最近社会思潮の二大特徴としての国家の新位置と中央集権の分裂進化『雄弁』12-4、4月1日

*個性と社会との関係の考察『台湾日日新報』4月15～23日[神戸大学附属図書館新聞記事文庫]

教育者組合を欲する理由[「教育者組合の提唱」]『改造』3-5、5月1日[『社会人の誕生』収録]

自己及び経済的生活に対する認識評価の確立[「政治道徳・社会道徳の根本的革新の機」]『中央公論』36-5、5月1日[『社会人の誕生』収録]

頑守、盲進、研究[「巻頭言」]『東方時論』6-5、5月1日[『社会人の誕生』収録]

産業不安考察の背景『東方時論』6-5、5月1日[『社会人の誕生』、『国家の明日と新政治原則』収録]

哲学討論会の勇者[「ラッセル氏の印象」]『雄弁』12-5、5月1日

社会理想の思索[「学説」]『早稲田学報』315、5月10日[『社会人の誕生』収録]

現代日本の思想界『解放』3-6、6月1日[『社会人の誕生』収録]

迷信打破と軽信予防[「思想家の見た十年後の日本」]『改造』3-6、6月1日[『社会人の誕生』収録]

産業的英国の危機と希望『大観』4-6、6月1日[『社会人の誕生』収録]

亜米利加対世界問題観[「米国の対世界的態度批判」]『中央公論』36-6、6月1日[『社会人の誕生』収録]

闘争本能の芸術化、道徳化[「競技・勝負事・闘争の心理と其人生的意義」]『中央公論』36-6、6月1日[『社会人の誕生』収録]

社会理想学の創設[「巻頭言」]『東方時論』6-6、6月1日[『社会人の誕生』収録]

ホイットリ案とギルド主義との消長の社会的警告『東方時論』6-6、6月1日[『社会人の誕生』、『国家の明日と新政治原則』収録]

常識の価値『実業之日本』24-13、7月1日[『社会人の誕生』収録]

民族戦と階級争 其意義及対策『信州』3-7、7月1日

思想備と軍備[「軍備は制限すべきか」]『寸鉄』3-7、7月1日

現代英国国民の生活享楽[「生活享楽の種々相」]『大観』4-7、7月1日

社会の発見『中央公論』36-7、7月1日[『社会人の誕生』、『国家の明日と新政治原則』収録]
 個性と社会との関係の考察『丁酉倫理会倫理講演集』227、7月1日[『社会人の誕生』収録]
 都無学校の教育を実験せよ[「巻頭言」]『東方時論』6-7、7月1日[『社会人の誕生』収録]
 革命の優等代用価『東方時論』6-7、7月1日[『社会人の誕生』収録]
 都市及田園『中央公論』36-8、7月15日[『社会人の誕生』収録]
 経済と倫理の接点『東京朝日新聞』7月20～24、26～29日[『大阪朝日新聞』7月31日、8月1～4日。
 『社会人の誕生』、『国家の明日と新政治原則』『新思想の解剖 第一』(教文社、1922年)収録]
 ペルリ再来か[「巻頭言」]『東方時論』6-8、8月1日[『社会人の誕生』収録]
 週制の社会価[「週制度創設の提唱」]『改造』3-9、8月1日
 社会改造と支配階級の態度[「頑迷なる貴族、富豪、官僚の頭の改造」]『太陽』27-10、8月1日[『社会人の誕生』収録]
 国際関係に於ける感情、利害、正義の力『中央公論』36-9、8月1日[『社会人の誕生』収録]
 人口問題の新常識『東方時論』6-8、8月1日[『社会人の誕生』、『国家の明日と新政治原則』収録]
 都市の芸術化『国粹』2-9、9月1日
 日本人の生存権『中央公論』36-10、9月1日[『社会人の誕生』、『国家の明日と新政治原則』収録]
 人的要素の普認と労働概念拡充[「プロレタリアの専制的傾向に対するインテリゲンツィアの偽らざる感想」]『中央公論』36-10、9月1日[『社会人の誕生』収録]
 国内的及び国際的自治区改正の準備[「巻頭言」]『東方時論』6-9、9月1日[『社会人の誕生』収録]
 わが国の位置『東方時論』6-9、9月1日[『社会人の誕生』収録]
 自治と責任と創造『日本乃関門』74、9月11日
 支那の国際管理観[「時評」]『改造』3-11、10月1日[『社会人の誕生』収録]
 現代の哲学[「改造の世界を率ふべき新哲学」]『大観』4-10、10月1日[『社会人の誕生』収録]
 飽かず高稀な熱の自覚へ[「人生の真味と哲学的教養及び宗教的信念」]『中央公論』36-11、10月1日[『社会人の誕生』、『英雄論』収録]
 国際魔刀の前夜[「巻頭言」]『東方時論』6-10、10月1日[『社会人の誕生』収録]
 華府会議出発の功過『東方時論』6-10、10月1日[『社会人の誕生』収録]
 性的衝動の崇高化『婦人公論』6-11、10月1日[「性的衝動」と改題、[『社会人の誕生』収録]
 人間生活の根本義『雄弁』12-10、10月1日[『社会人の誕生』収録]
 白、黄、黒人の本質的社会合作『改造』3-12、11月1日[『社会人の誕生』、『国家の明日と新政治原則』収録]
 窮死の露にさへも劣る余裕[「教育費削減批判」]『改造』3-12、11月1日[『社会人の誕生』収録]
 [「文芸院設立の是非と希望」]『新潮』35-5、1921年11月1日
 性別価と人同価の真認識[「性的新道德の提唱」]『大観』4-11、11月1日[『社会人の誕生』収録]
 わが使節の一要件[「巻頭言」]『東方時論』6-11、11月1日

現代政治に於ける教育の位置『東方時論』6-11、11月1日[『社会人の誕生』収録]
もう少し深い意味を示して貰ひたかつた[「白蓮女史の絶縁事件」]『婦人公論』6-12、11月1日
人首相の変と後の世界[「原氏兇変の社会的考察」]『改造』3-13、12月1日[『社会人の誕生』収録]
時勢盲及び国際盲からの超進が必要[「高橋内閣批判」]『改造』3-13、12月1日
人間族と文化気候『中央公論』36-13、12月1日
暴力と文化[「闘争気分の凶暴化」]『中央公論』36-13、12月1日
国策の嚮導権を確認せよ[「巻頭言」]『東方時論』6-12、12月1日[『社会人の誕生』収録]
進化的政変の可能『東方時論』6-12、12月1日

1922 (大正 11) 年

間接行動の存在権『改造』4-1、1月1日[『社会人の誕生』、『英雄論』収録]
労働運動と婦人運動の接触点と分岐点『女性同盟』12、1月1日
自治、責任、創造[「現代青年は何を為すべきか」]『寸鉄』4-1、1月1日
個人力と社会力『中央公論』37-1、1月1日『神になる意志』収録
心的革命の創造[「平和思想の普及と徹底の為めに」]『中央公論』37-1、1月1日[『社会人の誕生』収録]
文化主義の国際宣伝[「巻頭言」]『東方時論』7-1、1月1日
義務としての立国『東方時論』7-1、1月1日[『社会人の誕生』、『国家の明日と新政治原則』収録]
文化と女性の本質的關係[「女性文化の建設へ」]『婦人公論』7-1、1月1日
創造を基調とする社会観『雄弁』13-1、1月1日
理性の伴はない危険な発作的誘惑から護る為に常に若い娘には男子との清い社交が必要[談、「若い娘とその母へ与へる言葉」]『読売新聞』1月1日
宗教のあるべき状態[「現代の宗教的傾向についての批判」]『早稲田文学』194、1月1日[『社会人の誕生』収録]
個人の再発見『東京日日新聞』1月10、12、13日
思想家としての侯[談、「隈侯の死 各方面の弔辞」]『東京日日新聞』1月11日
大隈侯を憶ふ 死別の寂しさに変りはない『読売新聞』1月12日
現代思潮の具体的二中心[1921年11月15日於大谷大学開校記念講演会]『合掌』3-2、3、2月1日、3月1日
一人の生産と彼自身『中央公論』37-2、2月1日[『社会人の誕生』、『国家の明日と新政治原則』収録]
国際無軍備と生産立国へ[「華府会議成績批判」]『中央公論』37-2、2月1日[『社会人の誕生』収録]
議会の二重目的[「巻頭言」]『東方時論』7-2、2月1日
未成品としての故大隈侯『東方時論』7-2、2月1日
国力と国位『東方時論』7-2、2月1日[『社会人の誕生』、『国家の明日と新政治原則』収録]

文化生活と婦人の趣味『婦人画報』194、2月1日
 産児制限の可否と論者サンガー夫人の入国の可否に就いて[「日曜付録」]『読売新聞』2月27日
 駅伝政治家と予言政治家[「山県の死と政党・軍閥・官僚」]『改造』4-3、3月1日
 文化生活と婦人の趣味『住宅研究』2-3、3月1日
 新個人主義の可能と階級文化の不可能性『新潮』36-3、3月1日
 強兵の優等代用力が必要[「陸軍縮小論」]『中央公論』37-3、3月1日
 米新興！ 欧再興!! それから? [「巻頭言」]『東方時論』7-3、3月1日[『社会人の誕生』収録]
 主客観の日本と国際現勢『東方時論』7-3、3月1日[『国家の明日と新政治原則』収録]
 亜細亜自治の世界的必要[「巻頭言」]『東洋』25-2・3、3月1日
 分労働と人格価『人と人』2-3、3月1日
 問題の法案と原則心の欠乏『東京日日新聞』3月22日
 愛の哲理[「愛の考察」]『改造』4-4、4月1日[「愛の論理」と改題、『神になる意志』収録、「私の恋愛観」と題して、高須芳次郎編『名文鑑賞読本大正時代』(厚生閣、1937年)抄録]
 新しい男女の貞操観 男女の貞操は双務的でなければならぬ『主婦之友』6-6、4月1日
 社会倫理のある生命点[「新に発見されたる社会の真意義」]『大観』5-4、4月1日『神になる意志』収録]
 国際と思想がわかる内閣へ[「高橋内閣の後を継ぐ者・継ぐべき者」]『中央公論』37-4、4月1日
 問題の法案と立法者の責任[「巻頭言」]『東方時論』7-4、4月1日
 産児問題への一燈『東方時論』7-4、4月1日
 哲人の与ふる力『雄弁』13-4、4月1日[『現代思潮読本 上』(明治書院、1924年5月1日)収録]
 直接行動の合理的意義[「思想上より見たる議会政治」]『時事問題の研究』1-3、4月5日
 若き日本人に対する註文『実業之日本』25-8、4月15日
 *若い女に希望『趣味之婦人』1-4、4月
 英国の社会の左右系『改造』4-5、5月1日
 白人以外の人類の自助を望む『中央公論』37-5、5月1日[『国家の明日と新政治原則』、満月会編『第一人者の評論と随筆』<満月集 第1>(教文社、1924年)収録]
 デモクラシーへの国民主義[「巻頭言」]『東方時論』7-5、5月1日
 選挙区の条件としての地理と職業[「議会改造の批判」]『表現』2-5、5月1日
 産児制限の可否『静岡之友』3-5、5月15日
 詩に対するわたくしの観念[「日曜付録」]『読売新聞』5月29日
 政見熱と政見慾の錯位の矯正[「内閣改造と将来の政局」]『改造』4-6、6月1日
 政治と思想[「巻頭言」]『東方時論』7-6、6月1日
 国民主義の支那、印度及びアメリカ『東方時論』7-6、6月1日[『国家の明日と新政治原則』収録]
 現代啓蒙運動の一標語[「文化生活の研究」]『婦人公論』7-6、6月1日

政党の命脈[「巻頭言」]『東方時論』7-7、7月1日
新内閣と将来[「新内閣の批判」]『東方時論』7-7、7月1日
世界平和と人類愛の現代的方法『中央公論』37-8、7月15日[『神になる意志』収録]
裏返へるべき日本『東方時論』7-8、8月1日
政治の再生『東方時論』7-8、8月1日[『国家の明日と新政治原則』収録]
近代国家の原則と其将来[文責在記者]『国際連盟』2-9、9月1日
経済と倫理との接触点『信州』4-9、9月1日
社会と人の本質的關係『法律及政治』1-5、8、2-1、9月1日、12月1日、1923年1月1日
社会と人の本質的關係『廓清』12-9、9月10日
最近の倫理学[文責在記者]『婦女新聞』1164、9月10日
莫斯科及び全露の益友となつて経済的協力を開始せよ[「労農ロシア承認問題批判」]『改造』4-10、10月1日[『大杉栄・伊藤野枝選集 第6巻』(黒色戦線社、1988年12月20日)収録]
政治の本質を考究して現代国家不安の将来を論定す『中央公論』37-11、10月1日[『国家の明日と新政治原則』収録]
哲学と人生[「生の充実と享楽に資すべき教養と趣味」]『中央公論』37-11、10月1日
秋夜雑想『東方時論』7-10、10月1日
分労の社会的意義『日華公論』9-10、10月1日
新宗教の内容『婦人公論』7-11、10月1日[『神になる意志』、『国家の明日と新政治原則』収録]
死の価値『中央公論』37-12、11月1日
社会進歩に於ける行動と理想との関係『東方時論』7-11、11月1日[『国家の明日と新政治原則』収録]
軍閥の問題『中央公論』37-13、12月1日
一政治学徒の備忘雑録『東方時論』7-12、12月1日

1923 (大正 12) 年

現代の女性及び男性に寄せて婦人問題を考究す『女性』3-1、1月1日
国際公刑と国内私刑[「暴力的団体の存在を黙認する当局の怠慢を糾弾する」]『中央公論』38-1、1月1日
もっと体験ある政治へ『東方時論』8-1、1月1日
人間関係に於ける力の科学の発達『東方時論』8-1、1月1日
*反婦人中心の文化論『婦人界』7-1、1月1日
家庭の送迎[「家庭改造の根本義」]『婦人公論』8-1、1月1日
政治に労働者の意思と体験を輸注する一導管[「日本の労働党問題」]『国民新聞』1月5日
新社会人誕生の前夜の産苦としての現代思潮『サンデー毎日』2-3、1月14日
政治の成長[「評論」]『早稲田大学新聞』6、1月15日[『国家の明日と新政治原則』収録]

社会観の基礎概念と純人生理論『中央公論』38-2、2月1日[「社会観の基礎概念」と「純人生理論」に分割して『国家の明日と新政治原則』収録]

社会と人との本質的關係『朝鮮公論』11-1、1月1日

組合主義に裏づけられべき普選[「普選実行の暁に於ける我政界の新局面の予想」]『中央公論』38-2、2月1日

支那を最も知らない国民『東方時論』8-3、3月1日

現象としての制度と原則としての性情との関係に対する当今流行の錯見『東方時論』8-3、3月1日[『国家の明日と新政治原則』収録]

台湾の近い将来に対する私の希望『台湾』4-3、3月10日

近隣模倣と過去模倣『憲政公論』3-3、3月15日

組合主義『秋田魁新報』4月1日

日露関係の当来[「日露関係開展問題」]『太陽』29-4、4月1日

無政治の発見から社会国家への発明へ『中央公論』38-4、4月1日[『国家の明日と新政治原則』収録]

革命閑話[「極左極右排斥論」]『中央公論』38-4、4月1日

世界政策としての露西亜承認『東方時論』8-4、4月1日

派生的政治文学と創造的政治文学『東方時論』8-4、4月1日

夫妻関係及び親子関係の保有と改作『婦人公論』8-4、4月1日[『国家の明日と新政治原則』収録]

趣味と文化気候『婦人画報』210、4月1日

完全なる政治概念と現代政治『廓清』13-4、4月10日

女性の地位を高めて導くべし妻は夫の大切な益友家政の重責を認めよ[談「婦人と子供」]『日布時事』4月24日

意志の社会的開発と力の爆発[「思想の陰悪化・行動の凶暴化」]『中央公論』38-5、5月1日

現代文化の社会盲『中央公論』38-5、5月1日[『国家の明日と新政治原則』収録]

社会国家へ『東方時論』8-5、5月1日

自照、他照、光りが、人生の最先救主『表現』3-5、5月1日

現代政治と政治概念『憲政公論』3-5、6、5月15日、6月1日

露国承認の意思と方法[「露国承認問題」]『中央公論』38-6、6月1日

根本的恋愛の保護・解散及び正用[「頗々たる性的事件と性道德の新目標」]『中央公論』38-6、6月1日

ポリチカル、イマジネーションの保護と解放[巻頭言]『東方時論』8-6、6月1日

国際友連主義の一着手『東方時論』8-6、6月1日[『露西亜承認論』（東方時論社、1923年6月8日）収録]

不良性の原因の救助[「『現代生活』に漂ふ『不良性』の研究」]『婦人公論』8-6、6月1日

単なる株主とある知識業者『中央公論』38-7、6月15日

自然淘汰に代るべき社会淘汰[「知識階級・無産階級の相互抱合論」]『中央公論』38-7、6月15日

「素人の見たる現代創作並創作家」『改造』5-7、7月1日
人生に於ける恋愛の位置『女性』4-1、7月1日
国家と大学「共産党結社嫌疑検挙事件の厳正批判」『中央公論』38-8、7月1日[『教育改造と社会改造』収録]
国民外交と国民内閣『東方時論』8-7、7月1日
自己決定に於ける奉公的意義の有無『女性改造』2-8[有島武郎追悼号]、8月1日
公営的強制の責任の反省と充実「暴行・脅迫・強請等に対する当局の取締の緩怠を難ず」『中央公論』38-9、8月1日
無教祖主義の宗教と社会を生み育てよ『東方時論』8-8、8月1日
自殺を評価すべき標準『婦人之友』17-8、8月1日
既成宗教の本質的不完全『神風』410、8月11日
必要なのは胆力と創造力 山本伯は其点を備へてる[「山本内閣に対する各方面の批判」]『読売新聞』8月30日
農村の青年に先づ望む一事[「農村青年に与ふ」]『改造』5-9、9月1日
「人生に於ける恋愛の位置」『婦人公論』8-9、9月1日
生残者の責任『改造』5-10、10月1日
国際的、国民的、及び全市民的社会価値ある東京を建てよ[「帝都復興論」]『中央公論』38-11、10月1日
震災と思想と影響は皮殻だが有望だ『読売新聞』10月5日
震災善後に関する婦人の責任『婦人之友』17-10<震災記念>、10月7日[琴乘洞編『朝鮮人虐殺に関する知識人の反応 1』<関東大震災朝鮮人虐殺問題関係史料 3>(緑蔭書房、1996年)収録]
応久策と宮久則『報知新聞』10月13、14日
大震災の意義『我観』1、10月15日
真理に機会を与へる変事の威力『女性』4-5、11月1日
公刑の権威とその根底思想[「大杉殺害事件批判」]『太陽』29-13、11月1日[琴乘洞編『朝鮮人虐殺に関する知識人の反応 1』<関東大震災朝鮮人虐殺問題関係史料 3>(緑蔭書房、1996年)収録]
生産主義の公価及び私価『中央公論』38-12、11月1日
軍人の持つべき常識及び哲学[「時代錯誤なる軍隊思想の革正」]『中央公論』38-12、11月1日
生産主義、供給主義の生起と消費主義、所有主義の廃滅[「未曾有の大震災に遭遇して」]『婦人公論』8-11、11月1日
普選策と絶大区制の国家的必要[「普選問題に面して」]『大阪朝日新聞』11月3日
普選包全策と絶大区制新設の必要[「普選と第三党問題」]『我観』2、11月15日
現代文化の改正を必要とする原則的意識『改造』5-12、12月1日
絶大区制を第一則とする複式選挙区制の爛熟的必要[「選挙区制の問題」]『改造』5-12、12月1日
戦争及び革命の社会的影響と震災のそれ[「戦禍の試練に遭うた欧州と天災の試練に遭うた日本」]『中央公論』38-13、12月1日

1924 (大正 13) 年

- 現代の一標語としての国民外交の反省『我観』3、1月1日
- 社会主義の人性化的反省と哲学の社会化的新生[「日本に於ける社会主義の将来と思想界の趨勢」]『改造』6-1、1月1日
- 英国婦人参政権成立当時の心情と事情に対する回顧及批判[「外国に於ける婦人参政権運動の実情」]『女性改造』3-1、1月1日
- 一票が代表する自己[「普選の実績を挙ぐべく新有権者への言葉」]『中央公論』39-1、1月1日
- 真理愛会場—その国内的及び国際的社会的各文化中心地に於ける新設を提説す—『大阪毎日新聞』1月4～6、8、9日[「真理愛会場の国内的及び国際的社会的各文化中心地に於ける新設を提説す」と改題、『教育改造と社会改造』収録]
- わが民族の文化に於ける原則心の欠乏『時事新報』1月8日
- 政治組織に於ける社会主義及び人格主義の徹底(殊にその貴族院への適用)[「貴族院の改造」]『大阪朝日新聞』1月22、23日
- 純真思想家の社会価『東京朝日新聞』1月30、31日[(上)を『新聞集成大正編年史 大正十三年度版 上ノ上』(明治大正昭和新聞研究会、1986年)収録]
- 原則意識を欠いた政治的善悪[「少数貴族の政治支配」]『改造』6-2、2月1日
- 国民政治とその有限責任の意識の徹底と普及を急げ『我観』4、2月1日
- 社会進歩の純粹原則『中央公論』39-2、3、2月1日、3月1日[『社会進歩の純粹原則』収録]
- 市民の一方を頼む[「帝都復興の財源と地方農村疲弊問題」]『中央公論』39-2、2月1日
- 新時代の家庭の或る根本要件『婦人之友』18-2、2月1日
- 立候補の可否[「総選挙と政界の帰趨」]『我観』5、3月1日
- 現代の日本の教育者の在るべきかたち『児童教育』18-5、3月1日[『教育改造と社会改造』収録]
- 政変の機会価[「紛々擾々なる政界の帰趨如何」]『中央公論』39-3、3月1日
- *外語学修に関するわたくしの経験から『カレント・オヴ・ザ・ワールド』1-6、3月20日
- 愛真本能に対する制度的忠義[「所謂思想善導の真意義」]『中央公論』39-4、4月1日
- 不投票ストライクの価値と投票の要件[「選挙権を如何に行使すべきか」]『改造』6-5、5月1日
- 動機の内質的無差別[「現政府の御味方党と所謂護憲三派対比観」]『中央公論』39-5、5月1日
- 婦人問題の論点『廓清』14-5、5月10日
- 日本の自己保成が必要とする原則的方法『改造』6-6、6月1日
- 総選挙の結果と将来[「総選挙の齎らせる政局の前途」]『我観』8、6月1日
- 第二封建制からの進化的躍脱[「西、露西亜、東、米国の国交善後策」]『中央公論』39-6、6月1日
- 不安恐怖的現代の存在、原因、及び価値『中央公論』39-7、6月15日
- 社会の本質的定義『早稲田大学新聞』38～40、6月25日、7月2、13日
- 新内閣の国民的真価[「加藤内閣と護憲三派の前途」]『改造』6-7、7月1日

国際日本の広さと国内日本の深さとの比較『女性改造』3-7、7月1日

加藤内閣に対する批判と希望[「三派連立内閣に対する批判と希望」]『中央公論』39-8、7月1日

問題としての贅沢[談、「贅沢とは何か」]『読売新聞』7月13日

社会機能としての著作評[「ブックレビュー」]『東京日日新聞』7月21日

贅沢の原則論及び時論[「現代人の生活信条と奢侈贅沢品課税問題」]『中央公論』39-9、8月1日

対米耻憤の方法[「米国の排日立法によつて惹起された我國民の排斥的氣分の批判」]『中央公論』39-9、8月1日

宝石が批評する宝石の客『婦人画報』226、8月1日

散歩の如くに考ふ『婦人公論』9-9、8月1日

消費的生存本能の不完全聡明と生産的生存本能の完全聡明『女性』6-3、9月1日

流行、奢侈、必要の或る理説『女性改造』3-9、9月1日

或る公的規範学としての政治学及び社会学の可能と価値に対する原則的及び時代的考察『中央公論』39-10、9月1日

原則的意義から見なほされべき二問題[「現内閣が未だ手を触れざる二つの問題—貴院改革と農村振興—」]『中央公論』39-10、9月1日

[「予の推薦する市長 知識階級の人々はどんな東京市長を欲するか」]『読売新聞』9月7日

反省と意志に相当する節約と生産[「消極的節約宣伝より積極的生産奨励へ」]『中央公論』39-11、10月1日

現代日本の一人が選ぶ支那観とその或関係意識『改造』6-11、11月1日

不景気を環境としての政変の不可能及び可能[「予算討論によつて暴露された連立内閣の不統一」]『中央公論』39-12、11月1日

目的に対する忠と目的の目的に対する不忠[「警視庁本来の職責とスパイ問題」]『中央公論』39-13、12月1日

1925（大正14）年

人と人との融和に基く国民外交の提唱『植民』4-1、1月1日

深観と先見[巻頭言]『時流』1、1月1日

現代政治に於ける教育の位置『時流』1、1月1日

現代文化に於ける本質的傾向と偶然的勢力との関係『中央公論』40-1、1月1日[「教育改造と社会改造」収録]

文章道瑣談『木堂雑誌』2-1、1月1日

絶大区制を採用すべき理由の一[「学芸」]『報知新聞』1月25、26日

言論的発表の自由に対する国法の義務『早稲田大学新聞』55、1月21日

この問題の一生命点[「普選実施と政治教育」]『改造』7-2、2月1日

教育の新生が最ももどかしく希望される『婦人之友』19-2、2月1日

日本の実質的大陸化へ[「日露修交問題」]『早稲田大学新聞』57、2月4日
犬[「閑談」]『読売新聞』2月15、17日
現代諸大学の試験制について[「試験制度に就て」]『早稲田大学新聞』号外、2月25日
*巻頭言『時流』1-3、3月1日
無原則の国民文化の悲哀[巻頭言]『新人』26-3、3月1日
日露開交の経済的外交的的思想的意義[「日露新協約によつて展開された新局面」]『中央公論』40-3、3月1日
政治的ミュテーションに当面して『中央公論』40-4、4月1日
今春卒業の青年女性への餞辞『婦人之友』19-4、4月1日
資本主義に対する最低限批判『我観』11、5月1日
現代卑屈論『改造』7-5、5月1日
喧嘩から裁判へ[「研究会解散論」]『中央公論』40-5、5月1日
子なき夫婦の場合の概則[「夫婦間に子なき場合の問題」]『婦人公論』10-5、5月1日
無産政党の可能及び価値[「無産政党の研究」]『改造』7-6、6月1日
生活不安と産業との関係[「生活不安と産業立国」]『中央公論』40-6、6月1日
恋愛の価値[「恋愛問題七講」]『婦人之友』19-6、6月1日
国際的卑屈支那から国際的自由支那へ『早稲田大学新聞』67、6月11日
知識学としての認識論『中央公論』40-7、6月15日[『教育改造と社会改造』収録]
大学の社会機能と現在大学制の不完全[「現下学生の諸問題」]『改造』7-7、7月1日[『教育改造と社会改造』収録]
新たに故人となられた金子雪齋氏に関する私の或憶相『我観』24、10月1日
再蛮化とミュテーション『早稲田大学新聞』74、10月1日
一層準備あるものへ[「無産政党問題」]『早稲田大学新聞』81、12月3日

1926（大正15・昭和元）年

見識の深淺と男女[「巻頭文」]『婦人公論』11-2、2月1日
夜の二時間『早稲田大学新聞』86、2月4日
生活不安と産業との関係『朝鮮地方行政』5-3、3月1日
現代常識の根本概念百『改造』8-4～7、4月1日、5月1日、6月1日、7月1日
政治の根本常識に於ける時代的反省『中央公論』41-4、4月1日
第一要点に於て不具な修身教育の現実[「修身教育の諸問題」]『教育論叢』15-5、5月1日
力の科学『建国新聞』6、5月15日
民衆運動と警察権の対立[「警察と民衆との闘争的対立」]『改造』8-10、9月1日

五個の特徴点から反省される現代文化『女性』10-3、9月1日
罪は法律が作る事実の正及び不正態『法律春秋』1-2、10月1日
道具と機械『経済往来』1-9、11月1日
新興分子の発達と組織へ[「解散を予想さるる今議会と各政党の立場】『中央公論』40-12、11月1日
偽証事件[「時評】『改造』8-13、12月1日

1927（昭和2）年

機能主義の未発達と実現[「現代苦悶の諸相と其の打開】『改造』9-1、1月1日
産業の社会的機能化『随筆』2-1、1月1日
新聞の理想へ『時事新報』1月3～6日[(1)、(3)のみ『新聞集成昭和編年史昭和二年度1』（明治大正昭和新聞研究会、1984年）収録]
賞罰について二三のこと[「賞罰論】『教育論叢』17-3、3月1日
社会科学の方法論『社会学徒』1-5、5月1日
所有主義から使用主義へ『太陽』33-5、5月1日
拙著「社会学」と新個人主義に就て『早稲田大学新聞』128、5月26日
機械時代のヒロイズム[「現代思潮とヒロイズムの交錯】『中央公論』42-7、7月1日
自由恋愛批判の会『婦人之友』21-7、7月1日[5月26日座談会(於自由学園)：石川千代松、斉藤勇、原田実、小川未明、山川菊栄、吉屋信子、羽仁もと子]
[「羽仁もと子論 著作集刊行について諸家の寄せられし奨励の言葉】『婦人之友』21-7、7月1日[「羽仁もと子著作集 内容見本』（婦人之友社、1927年）再録]
新個人主義の説明『読売新聞』7月3、5日
認識の独立と大学に於ける社会科学的部分『改造』9-8、8月1日[『教育改造と社会改造』収録]
機械時代と食衣住の普遍的分配『実業時代』4-9、9月1日
[「愚問賢答 1 涼趣三題 2 全集物と私】『春秋』1-6、9月1日
大学と社会との関係に於ける私財私能特権実力の位置『早稲田大学新聞』141、10月20日
試験地獄救済の根本問題『中央公論』42-11、11月1日[『教育改造と社会改造』収録]

1928（昭和3）年

新政治の急務と機能社会主義[「立憲政治か独裁政治か機能政治か】『我観』51、1月1日
社会科学成立の曙光[「最近諸外国の学界に現はれた新学説新傾向】『我観』51、1月1日
経済時代から芸術時代へ『家庭週報』918、1月1日
特殊的知識階級の没落と実質的知識社会、集団、個人の再来[「大学卒業生の就職難と知識階級の没落】『中央公論』43-1、1月1日
家庭のかけ[「家庭情景】『婦人之友』22-2、2月1日

普選によつて展開されべき大衆政治に於ける指導原理『我観』53、3月1日
生産的人口による再蛮化[「普通選挙が齎す『重大なる意義』とは何ぞや』』『中央公論』43-3、3月1日
政治学講座を担当するに際して『早稲田大学新聞』157、4月19日
新宗教来?『読売新聞』4月25~28日[『英雄論』、(一)を『新聞集成昭和編年史 昭和三年度版II』(明治
大正昭和新聞研究会、1988年)収録]
教育の根本問題『改造』10-5、5月1日[『教育改造と社会改造』収録]
防貧立法の指導精神『我観』55、5月1日
理性の解放[「『共産党検挙と労農党解散』事件』』『中央公論』43-5、5月1日
現代経済の根本特質『経済生活』6-5、5月1日
農村問題の指導精神『我観』59、9月1日
ラッセル氏の近著『教育を主題として』[「良書推薦(最近の読書感)』』『経済往来』3-9、9月1日
経済が反映する現代の位置(歴史哲学的一考察)『早稲田政治経済学雑誌』11、9月1日
原則意識に徹せよー思想善導の要諦[「時論・時評』』『教育週報』73、9月8日
[「なみだの谷をすぐれども』』『婦人之友』22-10、10月1日
哲学革命『理想』7、10月1日
神の否定、宗教の肯定『読売新聞』10月7日[『英雄論』収録]
現代の矛盾『文明協会ニュース』10月10日
教育の根本的時務『教育問題研究 全人』28、11月1日[『教育改造と社会改造』収録]
問題の中学改善案を論評す『中央公論』43-11、11月1日[『教育改造と社会改造』収録]

1929 (昭和4) 年

英雄論『改造』11-1、1月1日[『英雄論』収録]
保存すべきものは保存 捨つるものは捨て 我國民思想の帰趨について『山陽新報』1月1日
政党は必要か『祖国』2-1、1月1日[『行動政治哲学』収録]
無産階級倫理の原則『中央公論』44-1、1月1日
[「女弁護士が出来たら「社会的に如何なる影響、変化を見るでせうか」についての諸家の意見』』『教育週報』
90、1月5日
社会時評『経済往来』4-2、2月1日
客観日本[「現代日本の再認識』』『中央公論』44-2、2月1日
マルクシズムの社会哲学『祖国』2-3、3月1日
政治倫理学の新発達の時代的必要[「現代政治と道徳』』『改造』11-4、4月1日
[「新卒業生におくる二十一訓』』『婦人之友』23-4、4月1日
政治と婦人問題『文芸春秋』7-4、4月1日[『教育改造と社会改造』収録]

社会組織倫理学の発達の時代的必要『倫理研究』1、4月1日

室伏氏の存在理由「大衆時代の解剖」を読む『大阪毎日新聞』4月8日

卒業生と社会『我観』66、5月1日[『教育改造と社会改造』収録]

現代経済界の社会的不統一『東方公論』4-5、5月1日

現代経済界の矛盾『朝鮮及満洲』258、5月1日

現代の把握『補習教育』75、5月1日

共産主義の影響と列国『読売新聞』5月1～4、7日

現状の把握[「思潮・研究」]『補習教育』75、76、5月1日、6月1日

唯物史観の事情『理想』10、5月20日

新英雄主義の問題『読売新聞』6月1、4、5日[『英雄論』収録]

過去に於いて個人主義の開発を欠いた日本の将来[「特輯 明日の日本」]『我観』68、7月1日[『教育改造と社会改造』収録]

如何にして無産者を解放するか『祖国』2-7、7月1日[「無産者の自由獲得の必然」と改題、『教育改造と社会改造』収録]

現代の文明批評家及び哲学者の資格を論じて田中王堂氏を評価す『中央公論』44-7、7月1日

新内閣及びその与党のために『早稲田大学新聞』7、7月4日

中野正剛君の事[「第一線の人・想と行動相互批判」]『読売新聞』7月10日[『新聞集成昭和編年史 昭和四年度版 3(七月～九月)』(新聞資料出版、1989年)収録]

反省と諸事勇断を[「民政党内閣への希望」]『我観』69、8月1日

共産主義の批判[「共産主義批判」]『祖国』2-9、9月1日[『教育改造と社会改造』収録]

現内閣の思想政策批判『教育週報』228、9月28日

革命の哲学『祖国』2-10、10月1日

[口絵「名家筆跡展覧会」]『中央公論』44-10、10月1日

新哲学の指導原理『理想』12、10月1日

世界的なる三つのくわ旋と潮流[「現代世界展望」]『東京朝日新聞』10月3日[「世界的なる三つの渦旋と潮流」と改題、『教育改造と社会改造』収録]

[「文壇早稲田派と文学部不振」]『早稲田大学新聞』12、10月10日

既成政党の根本的欠陥暴露—減棒問題の批判—『やまと新聞』10月21日

ダグラスからのアンソロジー? [「社会経済随想」]『経済往来』4-11、11月1日

全機械時代の到来と人間性[「社会時事随想」]『政治経済時論』4-11、11月1日

軍縮の政治的意義『我観』73、12月1日

機械の社会力『経済往来』4-12、12月1日

減俸悲喜劇の奥なる最大事実『中央公論』44-12、12月1日

帝国主義を資本主義から識別せしめるもの『早稲田政治経済学雑誌』16、12月1日[『教育改造と社会改

造』収録]

現代を規定するもの『文学思想研究』10、12月5日[『教育改造と社会改造』収録]

1930（昭和5）年

尖端的性運動の分析から新性道德の設立へ『改造』12-1、1月1日[「最近性運動の一、コムパニョネートに対する分析及び、社会史的批判」と改題、『教育改造と社会改造』収録]

デモクラシの止揚『我観』74、1月1日

機械化せられたる時代相『国論』16-1、1月1日

経済時代から芸術時代へ『松陽新報』1月1日

現代文化の種々相と其の特質[「社会時事随想」]『政治経済時論』5-1、1月1日

新国際を興せ[「新日本の指導原理」]『祖国』3-1、1月1日[『教育改造と社会改造』収録]

機械故に『大東』25-1、1月1日

現代文化の種々相と其の特質に就て『文化時報』1月19、21～23日

第五十七議会の政治的意義[「時論」]『我観』75、2月1日

新教育の原則的の二要点『教育学术界』60-5、2月1日

女性の社会的進出『丁酉倫理会講演集』328、2月1日

インテリゲンチヤの問題[「知識階級は何処へ行く」]『読売新聞』3月7、8、11日[『教育改造と社会改造』収録]

機械と社会変化[2月26日(於自治会館)]『講演集』211、3月10日

独裁政治『我観』77、4月1日

特別議会に望む案件の内『丁酉倫理会講演集』330、4月1日

教員減俸運動反対の説『補習教育』86、4月1日[『教育改造と社会改造』収録]

ビヘービヤリズム、フォーディズム、プラグマティズムが反映するアメリカの唯物論『理想』15、4月1日

今日の青年息女の母親と思想問題[「我が子の思想轉換機に際して」]『いとし児』2-5、5月1日[『教育改造と社会改造』収録]

緊張せる教育問題とその分析『改造』12-5、5月1日[『教育改造と社会改造』収録]

近状に鑑みてナショナリズムの科学的把握を再主張す『祖国』3-5、5月1日

現存教育の精算期?『丁酉倫理会講演集』331、5月1日

機械と社会変化『文化時報』5月13～15、17、18、20～22日

世界国家への意識において『我観』79、6月1日

階級と教育『帝国教育』574、6月1日[『教育改造と社会改造』収録]

学校出の失業者[「時事問答」]『教育週報』265、6月14日

初夏放想『読売新聞』7月1～4日

「教育者に薦むる書籍」『教育問題研究 全人』49、8月1日
 恐るべき、及び恐るべからざるアメリカ[「アメリカ主義克服」]『祖国』3-8、8月1日[『行動政治哲学』収録]
 失業の倫理『倫理研究』9、8月1日[『社会倫理学概説』「付録」収録]
 機械故に『文化時報』8月8～10、13～17、19～22日
 大学の存在理由の否・肯定『祖国』3-9、9月1日[『教育改造と社会改造』収録]
 個人主義道徳の清算『丁酉倫理会講演集』335、9月1日[『教育改造と社会改造』収録]
 贅沢について[「贅沢の原則論及び時論」](『中央公論』39-9、1924年8月1日)抄録『母と子』11-9、9月1日
 気に食はぬ事[「随筆」]『文芸春秋』8-10、9月1日
 [「一、最近どんな書籍(内外種類を問はず)に興味を感じたか 二、目前どういふ書籍の出版を必要と感じるか」]『読売新聞』9月27日
 学問熱を殺す試験制度『丁酉倫理会講演集』337、11月1日
 宗教に対する現代人の態度『理想』20、11月1日
 新賢母論『婦人公論』15-12、12月1日[『教育改造と社会改造』収録]
 「自由主義」没落の倫理『倫理研究』11、12、12月1日、**1931年**2月1日[『社会倫理学概説』「付録」収録]
 相互条件としての集団主義と個人主義序説『早稲田政治経済学雑誌』20、12月1日[『教育改造と社会改造』収録]
 失業問題批判『文化時報』12月2～5日

1931 (昭和6) 年

東西文明論異議あり『祖国』4-1、1月1日
 *失業問題批判[「時事」]『台湾警察時報』23、1月1日
 [「明日の女性に要求される一つの資格」]『婦人之友』25-1、1月1日
 藤井先生のこと 慌しき逝去を聞いて『東京朝日新聞』1月17日
 機械と社会変化『文化時報』1月22～25、27～31日
 イデオロギーに於ける社会統制『経済往来』6-2、2月1日
 故藤井先生との私的関係の或追憶『祖国』4-3、3月1日
 新形成を必要とする戦後の倫理『丁酉倫理会講演集』341、342、3月1日、4月1日
 ブルジョア・デモクラシーの根本的再批判『経済往来』6-4、4月1日
 知識階級の知識[「赤化とインテリ」]『祖国』4-5、5月1日
 青春論『若草』7-5、5月1日
 ファシズムを奪ふもの[「日本ファシズムへの展望」]『中央公論』46-6、6月1日
 政治倫理の現代的必要序説『倫理研究』14、6月1日[『社会倫理学概説』「付録」収録]

英雄の推移『読売新聞』6月2～4日

夫の暴虐な統制の下に[「婦人向上の障害はこゝに」]『婦人公論』16-7、7月1日

自由学園の存在理由『婦人之友』25-7、7月1日

原則認識を欠く教育改造案[「濫発される教育改造案評」]『教育週報』321、7月11日

日本改造の語『祖国』4-9、9月1日[『行動政治哲学』収録]

論壇時評『中央公論』46-9、9月1日

問題の学制改革『中央公論』46-10、10月1日

一、二点だけ[「文部省学制改革案批判」]『帝国教育』590、10月1日[帝国教育会編輯部編『学制改革案批判』(秀山堂文庫、1931年10月1日)収録]

国民主義の将来『日本新論』8-10、10月1日

ファッション化運動の世界的現勢『読売新聞』11月19、21、22、24日

*土に対する政治的認識『会議』1-2、12月1日

現代の国際 満蒙に対する正しき認識の一基礎『戦友』258、12月1日

領土の倫理性と満州問題—国際連盟の基礎的制限—『丁酉倫理会講演集』350、12月1日[[『社会倫理学概説』「付録」収録、浮田和民編著『満洲国独立と国際聯盟』(早稲田大学出版部、1932年10月5日)収録]

英国政変の分析『早稲田政治経済学雑誌』24、12月1日

矛盾解消のため職業競技を起せ[「スポーツ課税 是か、非か」]『読売新聞』12月29日

1932 (昭和7) 年

領土とは何ぞや『我観』98、1月1日[『行動政治哲学』収録]

日本ファシズムの形態に就て—伝統的勢力への適応と日本のモンロー主義[「ファシズム特輯」]『サラリーマン』5-1、1月1日

子供の教育をどうするか[「現代日本の再検討」]『中央公論』47-1、1月1日

[「日本の近き将来 教育者よ 如何に考うべきか」]『教育週報』346、1月2日

社会国民主義か国家社会主義か[「芸術思想の各分野より」]『読売新聞』1月5日

*政党の政策の真偽『会議』2-2、2月1日

新興郷土社会の展望『郷土科学』16、2月1日

政治と思想の動向、如何『工場世界』13-3、2月10日

民衆の無自覚[「選挙に勝つのは何時でも与党 日本特有の現象」]『教育週報』354、2月27日

フラスシズムの指導目標[「フワツシヨと日本」]『国本』12-3、3月1日

「協調」から正義へ『祖国』5-3、3月1日

ファシズム座談会『祖国』5-3、3月1日[2月26日座談会(於銀座『雀』): 中村吉蔵、室伏高信、永田衡吉、高須芳次郎、今岡十一郎、岩崎純孝、北吟吉]

ファシズム『丁酉倫理会講演集』353、3月1日

政党は何処へ行く『講演』176、3月8日

卒業制度の廃止 実力主義・真価主義の昂揚[「大学教育を如何にする」]『東京日日新聞』3月9日

三つの視角から[「時局を斯く観ず」]『読売新聞』3月17、18日

卒業制度の廃止 実力主義真価主義の昂揚[「学芸 大学教育をどうする」]『大阪毎日新聞』3月30日

ファシズム批判座談会『東洋経済新報』1492、3月26日[3月15日座談会(於経済倶楽部):室伏高信、松岡駒吉、長谷川如是閑、中島久万吉、下中弥三郎、北吟吉、赤松克麿、中野正剛、三浦鍬太郎、石橋湛山]

*国民主義社会教育思想について『現代教育』3月[?4月]

*我国のファシヨ運動と共産主義運動の今後の見越し『会議』2-4、4月1日

日本は如何にすべきか『改造』14-4、4月1日

マルクシズムが何故インテリ層へ這入り易いか[「インテリ層と思想問題」]『思想問題』<『思想統制』改題誌>1-4、1932年4月1日

国際僻見と正論『政界往来』3-4、4月1日

再びファシズムについて『丁酉倫理会講演集』354、4月1日

歴史と英雄『理想』30、4月1日

*議会政治の意義『会議』2-5、5月1日[『行動政治哲学』収録]

日米問題座談会『祖国』4-5、5月1日[4月2日座談会:青木得三、福田一郎、匝瑳胤次、室伏高信、若宮卯之助北吟吉]

国家の存在理由と当面の政策『日本国民』1-1、5月1日

ラヂオの社会史的意義『調査時報』2-10、5月15日

世相の動揺不安!国民の猛省すべき重大時機『読売新聞』5月17日

重大時機に直面して[「不穩事件の緊急批判」]『改造』14-6、6月1日

晩春エッセーの題下[「晩春エッセイ集」]『経済往来』7-6、6月1日

統制経済への展望[「計画経済と日本」]『国本』12-6、6月1日

不穩事件批判『加州毎日新聞』6月8、9日

故田中王堂氏の本質『早稲田学報』448、6月10日

現代に処する倫理及び倫理学[「文芸」]『大阪朝日新聞』6月20~22日

時局に対する公民教育の方法『公民教育』2-7、7月1日

ファシズムの分析及び批判『社会政策時報』154、155、7月1日、8月1日[『行動政治哲学』収録]

時局不安『丁酉倫理会講演集』357、7月1日

田中王堂の本質、思想及びその時代—その長逝を悼みて—『理想』32、7月1日

満州国承認の責任『丁酉倫理会講演集』358、8月1日

『みどりごの心』の本質への注意[「『みどりごの心』とミセス羽仁」]『婦人之友』26-8、8月1日

新党の根本課題『講演』190、8月10日

ナチスの或分析『帝国教育』608、8月15日[『行動政治哲学』収録]

ラスキ氏の『国民主義と文明の将来』に対する批判『今後の社会』2、9月30日

戦後のナショナリズムの分析—時局の根本的把握の一角として—『丁西倫理会講演集』360、10月1日

この頃の世相 イデオロギーの喪失時代 正しき愛国運動を起せ[談]『教育週報』388、10月22日

新旧イデオロギーの破産と克服『教育時論』1705、10月25日

国際道徳論(領土改正の理論)[「国策の原理」に関する研究]『今後の社会』3、10月31日

A Japanese view of international morality『今後の社会』3、10月31日

A Japanese view of international morality『早稲田政治経済学雑誌』27、10月

支那分割の問題[「支那分割」]『改造』14・11、11月1日

亜細亜モンロー主義のために『日本国民』1-7、11月1日[『行動政治哲学』収録]

思想的危機と其対策—特に現下日本のナショナリズムを材料として—『理想』35、11月1日

何が哲学であるか『若草』8-11、11月1日

教壇学徒が実行に移るとき? [「非常時は「私」に如何に反映したか」]『読売新聞』12月4日

*哲学の必要『講演』202別冊付録、12月10日

鳩山文相招待教育座談会『東洋経済新報』1531、12月24日[12月7日座談会：鳩山一郎、麻生正蔵、伊藤孝一、石橋湛山、鈴木達次、平沢金之助、松岡駒吉、宮田修、安田儀作]

1933（昭和8）年

日本主義批判『教育学術界』66-4、1月1日

金塊渴仰の心理 既成イデオロギーの破産『教育週報』398、1月1日

現代の指導原理『丁西倫理会講演集』363、1月1日[『行動政治哲学』収録]

「世界からなくしたいもの」『婦人之友』27-1、1月1日

直木三十五氏を中心として大衆文学の動向を談ず[「1933年待望座談会」]『読売新聞』1月1、3、5～7日[座談会：山本有三、直木三十五、馬場恒吾、小林一三、秋田雨雀ほか]

非常時の実体『高岡新聞[夕刊]』1月3日

秋田雨雀氏を中心としてプロ文学の動向を談ず[「1933年待望座談会」]『読売新聞』1月8、10日[座談会：山本有三、直木三十五、馬場恒吾、小林一三、秋田雨雀ほか]

山本有三氏中心として純粋文学の問題を談ず[「1933年待望座談会」]『読売新聞』1月12、13日[座談会：山本有三、直木三十五、馬場恒吾、小林一三、秋田雨雀ほか]

「私の日曜の一日」『教育週報』400、1月14日

杉森孝次郎氏と思想問題を論ず[「1933年待望座談会」]『読売新聞』1月19～21日[座談会：山本有三、直木三十五、馬場恒吾、小林一三、秋田雨雀ほか]

馬場恒吾氏を中心として現代の政治問題を談ず[「1933年待望座談会」]『読売新聞』1月22、24～26日[座談会：山本有三、直木三十五、馬場恒吾、小林一三、秋田雨雀ほか]

政治哲学の根本的普遍性と其創造さるべきもの[「東洋思想の西洋政治哲学への反映」]『国本』13-2、2月1日

テクノクラシーと現代『丁酉倫理会講演集』364、2月1日

機械の倫理—テクノクラシの考察及批判を含む—『道德教育』2-2、2月1日

英国及び英国人を語る『婦人之友』27-2、2月1日[座談会：ラルフ・ホゼソン、ミス・ボリガー、斉藤勇、本位田祥男、本位田静子、田中薫、田中千代子、羽仁吉一、羽仁もと子、羽仁恵子]

全亜細亜族の科学化への必要と日本が指導の必要[室伏高信「亜細亜の自由連盟は不可か」中野正剛氏か杉森孝次郎氏に問ふ]への回答『読売新聞』2月18日

如何なる社会如何なる家庭が極端なる思想を生ずるか『婦人公論』18-3、3月1日

男女共学実行可能の理論と方法『婦人之友』27-3、3月1日[座談会：野口援太郎、原田実、菅田吉、菅支那子、粕谷よし子、高橋ふみ、羽仁吉一、羽仁もと子]

自由主義末期—蠟山氏の連盟論[「三月の論壇」]『東京朝日新聞』3月4日

国際日本観 蠟山氏の見解を評す[「三月の論壇」]『東京朝日新聞』3月5日

率直な連盟論 荒畑氏の所論を読む[「三月の論壇」]『東京朝日新聞』3月6日

芸術性の支配—如是閑氏の連盟論—[「三月の論壇」]『東京朝日新聞』3月7日

知仁勇の知に徹せよ[「時事小言」]『九州日報』4月1日

連盟脱退の日本のもつべき意識『丁酉倫理会講演集』366、4月1日

大学と思想問題 官学と私学の権能 学生に寄する言葉『読売新聞』4月9日

小学校教員赤化批判とその対策『帝国教育』624、4月15日

*教育者の赤化批判『教育草紙』4月[5月?]

感想『若草』9-5、5月1日

学生及卒業者の印度行[「時事小言」]『九州日報』5月24日

自己より社会へ[書]『読売新聞』5月26日

国際印度への唯物史観と日本[「時評」]『東洋経済新報』1551、5月27日

印度を繞る国際及日本『外交時報』684、6月1日

国際印度と日本『大亜細亜主義』2、6月1日

印度の正しき関心『丁酉倫理会講演集』368、6月1日

日米親善問題座談会『東洋経済新報』1555、6月24日[6月15日座談会(於東洋経済新報社)：蠟山政道、長谷川如是閑、田川大吉郎、田中都吉、鶴見祐輔、上田貞次郎、芦田均、茂木惣兵衛、清沢冽、石橋湛山]

京大事件から大学の問題へ[「京大事件の真相と批判」]『改造』15-7、7月1日

ナショナリズム再強化の分析と展望『生命線』2-10、7月1日

「ブロック」、「ヘゲモニー」、「モンロー主義」運動と「ナショナリズム」の大化及び解消[「時評」]『東洋経済新報』1556、7月1日

歴史発展に於ける一契機としての英雄を論ず『歴史公論』2-7、7月1日[雄山閣編輯局編『英雄偉人の検討』(雄山閣、1933年12月30日)収録]

諸運動と国策及び世界策『我観』117、8月1日
 佐野氏等の転向と河上氏の「没落」[「転向問題批判」]『経済往来』8-9、8月1日
 本質的民族主義とヘゲモニー[「感想と随筆」]『国民運動』1-5、8月1日
 東経百度[「槍騎兵」]『東京朝日新聞』8月5日
 本質を見る眼[「時事小言」]『九州日報』8月6日
 真正哲学の国民的必要[「時評」]『東洋経済新報』1562、8月12日
 目的に於ける民主 方法に於ける独裁[「時事小言」]『九州日報』8月13日
 無思想国難[「時事小言」]『九州日報』8月21日[「街頭ジャーナリズム」]『我観』119、10月5日に転載
 現代の生みつゝある思想と新時代を生むべき思想『政治経済時論』8-9、9月1日
 領土の社会理論と日本の位置『大亜細亜主義』5、9月1日[「行動政治哲学」収録]
 目的に於ける民主方法に於ける独裁[「街頭ジャーナリズム」]『我観』118、9月5日
 現下世界に於ける国民主義再発達の原因[「時評」]『東洋経済新報』1567、9月16日
 国民主義の把握を[「時代に翹望するもの」]『読売新聞』9月26日
 山本検察官の論告を読んで『改造』15-10、10月1日
 国際主義と国民主義の相克性[「時局・趣味・科学」]『ダイヤモンド』21-30、10月1日
 座談会 愛国及び愛人類を語る『婦人之友』27-10、10月1日[8月30日座談会(於婦人之友社ホール): 清
 沢淵、石橋湛山、賀川豊彦、安部磯雄、杉村陽太郎、羽仁吉一、羽仁もと子]
 *国民主義及び人種主義の群敵とその克服『皇道新聞』1、10月5日
 鈴木総裁亦この蒙あり[「時事小言」]『九州日報』10月6日
 国防と政治[「時事小言」]『九州日報』10月10日
 最近世界に於ける国民主義再発達の原因『外交時報』693、10月15日
 ルーズヴェルトがこの主張を棄てぬ間[「時事小言」]『九州日報』10月20日
 国際文化事業の必要と要件[「時評」]『東洋経済新報』1573、10月28日
 文化外交に関する一考察『東洋』36-11、11月1日
 鈴木総裁亦この蒙在り[「街頭ジャーナリズム」]『我観』120、11月5日
 論壇時評『読売新聞』11月30日、12月1〜3日
 正しき国民主義の認識[談]『国本』13-12、12月1日
 危機の科学的検討『大亜細亜主義』8、12月1日
 知育欠乏と必要なる思想統制『丁酉倫理会講演集』374、12月1日
 満州国創造の後に来るもの[「時評」]『東洋経済新報』1578、12月2日
 ルーズヴェルトがこの主張を棄てぬ間[「時事問題展望」]『我観』121、12月5日

1934 (昭和9) 年

大学改造論[「特輯付録 革新日本の具体案」]『経済往来』9-1、1月1日

国民主義の過程と其将来[談]『国本』14-1、1月1日

議会政治、独裁政治『山陽新報』1月1日

独裁政治と指導理論『ダイヤモンド』22-1、1月1日[『行動政治哲学』収録]

日本は如何なる政治が必要か 議会政治と独裁政治『高岡新聞』1月1日

当来の思想界—その唯物史観及び主張さるべきもの—『中外日報』1月1日

時局と教育[「非常時教育方針に寄す 教育大会決議の検討」]『帝国教育』640、1月1日

現代日本の認識と思想国防『丁酉倫理会講演集』375、1月1日

座談会 非常時世相批判『婦人之友』28-1、1月1日[11月28日座談会(於婦人之友本社ホール)：赤井米吉、今井邦子、小川未明、杉山平助、竹内茂代、武者小路実篤、羽仁吉一、羽仁もと子]

犬と人間の関係の或る側面[「わがマスコツト」]『読売新聞』1月13日

新大学設立の必要[「社会時評」]『東洋経済新報』1582、1月13日

外交、国防、政治の一元的理拠『外交時報』699、1月15日

*国家改造の私案『経済政治街』1月

政党提携と議会『経済往来』9-2、2月1日

解散覚悟にて[「今議会に政党は何を為す可きか」]『実業の世界』31-2、2月1日

真正倫理学による国民的、世界的社会統制『大亜細亞主義』10、2月1日[『行動政治哲学』収録]

フアンズムの政治理念『中央公論』49-2、2月1日

代議制の検討[「社会時評」]『東洋経済新報』1587、2月17日

国家社会主義と統制経済[「特輯付録 国家社会主義批判」]『経済往来』9-3、3月1日[『国家社会主義を排撃す』<祖国会パンフレット第1輯>(祖国会出版部編・刊、1934年2月20日)、改題・再刊『ファッシュと国家社会主義』(日本書荘、1937年2月20日)収録]

新政治機構のイデオロギー『政治経済時論』9-3、3月1日

「非常時の分析」と国民主義の倫理『道德教育』3-3、3月1日

「非常時」の認識『早稲田政治経済学雑誌』33、3月1日

気魄、勇敢の不足[「教育非常時!! 打開、再建、復興の道 頻々、空前の不祥事続発 識者の声を聴け!!」]『教育週報』460、3月10日

科学的国民主義及国際主義の樹立[「社会時評」]『東洋経済新報』1592、3月24日

*明日の政治形態『政経評論』3月

科学的国際主義の一要件『外交時報』704、4月1日

一、二の場合(魅力の科学を合意する)[「魅力を感じた人その他」]『婦人之友』28-4、4月1日

国際主義運動の将来『理想』47、4月1日[『行動政治哲学』収録]

和戦両様の構へ[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』4月8日

科学的国際主義と哲学的国民主義へ[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』4月15日
 哲学に於ける革命[「月曜論壇」]『読売新聞』4月16日[『行動政治哲学』収録]
 普遍的、創造的を一目標とせよ—国際文化振興会のために—[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』4月22日
 事前反省の機[「社会時評」]『東洋経済新報』1597、4月28日
 非常時の新風波—対支親善の新決意と道義的国際主義—[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』4月29日
 座談会 暴力を研究的に観る『婦人之友』28-5、5月1日[座談会：奥むめお、片山哲、九布白落実、清沢
 冽、為藤五郎、森田久、山室民子、羽仁吉一、羽仁もと子]
 文相の要するもの 識見[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』5月6日
 斎藤スロー・モーション主義の単なる裏返しは不可[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』5月13日
 学制改革の諸問題『教育時論』1761、5月15日
 文化外交の一考察『文化時報』5月15～17日
 青年日本再建の危機[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』5月20日
 支那への根本的認識『ダイヤモンド』22-16、5月21日
 実力と正義[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』5月27日
 知識ある強き公正の人『セルパン』40<土田杏村追悼号>、6月1日
 『門戸開放』、九国条約と往年の治外法権『大亜細亜主義』14、6月1日
 暴力の倫理性『中央公論』49-6、6月1日
 国家社会主義と統制経済『東方公論』9-6、6月1日
 一茶の詩『俳句研究』1-4、6月1日
 強き公平の人土田杏村君の死を深悼す『若草』10-6、6月1日
 自由主義か領土政策か[「社会時評」]『東洋経済新報』1602、6月2日[『行動政治哲学』収録]
 平和は日米より?![「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』6月3日
 産業日本の反省[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』6月10日
 普遍的創造的を一目標とせよ 国際文化振興会のために『大北新報』6月12日
 貿易に於ける自由主義の徹底と限界[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』6月17日
 次期政局担当者のメンタルテストたるべきもの[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』6月24日
 国民主義の理念—その一部—『【第二早稲田高等学院学友会雑誌】33、6月30日
 非常時と倫理学『丁酉倫理会講演集』381、7月1日
 座談会 男子のための新しい学校『婦人之友』28-7、7月1日[6月1日座談会(於自由学園)：入沢宗寿、加
 藤与五郎、近衛秀麿、山本忠興、羽仁吉一、羽仁もと子]
 軍拡、武器産業、国際会館[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』7月1日
 組閣工作の当事者及国民に告ぐ[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』7月8日
 "岡田内閣" 座談会 其の成立の意味と国民の要望を語る『東洋経済新報』1609、7月14日[7月6日座談

会(於東洋經濟新報社)：長谷川如是閑、戸坂潤、大口喜六、高橋亀吉、山崎靖純、田昌、三浦鉄太郎、清沢冽、三宅晴暉、山田秀雄]

政権動くの兆と対処意識[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』7月15日

実力と正義『大陸日報』7月17日

綱紀肅正は芸ならず[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』7月22日

新党樹立の機[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』7月29日

私の教育学説—その一部、現代の学校の与ふる利益と奪ふ利益—『教育』2-8、8月1日

日本の持つべき対支国際論理『支那』25-8、8月1日

来るべき軍縮会議に対する国民の統一的信念の確立『大亜細亜主義』16、8月1日

創造的政治の必要『丁酉倫理会講演集』382、8月1日

政党内閣制の基本的精神と時代[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』8月5日

『平和』と『時』[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』8月12日

特権主義を廃せ 現代の教育界に与ふ『読売新聞』8月14日

ナショナリズム及インターナショナリズムの方法—その最近の—容相—『外交時報』713、8月15日

『誤解』を解く者の認識[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』8月19日

ロックと日本『読売新聞』8月21日

欧州の動乱と科学的国際主義[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』8月26日

満州国総理と語る 日英同盟の望見 基調は総て東洋精神『読売新聞』8月28日

政府の「教育刷新」に望む[「一頁時評」]『経済往来』9-9、9月1日

岡田=後藤内閣と現在の日本『社会時情』2-9、9月1日

創造力ある政治への展望[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』9月2日

満州へ工、商移民[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』9月9日

満州国を楽観すべし[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』9月16日

久しく高等苦力たるなかれ[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』9月23日

科学的視察を望む—英国産業視察団諸君へ—[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』9月30日

満州国実感『我観』12-10、10月1日

戦争は避けられぬか? 座談会『我観』12-10、10月1日[9月4日座談会(於丸の内日本倶楽部)：本多熊太郎、風見章、竹内謙二、山崎靖純、小島正、小島精一、三宅雪嶺、森武夫、関根群平、中野正剛]

満州国に関して『大亜細亜主義』18、10月1日[『行動政治哲学』収録]

満洲国を対象として『東洋』37-10、10月1日

「門戸開放」の曲者及偶像[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』10月7日

満州国に必要な大陸主義の第一歩[「講演」]『ダイヤモンド』22-30、10月11日

「の故に」と「にも拘らず」と[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』10月14日

政治の存在理由[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』10月21日

論壇時評 パンフレット問題『読売新聞』10月28日

「門戸開放」再議[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』10月28日

「国防の本義と其強化の提唱」を読み[「国防パンフレット問題」]『改造』16-12、11月1日[「国防の本義と其強化の提唱」に対する評論集』（陸軍省新聞班編・刊、1934年）収録]

アメリカの最重要なる一邊を旅行して[「教育随筆」]『教育』3-11、11月1日

平和工作の基礎認識『月刊維新』1-1、11月1日[『行動政治哲学』収録]

青年男女の為の結婚学座談会『現代』15-11、11月1日[座談会：田中孝子、中村武羅夫、村岡花子、永井潜]

ナショナリズムの理念『国本』14-11、12、11月1日、12月1日

社会学座談会「集団社会学原理」批判と満州問題『社会学徒』8-11、11月1日[座談会：井時郎、田辺寿利、円谷弘、古野清人、本田喜代治、松原寛、松本潤一郎、三木清][『三木清研究資料集成』第3巻(クレス出版、2018年)収録]

日本に必要なもの『帝国教育』660、11月1日

九国条約を廃棄せよ[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』11月4日

門戸開放座談会 日満経済ブロックとの関係『東洋経済新報』1628、11月17日[11月2日座談会(於東洋経済新報社)：米田実、室伏高信、上田貞次郎、山崎靖純、赤松克麿、三浦鏡太郎、森田久、清沢洌、三宅晴暉、山田秀雄]

『政治問題化』と必要な指導[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』11月25日

大学改造論『我観』12-12、12月1日

「極東」政治問題化に対する国民の基礎的態度『大亜細亜主義』20、12月1日

復讐の倫理『道德教育』3-12、12月1日

反省、統一、飛躍[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』12月4日

外境の発展と国民的性格[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』12月9日

『ドイツの二の舞』[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』12月16日

輸出に於ける優貨品及観念品[巻頭言]『第二早稻田高等学院学友会雑誌』<第二早稻田高等学院>34、12月20日

三五年への闘に立ちて[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』12月23日

「偶然」の克服[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』12月29日

*国民主義と文明の将来批判『今後の社会(社会科学論集)』2巻1号、月日未詳

*領土改正の理論『論集今後の社会』[1934・35年頃]刊行年月日未詳

*思想指導の原則『論集今後の社会』[1934・35年頃]刊行年月日未詳

1935 (昭和10) 年

認識に立つ国民主義『我観』13-1、1月1日

軍縮會議の決裂を仮定して『財政経済時報』22-1、1月1日

経済的国民主義と国際主義『丁酉倫理会講演集』387、1月1日[『行動政治哲学』収録]

「いまの日本に欲しいもの」『婦人之友』29-1、1月1日

全面的非常時と国民の覚悟『北陸日日新聞』1月1日

合評 1935年の政治・思想の主流的動向『読売新聞[夕刊]』1月1、3、5日[座談会：長谷川如是閑、室伏高信、三木清、青野季吉][『三木清研究資料集成』第3巻(クレス出版、2018年)収録]

現代思想論壇の動向を批判す『理想』52、1月1日

政治的更正の機運[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』1月6日

全面的非常時と国民の覚悟『中国民報』1月10、11日

所謂知育偏重の謬見『教育週報』504、1月12日

確認すべき事実及び必要[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』1月13日

いはゆる知育偏重『帝国教育』665、1月15日

明日の勝利[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』1月20日

平和的小風景と其の前後[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』1月27日

日本の場合の特殊性[「国策の中心を何処に置く」]『経済往来』10-2、2月1日

新党樹立を語るの夕『経済往来』10-2、2月1日[1934年12月30日座談会(於帝国ホテル)：秋田清、中野正剛、緒方竹虎、室伏高信]

民族主義と世界維新『月刊維新』2-2、2月1日[『行動政治哲学』収録]

議会主義退却の跡[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』2月3日

軍縮會議所見『文明協会ニュース』101、2月10日

国際の認識戦場化と平和[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』2月10日

経済的及び超経済的パーター主義へ[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』2月17日

日支親善問題座談会『東洋経済新報』1641、2月23日[2月7日座談会(於東洋経済新報社楼上)：長谷川如是閑、阪西利八郎、芳沢謙吉、高木陸郎、長野朗、中山優、木村増太郎、芦田均、石橋湛山]

情熱の統制[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』2月24日

現代宗教論『我観』13-3、3月1日

「次の政局を支配するもの」を語る夕べ『経済往来』10-3、3月1日[1月28日座談会(於星ヶ岡茶寮)：床次竹二郎、長谷川如是閑、馬場恒吾、室伏高信]

責任ある進歩史観的認識の公民教育に於ける必要『公民教育』5-3、3月1日

議会主義及政党内閣主義者の責任[「院外より議会を観る」]『政界往来』6-3、3月1日

対支国策の統制『大亜細亜主義』23、3月1日[『行動政治哲学』収録]

月謝的アウタルキ―[「学生・学校・教員」]『中央公論』50-3、3月1日

権力的国民主義と国際主義『丁酉倫理会講演集』389、3月1日[『行動政治哲学』収録]

国民主義の理拠『理想』53、3月1日[『行動政治哲学』収録]

アリゾナ問題の一教訓[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』3月3日
 教育組織と社会組織[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』3月10日
 政治家に成り損ねたる孔子と「孔子」の著者 室伏氏に警告せざるを得ない『読売新聞』3月13日
 ヨーロッパの危機と日本の当為[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』3月15日
 ドイツの敵[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』3月24日
 連盟死せず[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』3月31日
 大学の問題の一、二角『セルバン』50、4月1日
 男尊女卑の思想『歴史公論』4-4、4月1日[『日本女性史』(雄山閣、1935年)収録]
 問題の東移[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』4月14日
 国民主義に於ける国際主義と国際主義に於ける国民主義『外交時報』729、4月15日
 ヨーロッパの最大の敵と日本[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』4月21日
 全体主義の危機[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』4月28日
 「世界の動向」を語る夕『経済往来』10-5、5月1日[座談会：出井盛之、芦田均、清沢洵、鈴木東民、室伏高信]
 雙柿樹の前後『芸術殿』5-5[坪内逍遙先生追悼号]、5月1日
 言論と殉死『行動』3-5、5月1日
 欧州の危機分析と日本[4月27日於帝大仏教青年会館]『旬刊講演集』393、5月10日
 欧州の危機と我国策『昭和維新』24、25、5月1、15日
 英国の極東軍拡と必要なる我国策『大亜細亞主義』25、5月1日
 新政治哲学の試金石[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』5月5日
 欧州の危機分析と日本[4月27日(於帝大仏教青年会館)]『旬刊講演集』393、5月10日
 破天荒と審議会及び調査局[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』5月12日
 文章観の一角—室伏さんへの答申—[「近頃聞きたい事、話したい事」]『読売新聞』5月19日
 標準の国際化[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』5月19日
 [『教育週報』創刊十周年記念感謝祝賀会でのテーブル・スピーチ]『教育週報』523、5月24日
 意識と結果[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』5月26日
 行動原則の最近史と新行動原則『我観』13-6、6月1日[『行動政治哲学』収録]
 審議会の昨日と明日[「私設内閣審議会」]『経済往来』10-6、6月1日
 ビヘイビオリズム[「経済往来十周年記念特輯世界を風靡する新興思想の展望」]『経済往来』10-6、6月1日
 政治哲学の新原則『月刊維新』2-6、6月1日[『行動政治哲学』収録]
 ヨーロッパの危機分析と日本『丁酉倫理会講演集』392、6月1日
 座談会 結婚及結婚生活を語る『婦人之友』29-6、6月1日[座談会：井上秀子、中川善之助、平塚明子、

- 高良富子、野上彌生子、山本有三、長谷川如是閑、為藤五郎、林藤、羽仁吉一、羽仁もと子[『野上彌生子全集 別巻一』(岩波書店、1982年)抄録]
- 日本主義の責任[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』6月2日
- An Analysis of the Post-war Nationalism and International Position of Japan 『DAI NIPPON 大日本』6月5日
- 全体主義の本質と宗教 自由主義欠陥の補強的思潮『早稲田大学新聞』7、6月5日
- 二重の破産[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』6月9日
- 日本の聖雄主義[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』6月14日
- 『極東』国策の基礎認識『講演』293、6月20日
- 発達した準備、能力[「この注意－講習会聴講者に 各科、各大家に聴く」]『教育週報』528、6月22日
- 社会有機体説の逆を行く世界と当為[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』6月23日
- 選挙粛正の魂たるべきもの[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』6月30日
- サルディニアと日本[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』7月7日
- 斯界の権威者に選挙粛正を聴く『日本講演通信』286、7月15日[座談会：安部磯雄、岩切重雄、大塚惟精、唐沢俊樹、田沢義鋪、瀧正雄、田子一民、塚本清治、中村嘉寿、山榎儀重、清瀬一郎、下村宏、鈴木正吾]
- 要求される新外交のイデオロギー[「特輯 外交の没落と外交の抬頭批判」]『ダイヤモンド』23-21、7月21日
- マチャーニと現代『月刊維新』2-8、8月1日
- 私のロシヤ観[「対蘇随感」]『月刊ロシヤ』1-2、8月1日
- 自由主義と全体主義『中央公論』50-8、8月1日[『行動政治哲学』収録]
- 映画の私への引力の分析[「どういう点に心惹かれるか」]『婦人之友』29-8、8月1日
- 婦人の家庭生活と社会的活動は両立し得るや『講演』299、8月20日[座談会：伊藤ふみ、管支那子、管円吉、木村松代、木村栄太郎、杉森ハナ、杉森のぶ、多勢美代子、藤井千代子、藤井新一、松下実子、松下正寿]
- 日米親善の唯物的基礎[講演筆記]『日米[The Japanese American News]』8月22～24日
- 欧州の危機と日本『外交時報』738、9月1日
- アメリカを再発見する－血と伝統と新しい環境と－『読売新聞』9月12、13日[訂正につき、「訂正 13日付杉森氏の論文」]『読売新聞』9月15日
- 現在に於ける米国の対日感情『教育週報』539、9月14日
- 日米学生会議[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』9月15日
- 懐疑の帝国主義[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』9月22日
- 舶来の領土理論[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』9月29日
- 最近のアメリカ『維新』2-10、10月1日
- 領土の理論と亜米利加『大亜細亜主義』30、10月1日[「領土の理論とアメリカ」と改題、『行動政治哲学』

収録]

- 発展的国際日本の一角—日米学生会議旅行の或る感想—『丁酉倫理会講演集』396、10月1日
- アメリカ旅行記『日本評論』10-10、10月1日
- 太平洋岸のアメリカを一過して『早稲田学報』488、10月10日
- 斯くあるべき首脳部[「文部省改革論」]『教育週報』543、10月12日
- 世界政治と国策[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』10月13日
- アメリカと帝国主義『帝国教育』683、10月15日
- 伊・エ戦禍を繞ぐる時局の分析及批判『北海道帝国大学新聞』512、10月15日
- 第十九条[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』10月20日
- 座談会 自由主義を語る『東洋経済新報』1678、10月26日[10月10、11日座談会(於東洋経済新報社): 戸坂潤、加田哲二、大島豊、室伏高信、赤松克麿、蠟山政道、長谷川如是閑、石井満、清沢冽、今中次麿、石橋湛山。『自由主義とは何か』(東洋経済新報社、1936年5月26日)収録]
- アフリカの後[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』10月27日
- アメリカ・ヨーロッパと日本の世界政策『我観』13-11、11月1日
- アメリカの認識と日米関係の将来『思想国防』1-2、11月1日[『行動政治哲学』収録]
- 対岸アメリカを旅行して『祖国』7-11、11月1日
- アメリカ及ヨーロッパの分析と倫理的国策『道德教育』4-11、11月1日
- 三宅雪嶺博士と「明治・大正・昭和」を語る『日本評論』10-11、11月1日[10月3日座談会(於三宅邸): 三宅雪嶺、緒方竹虎、古島一雄、長谷川如是閑、馬場恒吾、室伏高信]
- 発展日本の一理論[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』11月3日
- 金融帝国主義[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』11月10日
- 英露関係[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』11月17日
- 南方集結の意識とその賢愚[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』11月24日
- 米・欧・日のバランス『外交時報』744、12月1日
- 全体主義と国民主義[「日本の全体主義の検討」]『思想国防』1-3、12月1日[『行動政治哲学』収録]
- 議会失業史の検討『セルパン』58、12月1日
- 輸出品の分析[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』12月8日
- 哲学の機会[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』12月15日
- 不完全なる正義[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』12月22日
- 標準を国債に樹つべし『[第二早稲田高等学院学友会雑誌]』37、12月28日
- 日支相争ふの愚[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』12月29日
- World government and national policy『Contemporary Japan』4-3、12月

1936（昭和11）年

- 日本民族に対する認識条件の不備[「世界における日本民族の問題」]『改造』18-1、1月1日
- 国民主義と階級主義の再認識『我観』14-1、1月1日
- 九国条約の問題性『月刊維新』3-1、1月1日
- 青年日本の修養の目標『公民教育』6-1、1月1日
- 日支の結合に就て『大亜細亜主義』33、1月1日
- 小学校教員に与ふる書[「与ふる書 訴ふる書」]『日本評論』11-1、1月1日
- 座談会 日本の現在と将来『日本評論』11-1、1月1日[1935年12月2日座談会(於星ヶ岡)：芦田均、近衛文麿、藤原銀次郎、長谷川如是閑、山川均、土方成美、馬場恒吾、室伏高信]
- 座談会 良国民となるために 大国民となるために『婦人之友』30-1、1月1日[11月28日座談会(於自由学園)：清沢泷、永井柳太郎、長谷川如是閑、三木清、三宅雪嶺、宮沢俊義、吉岡弥生、蠟山政道、羽仁吉一、羽仁もと子] [『三木清研究資料集成』第3巻(クレス出版、2018年)収録]
- 総選挙と国民の関心(指導者の選択を重んぜよ)『北陸日日新聞』1月1日
- 国民主義と人種主義[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』1月5日
- 科学と理論[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』1月12日
- 青年国日本の環境『早稲田大学新聞』26、1月15日
- 文化の支那 胡適氏との会談から『読売新聞』1月18、21、23日
- 領土の理論[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』1月19日
- 断乎支那を友導すべし[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』1月26日
- 北支の時務『月刊維新』3-2、2月1日
- 支那と本質的に結合すべし『支那』27-2、2月1日[『行動政治哲学』収録]
- 日本の支那に対する決定的方針『大亜細亜主義』34、2月1日[『行動政治哲学』収録]
- 日支関係打開の方策を蒋介石と語る『ダイヤモンド』24-4、2月1日[1月20日座談会(於交詢社)：中野正剛]
- 将来の倫理学に対する期望『丁酉倫理会倫理講演集』400、2月1日
- 選挙と国際[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』2月2日
- 選挙と政府[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』2月9日
- 無産派の躍進[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』2月23日
- 近代国家と支那『我観』14-3、3月1日
- 近代支那の不振とその原因『丁酉倫理会講演集』401、3月1日[『行動政治哲学』収録]
- 支那観察者の報告を聴く『日本評論』11-3、3月1日[座談会(於日比谷陶々亭)：太田宇之助、大西斉、小島精一、中野正剛、原勝、室伏高信]
- 政党政治再吟味座談会『文芸春秋』14-3、3月1日[座談会(於芝公園紅葉館)：阿部真之助、加田哲二、木村亀二、清沢泷、蠟山政道]

我が哲学を語る『理想』65、3月1日

組閣の危機と、要するもの[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』3月8日

責任ある創造主義[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』3月15日

大原則[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』3月22日

国防、産業以上の関心事[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』3月29日

支那を考へる『世界知識』9-4、4月1日

時局認識の事及び理『丁酉倫理会講演集』402、4月1日

文化と暴力『文芸懇話会』1-4、4月1日[2月25日座談会：長谷川如是閑、清沢冽、芦田均、馬場恒吾、近松秋江]

二・二六事件の教訓『日本評論』11-4、4月1日

歴史の方法[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』4月5日[『日米[The Japanese American News]』5月3日に転載]

志学の男女へ[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』4月12日

自由主義と現代 その排撃さるゝ部分『読売新聞』4月14、15日

国民主義の危機[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』4月19日

知育の危機[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』4月26日

議会制度の前途展望『政治経済時論』11-5、5月1日

東亜の新状況『大亜細亜』4-5、5月1日

ナショナリズムの社会化『大亜細亜主義』37、5月1日[『行動政治哲学』収録]

文教の刷新と社会対策[「特輯 国際危局と広田内閣の全貌」]『中央公論』51-5、5月1日[『行動政治哲学』収録]

文教一新—その理念及施策—[「日本改造の諸問題」]『日本評論』11-5、5月1日

今日及び明日の男性を語る『婦人之友』30-5、5月1日[3月31日座談会(於南沢)：徳田秋声、加藤与五郎、松岡正男、野上弥生子、安部磯雄、吉岡弥生、羽仁吉一、羽仁もと子][『野上彌生子全集 別巻一』(岩波書店、1982年)抄録、『徳田秋聲全集 第25巻』(八木書店、2011年)収録]

議会及び政党の根本問題[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』5月3日

新世界秩序への盲、動動[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』5月31日

日米学生会議の意義 ポートランド会議の回顧『国民新聞』6月1日

国際紛争と社会進化の法則『外交時報』756、6月1日

貴族院改革問題『月刊維新』3-6、6月1日

隣邦支那の再認識『支那』27-6、6月1日

日本主義と社会主義[「日本主義か社会主義か」]『日本評論』11-6、6月1日[『行動政治哲学』収録]

社会的国民主義[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』6月7日

大国家への必然とその基礎[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』6月14日

超政治家性の必要と現実[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』6月28日

On the colonial illusion 『Contemporary Japan』5-1、6月

時局認識の原則 - 国民化と社会化 - 『日本評論』11-7、7月1日

人材国策[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』7月5日

時局と政治家[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』7月12日

知識と沈黙[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』7月19日

現代青年の気質[7月4日於東京中央放送局]『講演』332、7月20日

歴史に於ける理性[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』7月26日

大亜細亜主義の解釈『大亜細亜主義』40、8月1日[『行動政治哲学』収録]

個人化、国民化及び社会化『丁酉倫理会講演集』406、8月1日[『行動政治哲学』収録]

現代文化は如何なる文学を要望すべきか『文芸懇話会』1-8、8月1日

生活の目的は何か『新国民』63-5、8月5日

平和[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』8月9日

日本食[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』8月16日

武器産業国有的の問題[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』8月23日

正しき平和運動『大陸日報』8月29日

民族主義の義務[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』8月30日

青年と享樂『セルパン』67、9月1日

国際政局を語る『東大陸』14-9、9月1日[出席者：黒田礼二、富士辰馬、中野正剛、中山優、大西斉、斉藤直幹]

人民戦線か国民戦線か『日本評論』11-9、9月1日[座談会：阿部真之助、中野正剛、大森義太郎、麻生久、風見章、石浜知行、板倉進、室伏高信]

対立の奥の認識さるべきもの[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』9月6日

ロシアとドイツ[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』9月13日

対ソ政策の再認識『月刊ロシア』2-10、10月1日

戦後ナショナリズムの一側面とその寓意『第二早稲田高等学院学友会雑誌』39、10月1日

国民主義・人民主義と我が国『公民教育』6-10、10月1日

国際主義の基礎『女子青年界』33-10、10月1日

知仁勇の話[「名士談話室」]『青年』21-10、10月1日[「名士談話室」<青少年文庫5>(日本青年館、1940年)収録]

フアツシヨ対人民派の分析『東大陸』14-10、10月1日

外交家の語彙[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』10月4日

欧亜気流[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』10月25日

著作の倫理『大阪朝日新聞』10月30、31日
新意志の国際行動『大亜細亜主義』43、11月1日[『行動政治哲学』収録]
ローズヴェルト氏のアメリカ[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』11月8日
本社主催外交問題座談会『早稲田大学新聞』54、55、11月11、18日[座談会：清沢淵、太田宇之助、鹿島守之助、河野密、鈴木東民、松本忠雄]
大戦当時の世界と今日の世界『外交時報』767、11月15日[『行動政治哲学』収録]
独学運動の一年を顧みて『新天地』2・2、11月15日
支那のナショナリズム[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』11月15日
輸出の意義[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』11月29日
国際情勢と明日『大亜細亜主義』44、12月1日
青年に於ける矛盾[「現代と青年」]『日本評論』11-12、12月1日
[「本年度の傑作(端書回答)」]『文芸懇話会』1-12、12月1日
必然を明視せよ[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』12月6日
保守及革進の原理『早稲田政治経済学雑誌』50、12月10日[「保守及び革新の原理」と改題、『行動政治哲学』収録]
国際情勢と明日『講演時報』13-70、12月15日[11月27日講演於日本青年館]
事変後の支那とその近代国家化運動[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』12月20日

1937 (昭和 12) 年

西安事件と日支関係(座談会)『大亜細亜主義』45、1月1日[12月15日座談会(於日比谷陶々亭)：郁達夫、陳博生、大西齊、下中弥三郎、中谷武世]
国際道徳と国内道徳『丁西倫理会倫理講演集』411、1月1日[『行動政治哲学』収録]
日独協定を繞りて『東大陸』15-1、1月1日
お尋ねに應へて[口絵、「幸い来る」]『婦人之友』31-1、1月1日
今日及び明日の教育を語る『婦人之友』31-1、1月1日[座談会：赤井米吉、井上秀子、嘉納治五郎、小西重直、小林澄兄、鈴木梅太郎、関口泰、湯浅八郎、羽仁吉一、羽仁もと子]
西安事変と背後に来る可きもの[「統一に悩める支那」]『早稲田大学新聞』59、1月1日
*日本民族に対する認識条件の不備『新東洋』6-3、3月
杉森教授帰朝座談会 近代国家建設への行動者 若き比・支・暹[記者によるインタビュー]『早稲田大学新聞』67、4月14日
比・暹・支那を一貫する動きと我が国策『大亜細亜主義』49、5月1日
フィリッピンを主題として『早稲田学報』507、5月10日
日比経済提携の創造的新展開—最近の視察より歸りて—『ダイヤモンド』25-14、5月11日
最近の比律賓事情[4月22日於東京銀行倶楽部晚餐会]『銀行通信録』616、5月20日

フィリッピンの問題と国際社会化の問題『外交時報』780、6月1日

フィリッピンと我国策『月刊日本及日本人』349、6月1日

フィリッピン・シヤム等の社会とその生命の動き『中央公論』52-6、6月1日

フィリッピンの現在及び将来『東大陸』15-6、6月1日

国民性の陶冶『婦人之友』31-6、6月1日[4月30日座談会(於南沢):小西重直、野上豊一郎、今井登志喜、柳田国男、蟬山政道、佐々弘雄、三木清、羽仁吉一、羽仁もと子][『三木清研究資料集成』第3巻(クレス出版、2018年)収録]

颯爽新内閣の登場と政局の動向『ダイヤモンド』25-17、6月11日[座談会:河上丈太郎、山崎靖純、小島精一、赤松克麿、斎藤直幹、御手洗辰雄]

青年フィリッピン[「比島土産話」]『新天地』3-3、6月15日

"室伏高信全集"を読む『早稲田大学新聞』76、6月16日

東亞諸族の近状と我々の責任[『第二早稲田高等学院学友会雑誌』42、7月1日

『フアツシヨは強いか弱いか』大座談会『世界知識』10-7、7月1日[5月24日座談会(於陶々亭):木下半治、佐々弘雄、清沢洵、鈴木東民、町田梓楼、三輪寿壮]

南方関係の倫理『丁酉倫理会倫理講演集』417、7月1日

フィリッピンの分析と再綜合『道德教育』6-7、7月1日

ヒリッピンの将来『日本評論』12-7、7月1日

次代を造るために『日本評論』12-7、7月1日[座談会:小泉丹、友枝高彦、石本静枝、赤井米吉、暉峻義等、除村吉太郎]

金子先生の本質『理想』75、7月1日

明治四十年前後の金子先生の一追慕[「金子博士追悼録」]『早稲田文学』4-7、7月1日

政治意識の抬頭とその指導原理『いのち』5-8、8月1日

世界教育会議の権能と限界と当為『日本読書新聞』16、8月5日

フィリッピン土産話[1937年6月16日講演要旨(於日本大学社会学会主催講演会)]『社会学徒』11-9、9月1日

思想動員と北支事変[「時局と思想動員」]『日本評論』12-10、9月1日

北支及び支那問題の観察と展望[「毎月評論」]『婦人之友』31-9、9月1日

時局認識への史眼及び理性[「時局言」]『早稲田大学新聞』81、9月15日

国際大地区主義と日本の責任『公民教育』7-10、10月1日

創造的日本と列国『真理』3-10、10月1日

時局を語る『婦人之友』31-10、10月1日[9月4日座談会(於南沢):蟬山政道、三宅雄二郎、佐野学羽、山本鼎、芦田均、杉山元治郎、高橋亀吉、東畑精一、羽仁吉一、羽仁もと子]

新日本思想史論『理想』76、10月1日

現態の国際日本とその原理的問題—国家における社会性と近代国家—『早稲田政治経済学雑誌』55、10月1日[『国際日本の自覚』収録]

「事変下の学生に与ふ」『三田新聞』380、10月5日

国際日本の必然『いのち』5-11、11月1日

イデオロギーの問題とナショナリズムの問題[「時局とソ連邦」]『月刊ロシヤ』3-11、11月1日

*大亜細亜主義の建設『創造』7-11、11月1日<日本大学総合学術情報センター所蔵>

支那事変と進化史観『帝国教育』709、11月1日

新支那の思想的建設[「支那建設論」]『東大陸』15-11、11月1日

支那事変を如何に意識すべきか『日本評論』12-12、11月1日[『国際日本の自覚』収録]

事変と理論『外交時報』792、12月1日

対英問題の原則『大亜細亜主義』56、12月1日

戦争の社会学『中央公論』52-13、12月1日[『国際日本の自覚』収録]

戦争の哲学と倫理『日本評論』12-13別冊付録「戦争の理論」、12月1日

国際道徳の新原則『理想』79、12月1日[『国際日本の自覚』収録]

「支那をどうする」座談会『文芸春秋』15-17、12月15日[座談会：伊藤好道、木村増太郎、高橋亀吉、中谷武世、西岡竹次郎]

1938 (昭和13) 年

歴史の進行と現存国際諸議定の再検討『いのち』6-1、1月1日

対支根本策『支那』29-1、1月1日

「余は一九三八年に何を期待するか？」『世界知識』11-1、1月1日

日本の将来『セルパン』84、1月1日

国際日本と知識『丁西倫理会講演集』423、1月1日

世界の趨勢と道徳教育『道徳教育』7-1、1月1日

南京征服後及び対ソ英建設策[「解決への道」]『日本評論』13-1、1月1日

第一歩をどこから始めるか『婦人之友』32-1、1月1日[12月1日座談会(於南沢)：入沢達吉、渡辺千冬、小林一三、小西重直、三木清、馬場恒吾、羽仁吉一、羽仁もと子]

新日本思想の方向[「文芸」]『読売新聞』1月1日

国際大地区主義へ その対局的指針[「特輯日支文化工作」]『早稲田大学新聞』93、1月1日

新意義における世界地図塗替へ『九州日報』1月4日

本年の思想界はどうなるか『日本評論』13-2、1月10日

「私の夢」『ダイヤモンド』26-2、1月11日

内ヶ崎氏を囲んで北支文化工作への現地視察を聴く『早稲田大学新聞』94、95、1月19、26日[座談会：内ヶ崎作三郎、青柳篤恒、出井盛之]

思想的転換期に臨んで[「転換期の思想的進路」]『セルパン』85、2月1日

国際大区主義時代『創造』8-2、2月1日

行動日本の発展と教育の責任『帝国教育』712、2月1日

東洋連盟論『東大陸』16-2、2月1日

銃後学生の執る道『日本読書新聞』34、2月5日

現時局と放送文化『放送』8-2、2月15日

国際日本の認識『講演時報』15-6、2月25日[講演於早稲田大学大隈講堂]

*日本民族に対する認識条件の不備『新東洋』7-2、2月

大陸経営の思想的根拠[「大陸を如何に経営するか」]『改造』20-3、3月1日

長期戦下の我国際情勢—国民使節報告中心の座談会『東洋経済新報』1805、3月26日[3月11日座談会(於丸の内常盤家):鈴木文治、笠間杲雄、長谷川如是閑、芦田均、蜂谷輝雄、神原周平、根津知好、山田秀雄、三宅晴暉]

教育精神の再建『教育国語教育』8-4、4月1日

今議会の根本的印象[「今議会の印象」]『セルパン』87、4月1日

対支文化工作の原則『大亜細亜主義』60、4月1日

時論[「対支経綸の基礎意識」「事変と世界」「議会の根本相」]『東大陸』16-3、3月1日

全体主義と部分主義[「革新原理としての全体主義」]『日本評論』13-5、4月1日

壮年『婦人之友』の無類性[「建業三五周年を祝して」]『婦人之友』32-4、4月1日

座談会 社会を一大学校に『婦人之友』32-4、4月1日[3月1日座談会(於南沢自由学園):大口喜六、田沢義鋪、東浦庄治、真島正市、前田多門、羽仁吉一、羽仁もと子]

現代学生の道德意識『理想』83、4月1日

わが人生観の変遷を語る『教育週報』672、4月2日

[「何をなさるか—「起きてから」と「寝る前」]』『教育週報』673、4月9日

優秀文化主義と聖雄主義『新天地』5-1、4月15日

国策に於る世界政策強化と支那問題『早稲田大学新聞』101、4月20日

世界再編成の現段階と日本『いのち』6-5、5月1日[3月26日座談会(於春岱寮):下中弥三郎、黒田礼二、大山卯次郎、石丸藤太、中谷武世]

長期戦争か短期断行か『日本評論』13-6、5月1日

支那に与ふる書[「日本評論支那版」]『日本評論』13-6、5月1日

世界を知る絶対的必要[「気流塔」]『世界週刊』1-3、5月28日

国策における世界政策『外交時報』804、6月1日

日本主義と世界主義[「日本主義の検討」]『セルパン』89、6月1日

西洋料理の止揚[「新修 日本精神読本」]『週刊朝日』33-29、6月12日[『新修日本精神読本』(朝日新聞社編・刊、1938年)収録]

明識操高の嘉納先生『柔道』9-6、6月15日

知仁勇『学友会雑誌』45、6月25日

"全体主義下の生活態度" 工藤直太郎著[「読書特輯」]『早稲田大学新聞』111、6月29日

事変一周年を眼前にして[「事変一周年の感想」]『改造』20-7、7月1日

金子馬治先生『真理』4-7、7月1日

支那事変に於ける国策的趣旨の再認『大亜細亜主義』63、7月1日

荒木文相に与ふる書『中央公論』53-7、7月1日

新世界主義とその説明『丁西倫理會講演集』429、7月1日

二十世紀の道德『日本評論』13-8、7月1日

南洋文化国策『南洋』24-7、7月1日

内閣改造の歴史哲学的把握『文芸春秋』16-11、7月1日

正義貫徹の積極行動 揺るがぬ我が底力[「事変一周年に際して」]『東京日日新聞』7月5日

事変一周年と大局展望『早稲田大学新聞』112、7月6日

Europe's problems and the Japanese angle『Japan To-day』5、8月1日[「ヨーロッパの諸問題と日本の視角」とともに]『Japan To-day』研究 戦時期『文芸春秋』の海外発信 <日文研叢書 48>(人間文化研究機構国際日本文化研究センター、2011年)収録]

時局の発展と真の政治家性『支那』29-8、8月1日

長期戦を戦ひ抜け!『大陸』1-3、8月1日[座談会:尾崎秀実、中野正剛、古野伊之助、広瀬久忠、山之内二郎、平貞蔵]

事変の帰趨と国際情勢[「支那事変收拾の方向」]『東大陸』16-8、8月1日

事変第二年[「事変第二年を迎へて」]『日本評論』13-9、8月1日

大学も国策に沿へ[「選挙・官選・時代」]『読売新聞』8月6日

事変と蘇連の動き座談会『文芸春秋』[時局増刊 11 現地報告]16-14、8月10日[座談会:新庄健吉、竹尾式、直井武夫、中谷武世、林群喜、富士辰馬、丸山政男]

所感[「日米学生会議特輯」]『三田新聞』399、8月15日

大学の存在理由と文政当局の責任[「帝国大学改革問題」]『改造』20-9、9月1日

*太平洋問題の今明日『外地評論』[1-5、9月1日]

イギリス 食料代用品は極度に発達[「欧州大戦で各国はどう戦ったか 銃後国民生活の実際を見る!」]『実業之日本』41-18、9月1日

国民精神総動員の再認識[「精神総動員の再出発」]『日本評論』13-10、9月1日

東亜新文化建設の基調『外交時報』811、9月15日

日支関係と文化『早稲田大学新聞』116、9月28日

政治と文化の関係への予言的事業 自由学園北京生活学校の印象『婦人之友』32-11、10月1日

婦人と知識『婦女新聞』1999、10月2日

東進独逸の今後を語る座談会『東洋経済新報』1835、10月8日[9月23日座談会(於東洋経済新報社楼上):

加田哲二、亀井貫一郎、米田実、清沢冽、石橋湛山]

北支に行きて『早稲田学報』524、10月10日

小泉信三著『アメリカ紀行』[「読書頁」]『東京日日新聞[夕刊]』10月21日

目標と理想[「気流塔」]『世界週刊』1-24、10月22日

北支満疆訪記『改造』20-11、11月1日

現代と読書『書齋』2-11、11月1日[『書齋と読書』(三省堂編・刊、10月10日)収録]

新世界秩序の原則[「文明の前途」]『セルパン』94、11月1日

文化政策の確立へ『日本評論』13-12、11月1日

支那経営大座談会『日本評論』13-12、11月1日[座談会：井上謙吉、尾崎秀実、桑原中佐、村田孜郎、松本忠雄、鈴木少佐、大西斉、横田実、山崎大佐、松本慎一、太田宇之助、神田正雄、高木陸郎、山崎靖純、蟬山政道]

座談会『型を破る』『婦人之友』32-12、11月1日[10月5日座談会(於南沢・自由学園)：三宅雪嶺、三宅火圃、芦田均、尾佐竹猛、大口喜六、長谷川如是閑、羽仁吉一、羽仁もと子]

新欧州秩序の建設(チエツコ問題の分析及び将来)『文芸春秋』16-19、11月1日

「軍事外交一元化」座談会『文芸春秋』16-19、11月1日[10月7日座談会(於星ヶ丘茶寮)：宇治田直義、鹿島守之助、亀井貫一郎、堀真琴]

最善の選択[「現下“海外放送”に望む」]『放送』8-11、11月15日

広・漢陥落を後にして『革新』1-3、11月19日

再建支那の思想・哲学・宗教『大亜細亞主義』68、12月1日

新東亜建設の文化事業と三大必然『帝国教育』722、12月1日

支那事変の本質と方向『日本評論』13-13、12月1日

対支文化行動の原則『日本文化時報』49、12月1日

支那及東亜展望『理想』91、12月1日

世界維新教育会議への要望 正しき意味の現状打開の覚悟『教育週報』73、12月3日

渡支少壮教授団を送る『早稲田大学新聞』125、12月7日

東亜の新事態と今後の国際関係『旬刊時事特輯』7、12月11日

婦人と時局[「一人一題」]『婦女新聞』2010、12月18日

日独文化協定とその将来性『革新』2-1、12月22日

1939 (昭和14) 年

新東亜建設の論理『外交時報』818、1月1日

超近代民族主義『科学知識』19-1、1月1日

新支那への認識『教育国語教育』9-1、1月1日

理想[「隨筆・隨評」]『国際知識及評論』19-1、1月1日

科学と国民生活と大国民的修養『丁酉倫理会講演集』435、1月1日

東亜新民族主義『東大陸』17-1、1月1日

日支歎談の夕『婦人之友』33-1、1月1日[1938年12月6日座談会(於南沢自由学園):王養怡、江人駿、宗介、何庭流、陳達民、劉稻孫、蘇民生、高福怡、張勳銘、安部磯雄、石原純、岡田武松、小西重直、小林澄兄、財部彪、長谷川如是閑、林毅陸、原田竜一、三田村篤志郎、三宅雪嶺、吉岡弥生、羽仁吉一、羽仁もと子]

東亜建設と対英米国策『揚子江』2-1、1月1日

新東亜建設と文化問題『理想』92、1月1日[『東亜協同体思想研究』(日本青年外交協会編・刊、1939年3月12日)収録]

新東亜民族文化の指標『都新聞』1月8、9日

新東亜建設と其の国際分析『支那』30-2、2月1日

事変処理の政治・原理・技術『日本評論』14-2、2月1日

国家と社会との関係における世界史の最近の段階—新東亜及び新世界秩序建設の理論を含む—『早稲田政治経済学雑誌』63、2月1日

アジア問題講座[「読書」]『早稲田大学新聞』128、2月1日

無賠償・領土無割譲・治外法権撤廃—その歴史哲学的観点—[「事変処理の基本条件—近衛声明批判—」]『文芸春秋』[時局増刊17 現地報告]17-4、2月10日

最近の時局とその基礎関係『大亜細亜主義』71、3月1日

新東亜建設と経済問題—国際大地区化と植民的帝国主義止揚—『帝国教育』725、3月1日

この機会における大学一般の改進[「大学革新の行方」]『日本評論』14-3、3月1日

東亜協同体の哲学的基礎『海を越えて』2-4、4月1日

学生に与ふ—青年学徒と時代及時局『改造』21-4、4月1日[室伏高信編『現代学生は何を為すべきか』(四谷書房、1940年)収録]

日本の全体主義を語る『経済情報 政経篇』14-9、4月1日[座談会:伍堂卓雄、谷川徹三、友松円諦、亀井貫一郎、大口喜六、加田哲二、高木寿一、金原賢之助、郷司浩平]

全体主義とデモクラシーの問題『公民教育』9-4、4月1日

新東亜建設と最近の国際『丁酉倫理会倫理講演集』438、4月1日

アメリカの再軍備と極東政策『東大陸』17-4、4月1日

新東亜建設とその国際環境の基礎的把握[「時の問題・人」]『婦人之友』33-4、4月1日

国際学生会議[「水曜評論」]『早稲田大学新聞』134、4月19日

(座談会)戦争の危機と独伊進出の今後を語る『東洋経済新報』1865、4月29日[4月17日座談会(於東洋経済新報社楼上):稲原勝治、直井武夫、町田梓楼、北岡寿一、鮎沢巖、清沢冽、石橋湛山]

自由デモクラシーの行方『外交時報』826、5月1日

新東亜建設と欧米『支那』30-5、5月1日

新東亜建設と国内準備『九州帝国大学新聞』198、5月5日

自由観の挙揚『経済情報 政経篇』14-12、5月10日

世界問題に於ける日本の態度を決定する座談会『経済情報 政経篇』14-12、5月10日[座談会：五来欣造、大山卯次郎、加田哲二、蟬山政道、田川大吉郎、金原賢之助、常盤嘉治]

国民運動の方向を語る 中野正剛氏に註文する座談会『講演』433、5月10日[4月19日新日本文化の会主催座談会(於虎ノ門晩翠館)：倉田百三、藤沢親雄、尾崎士郎、林房雄、津久井龍雄、藤田徳太郎、保田与重郎、佐藤春夫、三宅雪嶺、中河与一、大木惇夫、岡山巖、難波田春夫、中野正剛、富沢有為男、斉藤直幹、佐藤吉熊]

*東亜及びヨーロッパ『外地評論』[2-6、6月1日]

大陸と青年『革新』2-6、6月1日

アメリカをかく見る『大亜細亜主義』74、6月1日

青葉の内外政治談議『ダイヤモンド』27-16、6月1日[座談会：阿倍真之助、松本忠雄、高木友三郎、野崎龍七]

事変の教訓『日本評論』14-6、6月1日

自由主義と全体主義に対する分析的考察『早稲田政治経済学雑誌』65、6月1日

必然の線[「銃眼」]『文芸春秋』[時局増刊21 現地報告]17-12、6月10日

学生の大陸進出『早稲田大学新聞』142、6月14日

時局と最近の国際情勢『外交時報』830、7月1日

蒋介石に与ふ[「事変二周年を迎へて中国に与ふる書」]『日本評論』14-7、7月1日

支那事変の進展と英米関係の再批判[「学芸特輯 事変二周年を迎へて」]『読売新聞[夕刊]』7月4日

青年アジア[巻頭言]『第二早稲田高等学院学友会雑誌』48、7月5日

道理と実力[「軍事同盟が出来たら」]『文芸春秋』[時局増刊22 現地報告]17-14、7月10日

国民動員と輿論『改造』21-8、8月1日[討論：松村秀逸、長谷川宇一、三木清、杉山平助、津久井龍夫、小松東三郎][「三木清研究資料集成」第4巻(クレス出版、2018年)収録]

ルネッサンス文化と現代文化『科学ペン』4-8、8月1日

日英関係のある要点『支那』30-9、9月1日

新経済概念『東大陸』17-9、9月1日

枢軸強化の原則『日本評論』14-9、9月1日

国際現勢と日本の当為『外交』412、9月21日

新東亜建設の再認識『政界往来』10-10、10月1日

亜細亜の危機と黎明『大亜細亜主義』78、10月1日

座談会 世界新情勢の中に立つ『婦人之友』33-10、10月1日[9月13日座談会(於目白・明日館)：芦田均、石渡壯太郎、大蔵公望、清沢洌、鈴木梅太郎、長谷川如是閑、三田村篤志郎、三宅雪嶺、三宅驥一、山本忠興、羽仁吉一、羽仁もと子]

*Leading Characteristics of the present European Crisis 『The Waseda Guardian』10月18日

善隣主義とフィリッピンズ[巻頭言]『海を越えて』2-11、11月1日

最近における国際外交の特徴『世界知識』12-11、11月1日

『超近代民族主義』の鐘は鳴る『文化日本』3-11、11月1日

学問性に於ける東西洋の本質的不二『理想』102、11月1日

座談会 英米対策・独ソ対策をどうする『東洋経済新報』1898、11月25日[11月13日座談会(於東洋経済新報社楼上):植原悦二郎、水野伊太郎、蟬山政道、中野正剛、鹿島守之助、茅原崙山、石橋湛山]

*America and the "Legalistic Approach" 『The Waseda Guardian』11月

欧州動乱の指導的特異性と日本『外交時報』840、12月1日

日米関係の本質—政治に於ける哲学の貧困—『改造』21-13、12月1日

第一次ヨーロッパ戦争と第二次ヨーロッパ戦争との比較(ロシアを第一焦点下に置く)『早稲田政治経済学雑誌』68、12月1日

欧州大戦とアジア民族の動向座談会『文芸春秋』[時局増刊 27 現地報告]17-24、12月10日[座談会:小林元、沢田謙、中谷武世、矢田部保吉、ラス・ビハリ・ボース]

国家的世界的責任の実現へ[「迎春の言葉」]『早稲田大学新聞』159、12月20日

外交日本と世界時局の必然[「皇紀二六〇〇年の動向」]『早稲田大学新聞』159、12月20日

今次欧州大戦の前途観[「欧州大戦の前途と事変処理」]『東洋経済新報』1902、12月23日

*This Year and 25 Years ago 『The Waseda Guardian』12月[?]

1940 (昭和15) 年

世界政策樹立の必要『経済マガジン』4-1、1月1日

今次欧州大戦の三大特徴『公民講座』182、1月1日

民族の強化、発展の倫理『公論』3-1、1月1日

政党再起の条件—その没落の原因は何か—『実業之日本』43-1、1月1日

超三民主義と新支那『大陸』3-1、1月1日[『新世界秩序への炬火』収録]

二千六百年論—歴史の現段階における日本の世界的位置展望—『日本評論』15-1、1月1日

[「二千五百年代を顧みて二千六百年代を想ふ」]『婦人之友』34-1、1月1日

事変処理の根本問題『北海タイムス』1月1、3日

新東亜の建設と事変処理とその方法[「特輯 大陸」]『三田新聞』426、1月1日

*History and the present Stages and its Significance 『The Waseda Guardian』1月17日

歴史的現段階の国民的前進行動綱領『早稲田大学新聞』161、1月17日

米内首相に望む『経済マガジン』4-2、2月1日

隣国政策の基本問題『セルバン』109、2月1日

歴史の必然を無視する勿れ『大亜細亜主義』82、2月1日

日米問題の原則『早稲田大学新聞』166、2月21日

- *新フェデレーションの問題[英文、原題未詳]『The Waseda Guardian』2月
- 対外国策の要件『外交時報』846、3月1日
- 真の「自主独立」『経済マガジン』4-3、3月1日
- 国威の問題『公論』3-3、3月1日
- 必然の線『創造』10-3、3月1日
- 新連邦運動の問題—ヨーロッパ及びアメリカに於ける—『丁酉倫理会講演集』449、3月1日
- 読書論『日本読書新聞』111、3月1日
- 国策と世界政策『日本評論』15-3、3月1日
- 政治と国民『実業之日本』43-6、3月15日
- ロシアとアメリカ『報知新聞』3月16～18日
- 就職に関する前途の見透し[「現代学生論」]『読売新聞』3月19日
- 兵役関係と時局への意識[「現代学生論」]『読売新聞』3月20日
- 世界時局の分析『早稲田政治経済学雑誌』69・70、3月31日
- *ウエルズ使節について[英文、原題未詳]『The Waseda Guardian』3月
- *外交日本と時局の必然『経済建設』12-3、3月
- ウエルズ使節の訪欧と世界時局『経済マガジン』4-4、4月1日
- 教育国策論—超近代民族主義の教育を翹望する—『国民学校』1-1、4月1日
- ウエルズ使節の訪欧と東亞『支那』31-4、4月1日
- 対英問題の原則『大亜細亜主義』84、4月1日
- 渦旋と潮流[「生活随想」]『婦人之友』34-4、4月1日
- 座談会 新政権成立後の重要問題『東洋経済新報』1916、4月13日[3月29日座談会(於東洋経済新報社楼上): 茅原崙山、波多野鼎、清沢洌、高垣寅次郎、大口喜六、石浜知行、太田宇之助、内山徳治、根津知好]
- 西太平洋及東南アジア問題『早稲田大学新聞』172、4月24日
- 二千六百年論 歴史の現段階における日本の世界的位置及展望『布哇報知』4月29日
- The peace problem and the United States『Contemporary Japan』9-4、4月
- *諸小国の運命[英文、原題未詳]『The Waseda Guardian』4月
- *平和問題と合衆国[英文、原題未詳]『The Waseda Guardian』4月
- *日米関係の根本原則『士』7、4月
- 北歐時局亦是を証す『経済マガジン』4-5、5月1日
- 新東亞政策の具体策並に世界列国の動向『公論』3-5、5月1日[座談会: 大蔵公望、嘉治隆一、宮崎正義、田代少佐、渡辺金三、吉野大佐]
- 座談会「この頃の問題」を語る『婦人之友』34-5、5月1日[4月10日座談会(於南沢・自由学園): 大口喜六、大蔵公望、桑木或雄、小西重信、清沢洌、津久井龍雄、長谷川如是閑、湯沢三千男、羽仁吉一、羽

仁もと子]

問題の蘭領印度『東洋経済新報』1919、5月4日[座談会：下田文一、花田菊造、飯沢章治、岡野茂蔵、神原泰、鈴木弘文、渡邊勝家、山川端夫、内山徳治、根津知好]

*Education and the Items『The Waseda Guardian』5月

白蘭侵入と日米伊ソの動き『経済マガジン』4-6、6月1日[座談会：長谷川正道、金沢正夫、茅原崙山、清沢洌、清瀬一朗、野崎龍七]

ヨーロッパの時局と吾人『丁酉倫理会倫理講演集』452、6月1日

アメリカと欧州戦争[「ドイツの進出とその後に来るもの」]『東大陸』18-6、6月1日

技術の社会性『道路』2-6、6月1日

日本の行くべき道の再確認『日本評論』15-6、6月1日

ヨーロッパの運命と日本『東洋経済新報』1924、6月8日[座談会：板倉進、半沢玉城、金内良輔、田代格、芦田均、清沢洌、馬場恒吾、出井盛之、内山徳治、村山公三]

本質的科学教育『早稲田大学新聞』179、6月12日

政党解消と日本政治の方向『実業之日本』43-12、6月15日

*The new World Order and the Way hitherto『The Waseda Guardian』6月19日

今昔二十年『中外商業新報』6月25~27日

思想と科学[「新秩序編成論」]『世界週刊』3-25、6月29日

現下欧州戦争の意義(国際大地域主義と新東亜建設の要義)『外交時報』854、7月1日

世界観『公論』3-7、7月1日

対欧策の基本条件『セルパン』10-7、7月1日

英独の決戦と我が外交策『東洋経済新報』1928、7月6日[座談会：石川準十郎、伊藤敬、茅原崙山、金内良輔、田村幸策、船田中、斉藤忠、石橋湛山、出井盛之、内山徳治、根津知好]

新政治体制への要望 思想的に聡明なるものを求む[「学芸」]『読売新聞[夕刊]』7月18日

完全撤収が急務 わが地理的歴史的使命[「東亜新秩序野癩 敵性租界」]『東京日日新聞』7月24日

*The 7th Japan-American Student Conference『The Waseda Guardian』7月

対米外交の原則『アメリカ』1-3、8月1日

太平洋の将来『固本盛国』4-8、8月1日

ヨーロッパ中心の世界地図『同盟グラフ』155、8月1日

近衛公に望む『日本評論』15-8、8月1日

新政治体制に関する座談会『民政』14-8、8月1日[7月20日座談会(丸の内常磐家)：中野登美雄、小松芳喬、時子山常三郎、小川郷太郎、中島弥団次、松村謙三、勝田永吉、中井川浩、宮沢胤勇]

世界の大転換[「欧州大戦大特輯」]『雄弁』31-8、8月1日

新世界観の確立 創造的指導的教學刷新[「近衛公に望む」]『東京日日新聞』8月6日

新世界観と新外交政策[「新政治体制に希望す」]『報知新聞』8月10日

福沢先生の超時代的存在理由 ” 福沢先生の人と思想” 『三田新聞』 438、8月10日

新体制運動と学生 『日本評論』 15-9、8月20日

On Japan's foreign policy[「The European war and its effects」] 『Contemporary Japan』 9-8、8月

新東亜建設とシンガポールと東経一八〇度—政治が経済に先行すべき場合— 『経済マガジン』 4-10、9月1日

東亜新秩序と欧州新秩序 『大亜細亜主義』 89、9月1日

太平洋の将来 『祖国』 12-9、9月1日

*From Greater Nationalism to a real Cosmopolitanism 『The Waseda Guardian』 9月18日

外交に世界政治的背景あれ[「時評」] 『東洋経済新報』 1940、9月28日

新東亜建設における一飛躍[「仏印進駐と東亜の新事態 日本外交の転機と国内政治」] 『改造』 22-19、10月2日

日独伊三国同盟の世界史的意義 『早稲田大学新聞』 188、10月2日

高度国防国家の確立と外交転換の座談会 『現地報告』 37、10月10日[座談会：内田繁隆、齋藤忠、野村重臣、平野学]

新世界体制の原則[文責在記者] 『東洋経済新報』 1944、10月26日

*Modern Thoughts and Totalitarianism 『The Waseda Guardian』 10月

対米認識 『経済マガジン』 4-12、11月1日

三国同盟の世界史的意義 『大陸』 3-11、11月1日[『新世界秩序への炬火』収録]

外交転換の原則 『東大陸』 18-11、11月1日[『新世界秩序への炬火』収録]

世界政治の急要性 『早稲田政治経済学雑誌』 73、11月1日

指導者主義と文化主義[英文、原題未詳] 『The Waseda Guardian』 11月

三国同盟の世界史的意義 『海之世界』 34-12、12月1日

アメリカの認識 『外交時報』 865、12月1日[『新世界秩序への炬火』収録]

民族主義と超民族主義へ 『支那』 31-12、12月1日

現代青年層の倫理 『ラヂオ講演講座』 123、12月1日

時局と学生[論説] 『早稲田大学新聞』 196、12月4日

世界情勢とその思想的背景 『早稲田大学哲学年誌』 10、12月30日[『新世界秩序への炬火』収録]

*思想と政治[英文、原題未詳] 『The Waseda Guardian』 12月

1941 (昭和16) 年

日米関係の打開 『大亜細亜主義』 93、1月1日

知性の開発 『大陸新報』 1月1日

アメリカ性格の認識と太平洋問題の原則 『東大陸』 19-1、1月1日[『新世界秩序への炬火』収録]

【「一 現時局における日本人の欠点 二 日本文化の欠陥 三 最近感心されたこと」】『近きより』5-1、1月5日

*普遍的国交調整論[英文、原題未詳]『The Waseda Guardian』1月、2月、3月

歴史と理性—時局方法論の原則—『丁酉倫理会講演集』460、2月1日

普遍的国交調整論『東大陸』19-2、2月1日[『新世界秩序への炬火』収録]

天下の受験生に『早稲田大学新聞』205、2月26日

アメリカの誤謬『セルバン』11-3、3月1日[「デモクラシーの過、現、未」と改題、『新世界秩序への炬火』収録]

ハーバード大学教授団への公開状『改造』23-6、3月2日[『新世界秩序への炬火』収録]

*興亜青年に望む『新天地』10-6、4月1日

新東亜建設と国際大隣組[3月18日講演筆記於自由学園男子部、講筵十二ヶ月]『婦人之友』35-4、4月1日

学生と教養[論説]『早稲田大学新聞』209、4月23日

国内体制の再強化[「躍進日本の検討」]『新愛知[夕刊]』4月24日

国内体制再強化『河北新報』4月29日

民族主義の現段階とその前後(歴史哲学的一考察)『早稲田政治経済学雑誌』76、4月30日[『新世界秩序への炬火』収録]

*Guiding Principles of Greater East Asia[岸本一郎訳]『The Waseda Guardian』4月[5月?]

政治の先行性と世界政治『現代』22-5、5月1日[「政治の先行性」と改題、『新世界秩序への炬火』収録]

愛・敬・進歩的文化主義『国際知識及評論』21-5、5月1日

青年の政治的関心[「特輯 青年と教養」]『新文化』11-5、5月1日

日ソ中立条約成立の意義『大亜細亜主義』97、5月1日

政治と教学の問題『東大陸』19-5、5月1日[『新世界秩序への炬火』収録]

超近代民族主義の必然と欧州戦乱『世界週刊』4-18、5月3日[『新世界秩序への炬火』収録]

鋼材体制の再強化『福岡日日新聞』5月3日

欧州戦の新段階と我が方針『東洋経済新報』1971、5月17日[5月6日座談会(於東洋経済新報社楼上):堀内謙介、高橋三吉、蟬山政道、石橋湛山、根津知好]

官僚論[「問題の新官界体制」]『ダイヤモンド』29-15、5月21日

英独戦をめぐる国際政局座談会『祖国』13-6、6月1日[5月7日座談会(於丸の内常磐家):福田一郎、原口初太郎、沢田謙、大石巨巖、匠瑛胤次、北吟吉、渡辺卓也]

炉辺談話と時局[「時観」]『北海タイムス[夕刊]』6月6日

時局と米国『新愛知[夕刊]』6月7日

"明日への戦ひ"[「試写室」]『早稲田大学新聞』217、6月18日

[「独ソ戦と諸専門家の見解」]『東洋経済新報』1977、6月28日

見透しと時局『丁酉倫理会倫理講演集』465、7月1日
アジア共同防衛論『東亜解放』3-7、7月1日
ウクライナ攻略と英米[「時観」]『北海タイムス[夕刊]』7月23日
私立大学論[「特輯大学論」]『科学ペン』6-8、8月1日
独ソ戦の原因分析と将来『大亜細亜主義』100、8月1日
日本科学技術の為に『日本評論』16-8、8月1日[座談会：松前重義、石原励、本多静雄、菅井準一、青柳芳彦、後藤正夫]
前欧州大戦の文化史的意義『理想』123、8月1日
近代民族主義の分析『社会学』8、8月2日
独ソ戦の原因と本質『外交時報』881、8月15日
国民同志結集運動のために[「特輯 国民同志組織の展開」]『現代』22-9、9月1日
超非常時論『日本評論』16-9、9月1日
世界の理想主義を動員せよ[「経国時論」]『報知新聞』9月5日[『新世界秩序建設の書』収録]
英米の自由観念を排す[「経国時論」]『報知新聞』9月8日[「自由が泣く」と改題、『新世界秩序建設の書』収録]
学校報国隊に就いて『福岡日日新聞[夕刊]』9月10、11日
共栄圏建設の環境を知れ[「経国時論」]『報知新聞』9月11日[「新東亜建設の環境」と改題、『新世界秩序建設の書』収録]
学校報国隊の意義について『新愛知[夕刊]』9月13日
枢軸の公道性を貫け[「経国時論」]『報知新聞』9月15日[「見透しと理想」と改題、『新世界秩序建設の書』収録]
世界的理解を持って[「経国時論」]『報知新聞』9月18日[「世界を指導すべき世界観」と改題、『新世界秩序建設の書』収録]
英米の独断を許さず[「経国時論」]『報知新聞』9月22日[「独ソ戦の将来」と改題、『新世界秩序建設の書』収録]
大東亜民族に寄す[「経国時論」]『報知新聞』9月25日[『新世界秩序建設の書』収録]
再認識せよ地理的国策[「経国時論」]『報知新聞』9月29日[「海陸両建の必然の意義の再認識」と改題、『新世界秩序建設の書』収録]
座談会 東亜の文化を語る『科学ペン』6-10、10月1日[座談会：長谷川如是閑、太田正雄、後藤末雄]
戦争と道徳『新女苑』5-10、10月1日[座談会：大串兔代夫、河上徹太郎、阿部静江]
無償の倫理『新文化』11-10、10月1日
[「最近の学生諸君の印象」]『新若人』2-7、10月1日
イギリスに与ふ『日本評論』16-10、10月1日
国土を護れ 避難するな破難せよ[口絵]『婦人之友』35-10、10月1日
発揮せよ東亜指導力[「経国時論」]『報知新聞』10月2日[「指導時代」と改題、『新世界秩序建設の書』収録]

『三国同盟と大東亜建設』を語る『東洋経済新報』1941、10月5日[対談：中野正剛]

哀れむべし英の無理想[「経国時論」]『報知新聞』10月6日[「ロイド・ジョージとチャーチル」と改題、『新世界秩序建設の書』収録]

世界は第二の廃藩置県へ[「経国時論」]『報知新聞』10月9日[「評論家の職域」と改題、『新世界秩序建設の書』収録]

許すな追はるゝ白人の恣意[「経国時論」]『報知新聞』10月13日[「ヨーロッパに喪志すべき英米及びロシヤとその新方向」と改題、『新世界秩序建設の書』収録]

ソ連の敗因は不徳の二字[「経国時論」]『報知新聞』10月16日[「最大のロシヤの敗因」と改題、『新世界秩序建設の書』収録]

撃て九国条約の傀儡[「経国時論」]『報知新聞』10月23日[「原則と理想」と改題、『新世界秩序建設の書』収録]

米の反省に心許すな[「経国時論」]『報知新聞』10月27日[「新展開に備へよ」と改題、『新世界秩序建設の書』収録]

正しき時局観の根本要件[「時評」]『三田新聞』471、10月29日

歴史進展の深奥を掘め[「経国時論」]『報知新聞』10月30日[「新宗教来?」と改題、『新世界秩序建設の書』収録]

ソ連の敗因と米国への反省『大亜細亜主義』103、11月1日

外交政治[「政局の新段階と国策の完遂」]『ダイヤモンド』29-31、11月1日

アメリカ文化批判『東大陸』19-11、11月1日

時局と学徒青年『新若人』2-8、11月1日

力を以て米国に応へよ[「経国時論」]『報知新聞』11月3日[「国民の覚悟」と改題、『新世界秩序建設の書』収録]

わが国力既に厳然たり[「経国時論」]『報知新聞』11月6日[「最後の理由」と改題、『新世界秩序建設の書』収録]

Towards a new religion? 『Japan College Review (The Waseda Guardian)』40、11月9日

見よ米とパナマの適性『報知新聞』11月10日[「横断面的観察を救へ」と改題、『新世界秩序建設の書』収録]

英米の共通性と特異性『早稲田政治経済学雑誌』78・79、11月10日

臨時議会の決意を示せ『報知新聞』11月13日[「議会政治家諸公に要望す」と改題、『新世界秩序建設の書』収録]

『A B C D R』について『外交時報』887、11月15日

外国におけるブック・レビュー『日本読書新聞』175、11月17日

指導性の発揮へ 議会主義更正存続の途[「経国時論」]『報知新聞』11月17日[「指導性の発揮へ」と改題、『新世界秩序建設の書』収録]

対米問題処理の原則『報知新聞』11月20日[「真価実力主義による適材適所の普遍的断行に進め」と改題、『新世界秩序建設の書』収録]

アメリカへ物申さん『報知新聞』11月24日[「資源の倫理と日米問題」と改題、『新世界秩序建設の書』収録]

録]

東亜の資源確保は絶対『報知新聞』11月27日[「共栄圏確立と枢軸強化への国民的再認識」と改題、『新世界秩序建設の書』収録]

太平洋作戦と米国の実力『経済マガジン』5-12、12月1日[11月11日座談会：伊藤七司、木村禧八郎、高橋才次郎、中島銚三]

文化と政治『国民美術』1-3、12月1日

日米戦ふべき及戦ふべからざる理由『日本評論』16-12、12月1日

南方諸民族の心を掴め『報知新聞』12月1日[「南方諸民族の心を攪れ」と改題、『新世界秩序建設の書』収録]

東亜共栄圏に栄辱の危機『報知新聞』12月4日[「主義の勝利」と改題、『新世界秩序建設の書』収録]

米国民族対策の誤謬『報知新聞』12月8日[「この機会に禍根を能ふ限り深く絶て」と改題、『新世界秩序建設の書』収録]

討米英の必然『早稲田大学新聞』234、12月10日

南方移住と教育[「経国時論」]『報知新聞』12月15日[「大東亜建設と教育、練成及び拮住」と改題、『新世界秩序建設の書』収録]

A new World Order which should follow the present Chaos『Japan College Review (The Waseda Guardian)』41、12月17日

The War of Emancipating the Enslaved Peoples in Greater East Asia『Japan College Review (The Waseda Guardian)』42、12月17日

大東亜に住み込め[「経国時論」]『報知新聞』12月18日[「大東亜各地の中心人口を造れ」と改題、『新世界秩序建設の書』収録]

固めよ国民の貫戦決意[「経国時論」]『報知新聞』12月22日[「極度の敬虔性と完全なる国民的貫戦意思」と改題、『新世界秩序建設の書』収録]

比島よ大東亜に還れ[「経国時論」]『報知新聞』12月25日[「大東亜解放軍に帰属すべき比島軍」と改題、『新世界秩序建設の書』収録]

文化的な大東亜の建設へ[「経国時論」]『報知新聞』12月30日[「世界史転回への巨歩」と改題、『新世界秩序建設の書』収録]

1942 (昭和17) 年

*討米英必然の再認識『創造』12-1、1月1日

大東亜戦争の必然[「特輯 英米打倒論」]『日本評論』17-1、1月1日

杉森『最後の肚』座談会『婦人之友』36-1、1月1日[11月17日座談会(本社明日館)：郷古潔、鈴木梅太郎、豊田薫、那須皓、松本重治、三宅雪嶺、羽仁吉一、羽仁もと子]

若き女性に与ふる言葉『令女界』21-1、1月1日

大東亜戦争の生活的意義[「経国時論」]『報知新聞』1月2日[「諸事改革これより始まらん」と改題、『新世界秩序建設の書』収録]

大東亜建設に徹底せよ[「大東亜論壇」]『報知新聞』1月5日[『新世界秩序建設の書』収録]

大東亜共栄圏を語る『同盟グラフ』273、1月7日

大東亜建設要綱[「特輯 大東亜建設綱領」]『東大陸』20-1、1月8日

小民族の独立概念修正[「大東亜論壇」]『報知新聞』1月12日[「大地域指導国家時代と後進民族独立の新概念」と改題、『新世界秩序建設の書』収録]

文章報国の責務[「戦時提言 評論家愛国大会を機会に」]『朝日新聞』1月13日

創造的世界政策こそ必要[「大東亜論壇」]『報知新聞』1月19日[「これ第二の世界維新なり」と改題、『新世界秩序建設の書』収録]

民族的天才性の自覚を持って[「大東亜論壇」]『報知新聞』1月27日[「民族の天才性への自覚」と改題、『新世界秩序建設の書』収録]

大東亜建設の要義『大亜細亜主義』106、2月1日

対比根本策の原則[「寄稿」]『比律賓情報』56、2月1日

興亜教育指導者の条件[「大東亜論壇」]『報知新聞』2月3日[「大東亜建設と教育」と改題、『新世界秩序建設の書』収録]

大東亜教育の指標[「教育の決戦的建設」]『教育週報』873、2月7日

興亜宗教政策の絶対内容[「大東亜論壇」]『報知新聞』2月10日[「大東亜建設と対宗教政策」と改題、『新世界秩序建設の書』収録]

シ港の陥落と共栄圏[「大東亜論壇」]『報知新聞』2月18日[「雪辱以上のもの」と改題、『新世界秩序建設の書』収録]

The Program of Politics Regarding Religions in Greater East Asia and the World『Japan College Review』42、2月18日

総選挙と国民の義務[「大東亜論壇」]『報知新聞』2月25日[「総選挙を眼前にして」と改題、『新世界秩序建設の書』収録]

戦時下学徒青年は何を読むべきか『新若人』2-12、3月1日[座談会：池島重信、来間恭、小山隆、中河与一、仁科芳雄、松本潤一郎、赤尾好夫、池田佐次馬]

大いなる怒を貫け『婦人朝日』19-3、3月1日

共栄圏建設と博展—大東亜戦争と博展企画『博展』67[合併11号]、3月1日

受験生に与ふる言葉『早稲田大学新聞』243、3月4日

我国民非常時の責務[「大東亜論壇」]『報知新聞』3月5日[「国内摩擦を避くべき非常時代の責務」と改題、『新世界秩序建設の書』収録]

民族的求心主義の発展的 pursuit 実現[「大東亜論壇」]『報知新聞』3月11日[「すべてこれ真価実力の効」と改題、『新世界秩序建設の書』収録]

国際大地域的指導国家主義時代『外交時報』895、3月15日

領土性における時代的革新 国家の内容と形態の拡大に起因『三田新聞』481、3月19日

機微性と大本達道[「大東亜論壇」]『報知新聞』3月23日[「時局に於ける機微性と大本達道」と改題、『新世界秩序建設の書』収録]

茲に思想戦上の急務[「大東亜論壇」]『報知新聞』3月30日[「思想戦上の急務」と改題、『新世界秩序建設の書』収録]

- *東亜共栄圏の世界秩序に於ける地位『投資経済』臨時増刊、3月
- 共栄圏政治の世界的影響『興亜』3-4、4月1日
- 大東亜戦争の必然と国際大地域の指導国家主義の原則『ドイツ』3-7、4月1日
- 改過遷善の断行[「大東亜論壇」]『報知新聞』4月7日[「新旧候補者の自覚」と改題、『新世界秩序建設の書』収録]
- 大東亜建設と倫理『東大陸』20-4、4月8日
- 新宗教来?『創生亜細亜』1、4月10日
- 大東亜戦争の必然『創生亜細亜』1、4月10日
- 大東亜共栄圏と民族問題『東洋経済新報』2016、4月11日[3月23日座談会:伊藤敬、大串兎代夫、加田哲二、金内良輔、成田節男、石橋湛山、佐藤伊兵衛]
- 翼賛選挙と文化人 一大勢力を構成せよ 高度政治への正しき参与『日本読書新聞』195、4月13日
- 調査と指導構想[「大東亜論壇」]『報知新聞』4月13日[「大局と調査」と改題、『新世界秩序建設の書』収録]
- 時代の把握と指導[巻頭言]『実業之日本』45-8、4月15日
- 国防政治学建設の問題[「特輯 国防政治学への論策」]『早稲田大学新聞』245、4月15日
- 大東亜新秩序と欧州新秩序[「大東亜論壇」]『報知新聞』4月21日[『新世界秩序建設の書』収録]
- 指導選挙とその責任[「大東亜論壇」]『報知新聞』4月28日[「指導選挙主義の世界的時代性とその責任」と改題、『新世界秩序建設の書』収録]
- 今後の政界戦局を語る『経済マガジン』6-5、5月1日[4月17日座談会(於大東亜会館):芦田英祥、匠瑛胤次、木村禧八郎、斉藤忠]
- 女性と新世界観『婦人日本』8-5、5月1日[座談会:城戸幡太郎、阿部静枝、井上吉次郎]
- 国民の新覚悟[「大東亜論壇」]『報知新聞』5月5日[「専ら千年の計に拠るべし」と改題、『新世界秩序建設の書』収録]
- 神川氏の『世界新秩序論』 残されたる指導性の把握『三田新聞』487、5月12日
- 世界の公敵を討つ[「大東亜論壇」]『報知新聞』5月13日[「世界のために世界の公敵を討つ」と改題、『新世界秩序建設の書』収録]
- 陋劣な人種戦術[「大東亜論壇」]『報知新聞』5月21日[「卑劣なる人種戦術の徹底的撃破」と改題、『新世界秩序建設の書』収録]
- 思想指導に万全[「大東亜論壇」]『報知新聞』5月30日[「完全なる思想指導へ」と改題、『新世界秩序建設の書』収録]
- 日本語の海外進出について『中央公論』57-6、6月1日[2月14日国民学術協会国語問題研究会:桑木巖翼、土居光知、清沢冽、牧野英一、阿部賢一、穂積重遠、三浦新七]
- 政治の「新方向」のための原則『日本評論』17-6、6月1日
- 共栄圏建設と女性の新生活目標『令女界』21-6、6月1日
- 合衆国及びイギリスの過誤『外交時報』902、7月1日
- 倫理なき国家は亡ぶ[「米英国民に与ふ」]『読売新聞』8月1日[「米英国民に与ふ」と改題、『新世界秩序建設の書』元収録]

「正木呉『人生断章』を評す」『近きより』6-8、8月5日
 現代文化における宗教の役割『中外日報』8月14～16日
 一茶その他[「読書随想」]『婦人之友』36-9、9月1日
 大東亜文化の概念[「学芸」]『早稲田大学新聞』265、9月2日
 [「門出の学徒に望む」]『早稲田大学新聞』265、9月9日
 学制改革の意義『実業之日本』45-19、10月1日
 孤立の米国[「世界大憲章宣言」]『日本評論』17-10、10月1日
 日本人の倫理性[「女性倫理の指向」]『婦人日本』8-10、10月1日
 国民文化創造の原理『文化日本』6-10、10月1日
 時代と豪州『東大陸』20-10、10月8日
 帝国主義と国際大地域的指導国家主義との比較『外交時報』909、10月15日
 道義性の問題『早稲田大学新聞』272、11月11日
 新理念の確立と言論『東洋経済新報』2047、11月14日[座談会：長谷川如是閑、谷川徹三、大熊信行、
 竹本孫一、金子弘、石橋湛山]
 世界一化の必然[「無門関」]『西日本新聞[夕刊]』11月22日
 世界一化の必然[「時観」]『北海道新聞[夕刊]』11月25日
 *青年と時代『大義』11月
 *国際大地域的指導国家主義時代の経済『新東亜経済』[1-3]、11月
 日本思想顕揚への考察『ダイヤモンド』30-34、35、12月1、11日
 大東亜戦と世界新秩序の動向『ドイツ』3-23、12月1日
 座談会 必勝の道『婦人之友』36-12、12月1日[1月24日座談会(於婦人之友本社明日館)：天羽英二、石
 渡荘太郎、長谷川如是閑、東浦庄治、松本重治、羽仁もと子]
 必勝の理由の再確認と我等の覚悟『早稲田大学新聞』275、12月2日
 物と心との関係『東大陸』20-12、12月8日
 自衛と世界理性[「時観」]『合同新聞[夕刊]』12月12日
 自衛と世界理性[「時観」]『北海道新聞[夕刊]』12月13日
 敵愾心の絶対性[「時観」]『合同新聞[夕刊]』12月22日
 敵愾心の絶対性[「時観」]『北海道新聞[夕刊]』12月25日

1943 (昭和18) 年

指導者養成の理念『経国』10-1、1月1日
 統治文化の創造『興亜』4-1、1月1日
 民族と人間と文化『丁酉倫理会講演集』483、1月1日

大東亜建設と世界観『東洋』46-1、1月1日
生産強化と経営[「無門関」]『西日本新聞[夕刊]』1月12日
経営組織の問題[「時観」]『合同新聞[夕刊]』1月17日
技術と経営の問題[「時観」]『北海道新聞[夕刊]』1月17日
新経済学の樹立へ[「論説」]『早稲田大学新聞』282、1月20日
勝ち抜くために『早稲田大学新聞』282、1月20日
文化人の報国精神『日本美術』2-2、2月1日
前ヨーロッパ戦争から今次戦争への時代の歴史哲学的意義『外交時報』918、3月1日
座談会 結婚をめぐる諸問題『婦人之友』37-3、3月1日[1月24日座談会(於婦人之友本社明日館):川上理一、杉山元治郎、田中孝子、谷川徹三、羽仁吉一、羽仁もと子]
学実一如の青年を『早稲田大学新聞』288、3月3日
新領土秩序の確立—国際大地的指導国家主義[「世界新秩序の構想」]『東洋経済新報』2062、3月6日
個と全体の考察への鍵『丁酉倫理会倫理講演集』486、4月1日
*決戦下学生の感激と理念『経済マガジン』7-5、5月1日
理性統一の原則 決断下読書の重要性を思ふ『日本読書新聞』252、6月5日
米英的世界観の誤謬『理想』145、6月5日
創造的理性主義の道[「無門関」]『西日本新聞[夕刊]』7月23日
自反=創造=貫徹『婦人之友』37-8、8月1日
徹底科学主義の宣揚『鉄鋼統制』3-8、8月12日
科学技術文化における世界的優秀を創れ[「特輯 知能動員と科学戦」]『日本評論』18-9、9月1日
座談会 大東亜の隣組『婦人之友』37-9、9月1日[8月1日座談会(於南沢):秋元真次郎、市河彦太郎、板垣与一、高橋三吉、林久治郎、羽仁吉一、羽仁もと子]
徹底科学主義の意義[「論説」]『早稲田大学新聞』308、9月1日
学徒出陣の意義『早稲田大学新聞』312、10月13日
学徒出陣の意義『日本読書新聞』272、10月23日
比島新国家と時代『比律賓情報』77、11月1日
世界的優秀文化を創建[「大東亜宣言の五原則 (三)文化昂揚」]『毎日新聞』11月12日
日本精神文化と科学戦—挙国青年学徒の出陣—『実業之日本』46-22、11月15日
わが世界経綸と人間性及び古今殊に近代諸思想の支配の必要『外交評論』23-12、12月1日
世界一化[「時観」]『合同新聞[夕刊]』12月11日

1944 (昭和19) 年

大東亜共同宣言五原則の倫理性『丁酉倫理会倫理講演集』495、1月1日

科学技術の心理学及社会学と時局『早稲田政治経済学雑誌』92、1月1日
 大東亜文化昂揚の理念と構想『国際文化』29、1月10日
 一大家族主義を自覚[「大東亜宣言の顕現」]『朝日新聞』1月13日
 大東亜共同宣言の闡揚『外交時報』939、1月15日
 独立親和[「大東亜共同宣言に寄す」]『合同新聞[夕刊]』1月15日
 年頭に立ちてわが青年学徒に与ふ『早稲田大学新聞』317、1月20日
 独立親和 家族の本質昂揚—諸民族相互敬愛の道—[「大東亜共同宣言に寄す」]『南支日報』2月18日
 大東亜共同宣言と時運—領土的秩序社会化の必然とその支配—『財政』9-4、4月1日
 学問観の純化及び躍進『早稲田大学新聞』321、4月5日
 本質的と世界的と国是—是に於ける我大蔵行政の責任—[「決戦論策」]『経済新誌』1-1、5月15日
 初志貫徹の理由及方法『早稲田大学新聞』324、5月20日
 国民思想発展の外的条件史『丁酉倫理会倫理講演集』500、6月1日
 科学技術の本質とその社会的存在理由『年報社会学研究』<日本社会学会年報>1、6月10日
 *大東亜及世界新秩序建設の三要件『我観』1-1、7月<亜細亜大・北大所蔵>
 清新にして雄絶なる外交力の条件『外交時報』947、7月1日
 [消息]『日本読書新聞』303、7月11日
 初志の弥増す純、強化による貫徹あるのみ『東洋経済新報』2131、7月15日
 新内閣に切望す『東洋経済新報』2133、7月27日[座談会：小汀利得、津久井龍雄、中島弥団次、河野密、
 清瀬一郎、蠟山政道、石橋湛山]
 五来君の追憶『丁酉倫理会講演集』503、9月1日
 輿論明朗化の根本『実業之日本』47-19、10月1日
 戦争目的と手段と時局の現段階『経済新誌』1-11、10月15日
 近代諸思想に対する徹底的支配『丁酉倫理会講演集』505、11月1日
 座談会『国民運動の指針』を語る『東洋経済新報』2148、11月11日[座談会(於東洋経済新報社楼上)：蠟
 山政道、長谷川如是閑、松岡駒吉、赤松克麿、清沢冽、石橋湛山]
 「平和愛好国」及「侵略国」の本質的定義と現代諸国家の責任(ダムバートンとその一系の諸案件に対する根
 本的批判)『外交時報』952、12月1日
 日本文化の発展的方向『言論報国』2-12、12月1日
 最も抽象的なるものが最も具体的である[「大東亜宣言具体化への提言」]『東洋経済新報』2153、12月16
 日

1945 (昭和 20) 年

正、反、合を意義づくるもの『外交評論』25-1、1月1日
 “Peace Loving Nations” and “Aggressive Nations”[「Leading Articles」]『Oriental Economist』12-1、

1月10日

進化史観よりせる桑港会議『外交時報』956、4月1日

戦局の速度と出版『日本読書新聞』327・328、4月1日

力の政治と政治哲学と『第三次世界戦』『丁酉倫理会講演集』510、5月1日

新日本の行くべき道『婦人之友』39・8・9、9月1日[9月9日座談会(於南沢自由学園)：岡部長景、嶺山政道、那須皓、仁科芳雄、三宅雪嶺、羽仁吉一、羽仁もと子][『真理によって歩む道 羽仁吉一・もと子と語る座談集 下』(婦人之友社、2003年4月3日)収録]

新日本建設綱領一私案『我観』2-4、5、10月5日、12月8日[『世界人権の原則』収録]

*再生日本への途『新時代』12-4、10月[『世界人権の原則』収録]

1946 (昭和21) 年

世界のアメリカ化 世界共和国建設の世界史的必要の予影『雄鶏通信』2-1、1月1日

雪嶺氏追憶の一端[「雪嶺三宅雄二郎博士の思ひ出」]『丁酉倫理会講演集』518、2月1日

世界民主主義と科学的宗教『高志人』11-1、2月25日

民主主義を如何に把握すべきか『講演』638、3月1日

新しき政治を語る『婦人之友』40-3、3月1日[座談会：末弘嚴太郎、東畑精一、羽仁吉一、羽仁もと子]

三大急務『宗教公論』15-2、3月15日

My Faith in, and Hope for, the UNO『The Waseda Guardian』1、2、3月15日、4月15日

日本の政治的経済的文化的急務と総選挙『中部民論』11-3、3月17日

民主主義を如何に把握すべきか『東西文明』1、3月30日

選挙と政治教育上の急務『丁酉倫理』519、4月1日

憲法案に対する国民の理想的態度『講演』641、4月15日[「憲法案に対する評価、批判、及び建設的思考」と改題、『世界人権の原則』収録]

平和主義経済日本の建設[「日本復興の眼目」]『経済新誌』1-1、4月20日

新日本の進路『進路』1-1、4月30日

新時代の恋愛と結婚を語る座談会『主婦と生活』1-2、6月1日[座談会：岩井イト、豊島與志雄、羽仁説子、山口シズエ]

憲法と世界観『真日本』1-2、6月1日

政治と倫理—憲法問題を試金石としての原則的關係—『生活文化』7-5・6、6月1日[「憲法問題を試金石として政治と倫理の原則的關係を再確認す」と改題、『世界人権の原則』収録]

新憲法案に対する評価及び批判の諸原則『光』2-5・6、6月1日[「草案憲法に対する国民の評価及び批判の諸原則」と改題、『世界人権の原則』収録]

学徒と理想『蛍雪時代』16-4、7月1日

保守性と進歩性の原則『丁酉倫理』522、8月1日

世界共和制と科学的宗教の樹立『世紀』1-3、8月15日[『世界人権の原則』収録]

石橋湛山と人物評論の原則『新時代』13-9、9月5日

憲法制定と世界観の責任『暁鐘』1-3、9月10日[『世界人権の原則』収録]

新憲法の把握及発揚『自由』1-10、12月1日

1947（昭和22）年

母性愛と性愛の意味するもの 理想的世界国家の魂の問題『自由』2-1、1月1日

民主主義の教育的本質—最大の愛—『創造』17-1、1月1日

民族至上主義的「多神教」の根本的打破と真正人類主義的「唯一神教」の制度的及び心的設定の要『世界の動き』2-1、1月1日

物質技術と社会技術『経営科学』1-1、1月20日

「ほしいもの・したいこと」『婦人之友』41-1、2月1日

世界国家と世界宗教『夕刊ニイガタ』2月4日

新憲法と貞操[「新しい貞操観」]『女性』2・3、3月1日

条約の国内法化と平和主権の心術化『丁酉倫理』528、3月1日

科学の本質と現代『科学文化新聞』38、3月5日

Three Points in the Required New Education 『The Waseda Guardian』9、10、3月、6月

選挙と国民の覚悟『夕刊ニイガタ』4月10日

シナリオにおける新構想『映画春秋』6、4月15日

私の頭の中の桑木先生[「故文学博士桑木嚴翼君の学的業績並びに思ひ出」]『丁酉倫理』530、5月1日

政権授受は公正に[「民主評論」]『夕刊ニイガタ』5月15日

政権授受は公正なれ『九州タイムズ』5月20日

大蔵大臣石橋湛山氏[「興味ある人々」]『トップライト』2-6、6月1日

学問、思想のアメリカ『経営科学』1-3、6月20日

平和会議に備へて日本人の反省を論ず—若き世代に与へる—『国際』2-7、8月1日

アメリカの民主主義と世界共和制『房総春秋』4、8月1日

根本的精神運動の民族史上絶対的必要『経済新誌』2-5、8月20日

既成宗教の根本的改造『丁酉倫理』533、9月1日

アメリカ民主主義の本質的把握『経営科学』1-6、9月20日

「母愛から人類愛へ」と「性愛から文化愛へ」と世界人の育成『教育人』1-6、10月1日

ユネスコと日本[巻頭言]『経営科学』2-2、12月20日

ユネスコと科学、哲学及び宗教『経営科学』2-2、12月20日

1948 (昭和 23) 年

「平和のために何をなすべきか何をなしつつあるか」『婦人之友』42-1、1月1日

ユネスコと知的、政治的、宗教的[巻頭言]『経営科学』2-3、1月20日

婦人と政治『生活文化』9-2、2月1日

青年と学問『青年』1-2、2月1日

合理的汎愛[「世界に訴う」]『世界国家』2-1、2月1日

一つの世界への世界史的鍵『経営科学』2-4、2月20日

民主詩人一茶『経済新誌』3-2、2月20日

ユネスコの生命及び使命『倫理』537、3月1日

哲学と宗教と政治と[「都論壇」]『都新聞』4月20日

労働者教育の問題『経営科学』2-5、4月28日

世界万象の心の平和の条件と新世界宗教『世界平和』2-2、5月1日

倫理学の責任『倫理』540、6月1日

「平和世界の構想 ハガキ解答」『民主論壇』10、7月15日

労働運動の本質と将来『月刊労働組合』1-5、8月1日

現代文明論—未成宗教の無自覚の時代—『青年』1-8、9月1日

超国民主義への徹底『早稲田学報[復刊]』1、9月20日

権力の生産大衆への推移の迹と将来[「随筆」]『経済』2-10、10月1日

世界連邦への理念—歴史哲学的及び新宗教観的一論稿—『自由公論』1-1、11月1日

青年と社会『青年』1-10、11月1日

新自由主義の概念『経済新誌』3-10、11月20日

1949 (昭和 24) 年

内外時局の鍵と世界市民性の開拓『政経時潮』4-1、1月1日

責任政治の確立—浅薄なる「反対党」公賛の蒙を啓く『改造』30-2、2月1日

イギリスを語る『婦人之友』43-2、2月1日[座談会：神田盾夫、木村健康、齋藤勇、松平恒雄、松平信子、羽仁吉一、羽仁もと子]

倫理学と時局『倫理』547、2月1日

現実政治における至上道『政経時潮』4-3、3月1日

偉人と天才『青年』2-6、7月1日

共産主義及日本—世界共産党—『政経時潮』4-8、8月1日

日本社会党論『青年』2-7、8月1日

1950（昭和25）年

時局と宗教家『宗教公論』20-1、1月1日

原子時代の世界修行[「皇太子の留学をどう考えますか」]『丸』3-1、1月1日

青年に寄す『青年文化大学』7、6月1日

日蓮と現代の宗教[「特集 日蓮を再考する」]『宗教公論』20-6、7月1日

1951（昭和26）年

経済・政治・宗教(哲学としての)ートインビー氏等への寄語を含むー『経済新誌』6-11、8月1日

大学論『青年文化大学』2-8、9月1日

日本文化新発足宣言ー新求心主義を条件とする遠心主義ー『宗教公論』21-8、10月1日

日本及世界の将来ーイデオロギー問題の国内的及国際的解決の先務性ー『日本及日本人』2-11、11月1日

偉人と天才『人生往来』1-3、12月1日

1952(昭和27)年

座談会 花見 魚釣 農村『東京だより』34、5月1日[4月5日座談会(於東京会館): 洪沢敬三、阿部賢一、芦田均]

米ソ丸腰の先導の必要『東京だより』41、12月1日

1953（昭和28）年

挙世界の徹底的廃軍備への政治意思開拓の必要『日本及日本人』4-1、1月1日

[1.過ぐる半世紀の歴史の中にどんな進歩のあとを見出されますか 2.来るべき半世紀にどんな期待を寄せられますか]『婦人之友』47-4、4月1日

現代の最大急務ー時局に対する世界史観的及び心理学的分析と建設的構想ー『民主社会主義』1-3、5月10日

1956（昭和31）年

古本屋にて[「特輯中野正剛を偲ぶ」]『日本及日本人』1359、1月1日

全人類の運命『綜合文化』2-2、2月1日

1957（昭和32）年

闘志ある早大生ー凡庸の王にして非凡ー[「湛山年代記」]『文芸春秋』35-2、2月1日

4. 評論集初出

*評論集の収録評論と初出とを掲げた。評論集収録時に改題されているものについては原題を示した。

『シュトルツとシヤーム』日本図書新報社、1914年2月4日

神になる意志	『早稲田文学』77、1912年4月1日
全我的気分心持本位の態度	『早稲田文学』47、1909年10月1日
藤井氏の『主観道徳学要旨』を読んで	『早稲田文学』68、1911年7月1日
道徳家と勝利者	『早稲田文学』58、1910年9月1日
最深要求の事実化の態度	『早稲田文学』57、1910年8月1日
道徳の権威	『東洋時論』3-3、1912年3月1日
気分を尊重するの説	『早稲田文学』36、1908年11月1日
丘氏の「人類の将来」を読んで	『早稲田文学』52、1910年3月1日
何が現実であるか	現実の語義と中味『文章世界』4-15、1909年11月15日
先づ虚栄心を去れ	『早稲田文学』41、1909年4月1日
去年の思想界に就ての断感	『丁酉倫理会倫理講演集』125、1913年1月10日
光彩ある世界	『読売新聞』1912年1月24日
『書齋より街頭に』を読んで	『早稲田文学』70、1911年9月1日
無題録	六月の教学界『早稲田文学』44、1909年7月1日 八月の教学界『早稲田文学』46、1909年9月1日
不可思議力のみなもと	『早稲田文学』33、1908年8月1日
作文道偶感	1911年8月
プラグマティズム講話	『早稲田文学』71、1911年10月1日

『人類の再生』東方時論社、1919年12月21日

改造の哲学	『東方時論』4-9、1919年9月1日
社会改造の原則	社会改良の原則『哲学雑誌』389、1919年7月1日
倫理上より観たる世界改造	『大観』2-10、1919年10月1日
新国民主義	『東方時論』4-10、1919年10月1日
国民主義と世界主義	『大観』2-6、1919年6月1日
個人策及び国策としての聖雄主義	『中央公論』34-11、1919年10月1日
デモクラシーの本義	『東方時論』4-7、1919年7月1日
デモクラシーに対する倫理的考察	『丁酉倫理会倫理講演集』203、1919年7月10日
教育上のデモクラシ	『解放』1-3、1919年8月1日
労働問題の核心	『中央公論』34-8、1919年7月15日
産業界改造の原則としての特殊化と組織化	『東方時論』4-8、1919年8月1日
英国の新教育法令	『大阪朝日新聞』1918年12月15~21日
英国の婦人参政権運動	『婦人公論』4-7、1919年7月1日
アスクイスよりロイド・ジョージへ	戦時の英国観『太陽』25-9、1919年7月1日
英米両国の新地歩	英語国民の将来と能力総動員『中外新論』3-6、1919年6月1日
カイゼル処罰問題	『中央公論』34-9、1919年8月1日
大戦の思想界に及ぼせる影響	『太陽』25-8、1919年6月15日
願望の巷に立ちて	『東方時論』4-6、1919年6月1日
世界に奉公する志	『東方時論』4-1、2、4、6、1919年1月1日、2月1日、4月1日、6月1日

『新社会の原則』天佑社、1921年2月15日

行き悩む国際主義の行進曲	『東方時論』5-11、1920年11月1日
正及び善の原則を論じて社会主義と国際連盟に希望す	『中央公論』35-10、1920年9月1日

新国家哲学の必要	『東方時論』4-11、1919年11月1日
新社会主義へ進め	『中央公論』35-8、1920年7月15日
政治の新常識	『東方時論』5-4、1920年4月1日
政治の新原則	『大阪毎日新聞』1920年1月1～5日
個性、組合、社会（新時代の政治の要件）	『中央公論』35-4、1920年4月1日
国家の新意義	『大阪朝日新聞』1920年2月19～22日
新国家観	『早稲田文学』179、1920年10月1日
中央集権の分裂進化と第三社会への途	『東京朝日新聞』1921年1月1日
歴史価と論理価の社会的調節	『太陽』27-1、1921年1月1日
民族的団結と思想的団結	『中央公論』36-1、1921年1月1日
最近世界の革命的傾向—その意義及び善導策	『東方時論』5-3、1920年3月1日
森戸氏問題を機会として教育の目的と行政の真義を論ず	『東方時論』5-2、1920年2月1日
思想問題についての国民の心得べき条件	『中央公論』35-3、1920年3月1日
発明を信ずる制度、習慣	『東方時論』5-12、1920年12月1日
問題、運動、傾向と社会	『東方時論』6-1、1921年1月1日
教育の本場と学校	
新時代が必要とする教育方針	『改造』2-9、1920年9月1日
中学の改新、天才保護の国策	『東方時論』5-3、1920年3月1日
能力本位の教育	『創造』40-6、1919年6月1日
聡明なる女性美	聡明なる女性美の獲得へ『婦人公論』5-11、1920年11月1日
女子教育と文化	『婦人之友』15-1、1921年1月1日
ラッセルとその主張の批判的解剖	『太陽』26-1、2、1920年1月1日、2月1日
新現象と新人物	『東方時論』5-1、1920年1月1日
クロボトキンの哲学、倫理	『改造』2-5、1920年5月1日
生存競争と相互扶助	生存競争説と相互扶助説『中央公論』35-4、1920年4月1日
英国社会内面観叢談	
新経済人のスケッチ	『中央公論』35-11、1920年10月1日
筋肉労働と頭脳労働	『東方時論』4-12、1919年12月1日
文壇の革命児を呼ぶ	
文芸と時勢	
偶像破壊の文芸	
デモクラシイと宗教	『雄弁』11-1、1920年1月1日
奇蹟と予言	『大観』3-10、1920年10月1日
信仰の生活より無信仰の生活へ	『実業之日本』23-19、1920年10月1日
懺悔の価値	『婦人公論』5-1、1920年1月1日
社会悲劇と人間性	社会悲劇解決の根本義—人間性の改造に在り—『婦人公論』4-10、1919年10月1日
新社会と新宗教	『東方時論』5-6～9、1920年6月1日、7月1日、8月1日、9月1日
新時代の理想的原則序説	『中央公論』35-13、1920年12月1日

『社会人の誕生』隆文館、1922年6月2日

社会の発見	『中央公論』36-7、1921年7月1日
個性主義の社会的徹底	『中央公論』36-4、1921年4月1日
個性と社会との関係の考察	『丁酉倫理会倫理講演集』227、1921年7月1日
社会理想の思索	『早稲田学報』315、1921年5月10日
社会進歩の原因としての組合の価値	『東方時論』6-3、1921年3月1日
経済と倫理の接触点	『東京朝日新聞』1921年7月20～24、26～29日
人的要素の普認と労働概念拡充	『中央公論』36-10、1921年9月1日
産業不安考察の背景	『東方時論』6-5、1921年5月1日

ホイットリ案とギルド主義との消長の社会的警告	『東方時論』6-6、1921年6月1日
自己及経済的生活に対する認識評価の確立	『中央公論』36-5、1921年5月1日
新ノブレス・オブリージの創造	『中央公論』36-3、1921年3月1日
産業的英国の危機と希望	『大観』4-6、1921年6月1日
白、黄、黒人の本質的社會合作	『改造』3-12、1921年11月1日
日本人の生存権	『中央公論』36-10、1921年9月1日
わが国の位置	『東方時論』6-9、1921年9月1日
人口問題の新常識	『東方時論』6-8、1921年8月1日
華府會議出發の功過	『東方時論』6-10、1921年10月1日
支那の國際管理觀	『改造』3-11、1921年10月1日
國際關係に於ける感情・利害・正義の力	『中央公論』36-9、1921年8月1日
思想備の充實を先要条件とする軍備の充實	『太陽』27-3、1921年3月1日
武力主義と戦ふ文化主義の楯の寸進	『中央公論』36-2、1921年2月1日
亜米利加對世界問題觀	『中央公論』36-6、1921年6月1日
政治的英国の昨今と明日	『大観』4-4、1921年4月1日
旧囊新酒から新酒新囊へ	『大観』4-2、1921年2月1日
新意思の政治団の出現を望み、併せて機能代表制の実試を勧む	『東方時論』6-2、1921年2月1日
機能代表制と組合の創始価	『国民新聞』1921年2月7日
国民品性の反映	
原首相の變と後の世界	『改造』3-13、1921年12月1日
都市及び田園	『中央公論』36-8、1921年7月15日
義務としての立国	『東方時論』7-1、1922年1月1日
國際無軍備と生産立国へ	『中央公論』37-2、1922年2月1日
心的革命の創造	『中央公論』37-1、1922年1月1日
国力と国位	『東方時論』7-2、1922年2月1日
都市の芸術化	
婦人問題の論理	『中央公論』36-3、1921年3月1日
新婦人道徳の樹立	
性的衝動	性的衝動の崇高化『婦人公論』6-11、1921年11月1日
貞操の根拠	批評の対象としての余地「日本の婦人の美点としての貞操の根拠」『婦人公論』6-4、1921年4月1日
性別価と人同価の真認識	『大観』4-11、1921年11月1日
革命の優等代用価	『東方時論』6-7、1921年7月1日
教育者組合を欲する理由	『改造』3-5、1921年5月1日
国民が希望すべき、文相、内閣	『改造』3-3、1921年3月1日
現代政治に於ける教育の位置	『東方時論』6-11、1921年11月1日
窮死の露にさへも劣る余裕	『改造』3-12、1921年11月1日
われらが信すべき生活規範	
善の本質	
人間生活の根本義	『雄弁』12-10、1921年10月1日
常識の価値	『実業之日本』24-13、1921年7月1日
現代の哲学	『大観』4-10、1921年10月1日
現代日本の思想界	『解放』3-6、1921年6月1日
社会改造と支配階級の態度	『太陽』27-10、1921年8月1日
現代青年の心理	現代青年の心の解剖『実業之日本』24-3、1921年2月1日
迷信打破と輕信予防	『改造』3-6、1921年6月1日
言論圧迫の社会的損失	『中央公論』36-4、1921年4月1日
闘争本能の芸術化、道徳化	『中央公論』36-6、1921年6月1日
ラスセル氏を迎ふ	
飽かず高稀な熱の自覚へ	『中央公論』36-11、1921年10月1日
宗教のあるべき状態	『早稲田文学』194、1922年1月1日
間接行動の存在権	『改造』4-1、1922年1月1日
一人の生産と彼自身	『中央公論』37-2、1922年2月1日

社会理想学の創設	『東方時論』6-6、1921年6月1日
国策の嚮導権を確認せよ	『東方時論』6-12、1921年12月1日
米新興！欧再興!! それから?	『東方時論』7-3、1922年3月1日
国内的及び国際的自治区改正の準備	『東方時論』6-9、1921年9月1日
国際魔刀の前夜	『東方時論』6-10、1921年10月1日
ペリ再来か	ペリ再来か『東方時論』6-8、1921年8月1日
偉大なる日本、世界を創作する決意	『東方時論』6-1、1921年1月1日
強兵以上の国策	『東方時論』6-3、1921年3月1日
無学校の教育を実験せよ	『東方時論』6-7、1921年7月1日
頑守、盲進、研究	『東方時論』6-5、1921年5月1日

『神になる意志』近代名著文庫刊行会、1923年2月20日

神になる意志	『早稲田文学』77、1912年4月1日
全我的気分心持本位の態度	『早稲田文学』47、1909年10月1日
道徳家と勝利者	『早稲田文学』58、1910年9月1日
最深要求の事実化の態度	『早稲田文学』57、1910年8月1日
道徳の權威	『東洋時論』3-3、1912年3月1日
気分を尊重するの説	『早稲田文学』36、1908年11月1日
丘氏の「人類の将来」を読んで	『早稲田文学』52、1910年3月1日
何が現実であるか	現実の語義と中味『文章世界』4-15、1909年11月15日
先づ虚栄心を去れ	『早稲田文学』41、1909年4月1日
去年の思想界に就ての断感	『丁酉倫理会倫理講演集』125、1913年1月10日
光彩ある世界	『読売新聞』1912年1月24日
『書齋より街頭に』を読んで	『早稲田文学』70、1911年9月1日
無題録	六月の教学界『早稲田文学』44、1909年7月1日 八月の教学界『早稲田文学』46、1909年9月1日
不可思議力のみなもと	『早稲田文学』33、1908年8月1日
作文道偶感	
プラグマティズム講話	『早稲田文学』71、1911年10月1日
愛の論理	愛の哲理『改造』4-4、1922年4月1日
世界平和と人類愛の現代的方法	『中央公論』37-8、1922年7月15日
個人力と社会力	『中央公論』37-1、1922年1月1日
社会倫理のある生命点	『大観』5-4、1922年4月1日
新宗教の内容	『婦人公論』7-11、1922年11月1日

『国家の明日と新政治原則』早稲田大学出版部、1923年7月3日

政治の本質価を考究して現代国家不安の将来を論定す	『中央公論』37-11、1922年10月1日
立法及び行政に関するある注意	
政治の再生	『東方時論』7-8、1922年8月1日
政治の成長	『早稲田大学新聞』6、1923年1月15日
政治の新原則	『大阪毎日新聞』1920年1月1~5日
社会の発見	『中央公論』36-7、1921年7月1日
白、黄、黒人の本質的社會合作	『改造』3-12、1921年11月1日
白人以外の人類の自助を望む	『中央公論』37-5、1922年5月1日
国民主義の支那、印度及びアメリカ	『東方時論』7-6、1922年6月1日
日本人の生存権	『中央公論』36-10、1921年9月1日
わが国の位置	『東方時論』6-9、1921年9月1日
主客観の日本と国際現勢	『東方時論』7-3、1922年3月1日
国力と国位	『東方時論』7-2、1922年2月1日
義務としての立国	『東方時論』7-1、1922年1月1日
人口問題の新常識	『東方時論』6-8、1921年8月1日

行き悩む国際主義の行進曲	『東方時論』5-11、1920年11月1日
無政治の発見から社会国家への発明へ	『中央公論』38-4、1923年4月1日
社会観の基礎概念	社会観の基礎概念と純人生理論(二)~(五)『中央公論』38-2、1923年2月1日
社会進歩の原因としての組合の価値	『東方時論』6-3、1921年3月1日
経済と倫理の接点	『東京朝日新聞』1921年7月20~24、26~29日
産業不安考察の背景	『東方時論』6-5、1921年5月1日
ホイットリ案とギルド主義との消長の社会的警告	『東方時論』6-6、1921年6月1日
最近世界の革命的傾向—その意義及び善導策	『東方時論』5-3、1920年3月1日
思想問題についての国民の心得べき条件	『中央公論』35-3、1920年3月1日
夫妻関係と親子関係の保有と改作	夫妻関係及び親子関係の保有と改作『婦人公論』8-4、1923年4月1日
人間関係に於ける力の学及び術の新発達	
社会進歩に於ける行動と理想との関係	『東方時論』7-11、1922年11月1日
社会的または人生的事実を対象とする研究に於ける規範的認識の可能と方法	
現象としての制度と原則としての性情との関係に対する当今流行の錯見	『東方時論』8-3、1923年3月1日
個性主義の社会的徹底	『中央公論』36-4、1921年4月1日
純人生理論	社会観の基礎概念と純人生理論(六)『中央公論』38-2、1923年2月1日
一人の生産と彼自身	『中央公論』37-2、1922年2月1日
正及び善の原則を論じて社会主義と国際連盟に希望す	『中央公論』35-10、1920年9月1日
われらが信ずべき生活規範	
新宗教の内容	『婦人公論』7-11、1922年11月1日
現代文化の社会旨	『中央公論』38-5、1923年5月1日

『社会進歩の純粹原則』内外出版、1924年9月20日

社会進歩の純粹原則	『中央公論』39-2、3、1924年2月1日、3月1日
-----------	-----------------------------

『英雄論』改造社、1929年11月15日

英雄論	『改造』11-1、1929年1月1日
聖雄主義	個人策及び国策としての聖雄主義『中央公論』34-11、1919年10月1日
新英雄主義の問題	『読売新聞』1929年6月1、4、5日
間接行動の生存権	『改造』4-1、1922年1月1日
飽かず高稀な熱の自覚へ	『中央公論』36-11、1921年10月1日
神になる意志	『早稲田文学』77、1912年4月1日
最深要求の事実化の態度	『早稲田文学』57、1910年8月1日
道徳家と勝利者	『早稲田文学』58、1910年9月1日
信仰の生活より無信仰の生活へ	『実業之日本』23-19、1920年10月1日
神の否定、宗教の肯定	『読売新聞』1928年10月7日
新宗教来?	『読売新聞』1928年4月25~28日

『教育改造と社会改造』日東書院、1931年5月25日

緊張せる教育問題とその分析『改造』12-5、5月1日	『改造』12-5、1930年5月1日
教育の根本問題	『改造』10-5、1928年5月1日

教育の根本的時務	『教育問題研究 全人』28、1928年11月1日
試験地獄救済の根本問題	『中央公論』42-11、1927年11月1日
最近の所謂思想善導を論評す	『思想善導論』<『教育学術界』臨時増刊>モナス、1928年11月1日
階級と教育『帝国教育』574、6月1日	『帝国教育』574、1930年6月1日
現代の日本の教育者の在るべきかたち	『児童教育』18-3、1924年3月1日
教員減俸運動反対の説	『補習教育』86、1930年4月1日
問題の中学改善案を論評す	『中央公論』43-11、1928年11月1日
大学の存在理由の否、肯定	『祖国』3-9、1930年9月1日
認識の独立と大学に於ける社会科学的部分	『改造』9-8、1927年8月1日
大学の社会機能と現在大学制の不完全	『改造』7-7、1927年7月1日
国家と大学	『中央公論』38-8、1923年7月1日
知識学としての認識論	『中央公論』40-7、1927年6月15日
真理愛会場の国内的及び国際的社会的各文化中心地に於ける新設を提説す	真理愛会場—その国内的及び国際的社会的各文化中心地に於ける新設を提説す—『大阪毎日新聞』1924年1月4~6、8、9日
現代文化に於ける本質的傾向と偶然的勢力との関係	『中央公論』40-1、1925年1月1日
新賢母論	『婦人公論』15-12、1930年12月1日
今日の青年息女の母親と思想問題	『いとし児』2-5、1930年5月1日
インテリゲンチヤの問題	『読売新聞』1930年3月7、8、11日
卒業生と社会	『我観』66、1929年5月1日
現代を規定するもの	『文学思想研究』10、1929年12月5日
無産者の自由獲得の必然	如何にして無産者を解放するか『祖国』2-7、1929年7月1日
共産主義の批判	『祖国』2-9、1929年9月1日
帝国主義を資本主義から識別せしめるもの	『早稲田政治経済学雑誌』16、1929年12月1日
新国際を興せ	『祖国』3-1、1930年1月1日
婦人問題の論理	『中央公論』36-3、1921年3月1日
最近性運動の一、コムパニョネートに対する分析及び、社会史的批判	尖端的性運動の分析から新性道徳の設立へ『改造』12-1、1930年1月1日
政治と婦人問題	『文芸春秋』7-4、1929年4月1日
世界的なる三つの渦旋と潮流	世界的なる三つのくわ旋と潮流『東京朝日新聞』1929年10月3日
過去に於いて個人主義の開発を欠いた日本の将来	『我観』68、1929年7月1日
個人主義道徳の清算『丁酉倫理会講演集』335、9月1日	『丁酉倫理会講演集』335、1930年9月1日
相互条件としての集団主義と個人主義序説	『早稲田政治経済学雑誌』20、1930年12月1日

『社会倫理学概説』三省堂、1932年2月6日[「付録」として、以下4篇の評論を収録]

政治倫理の現代的必要序説	『倫理研究』14、1931年6月1日
領土の倫理性と満州問題	『丁酉倫理会講演集』350、1931年12月1日
「自由主義」没落の倫理	『倫理研究』11、12、1930年12月1日、1931年2月1日
失業の倫理	『倫理研究』9、1930年8月1日

『行動政治哲学』中央公論社、1937年1月28日

真正倫理学による国民的、世界的社会統制	『大亜細亜主義』10、1934年2月1日
政治哲学の新原則	『月刊維新』2-6、1935年6月1日
現代の指導原理	『丁酉倫理会講演集』363、1933年1月1日
行動原則の最近史と新行動原則	『我観』13-6、1935年6月1日
保守及び革新の原理	保守及革新の原理『早稲田政治経済学雑誌』50、1936年12月10日

平和工作の基礎認識	『月刊維新』1、1934年11月1日
国際道徳と国内道徳	『丁酉倫理会講演集』411、1937年1月1日
哲学に於ける革命	『読売新聞』1934年4月16日
新方法論	
議会政治の意義	『会議』2-5、1932年5月1日
政党は必要か	『祖国』2-1、1929年1月1日
議会制度の危機とファシズム	
独裁政治と指導理論	『ダイヤモンド』22-1、1934年1月1日
ファシズムの分析及び批判	『社会政策時報』154、155、1932年7月1日、8月1日
ナチスの或分析	『帝国教育』608、1932年8月15日
全体主義と国民主義	『思想国防』1-3、1935年12月1日
自由主義と全体主義	『中央公論』50-8、1935年8月1日
文教の刷新と社会対策	『中央公論』51-5、1936年5月1日
国民主義の理拠	『理想』53、1935年3月1日
国際主義とは何ぞや	
国際主義運動の将来	『理想』47、1934年4月1日
権力的国民主義と国際主義	『丁酉倫理会講演集』389、1935年3月1日
経済的国民主義と国際主義	『丁酉倫理会講演集』387、1935年1月1日
民族主義と世界維新	『月刊維新』2-2、1935年2月1日
ナショナリズムの社会化	『大亜細亜主義』37、1936年5月1日
個人化、国民化及び社会化	『丁酉倫理会講演集』406、1936年8月1日
日本主義と社会主義	『日本評論』11-6、1936年6月1日
領土とは何ぞや	『我観』98、1932年1月1日
「土」に対する政治的認識	
自由主義か領土政策か	『東洋経済新報』1602、1934年6月2日
領土の社会理論と日本の位置	『大亜細亜主義』5、1933年9月1日
領土の理論とアメリカ	領土の理論と亜米利加『大亜細亜主義』30、1935年10月1日
日本改造の語	『祖国』4-9、1931年9月1日
距離の科学と超距離の科学	
大亜細亜主義の解釈	『大亜細亜主義』40、1936年8月1日
亜細亜モンロー主義のために	『日本国民』1-7、1932年11月1日
九国条約の問題性	
近代支那の不振とその原因	『丁酉倫理会講演集』401、1936年3月1日
日本の支那に対する決定的方針	『大亜細亜主義』34、1936年2月1日
新国際主義と教育	
支那と本質的に結合すべし	『支那』27-2、1936年2月1日
対支国策の統制	『大亜細亜主義』23、1935年3月1日
満州国に関して	『大亜細亜主義』18、1934年10月1日
大戦当時の世界と今日の世界	『外交時報』767、1936年11月15日
恐るべき及び恐るべからざるアメリカ	『祖国』3-8、1930年8月1日
アメリカの認識と日米関係の将来	『思想国防』1-2、1935年11月1日
新意志の国際行動	『大亜細亜主義』43、1936年11月1日

『国際日本の自覚』理想社出版部、1937年11月27日

求心及遠心日本史と唯物的関係	
現態の国際日本とその原理的問題	『早稲田政治経済学雑誌』55、1937年10月1日
支那事変を如何に意識すべきか	『日本評論』12-12、1937年11月1日
国際道徳の新原則	『理想』79、1937年12月1日
戦争の社会学	『中央公論』52-13、1937年12月1日
日本の国際環境と創造的世界政策	
国策の世界観的基礎	
フィリピン及びシヤムの認識	

『新世界秩序への炬火』 育生社弘道閣、1941年9月15日

民族主義の現段階とその前後	『早稲田政治経済学雑誌』76、1941年4月30日
超近代民族主義の必然と欧州戦乱	『世界週刊』4-18、1941年5月3日
政治と教学の問題	『東大陸』19-5、1941年5月1日
政治の先行性	政治の先行性と世界政治『現代』22-5、1941年5月1日
ハーバード大学教授団への公開状	『改造』23-6、1941年3月2日
普遍的国交調整論	『東大陸』19-2、1941年2月1日
超三民主義と新支那	『大陸』3-1、1940年1月1日
デモクラシーの過、現、未	アメリカの誤謬『セルバン』11-3、1941年3月1日
アメリカ性格の認識と太平洋問題の原則	『東大陸』19-1、1941年1月1日
アメリカの認識	『外交時報』865、1940年12月1日
世界情勢とその思想的背景	『早稲田大学』哲学年誌』10、1940年12月30日
外交転換の原則	『東大陸』18-11、1940年11月1日
三国同盟の世界史的意義	『大陸』3-11、1940年11月1日

『新世界秩序建設の書』 元元書房、1942年9月19日

世界の理想主義を動員せよ	『報知新聞』1941年9月5日
自由が泣く	英米の自由観念を排す『報知新聞』1941年9月8日
新東亜建設の環境	共栄圏建設の環境を知れ『報知新聞』1941年9月11日
見透しと理想	枢軸の公道性を貫け『報知新聞』1941年9月15日
世界を指導すべき世界観	世界的理解を持って『報知新聞』1941年9月18日
独ソ戦の将来	英米の独断を許さず『報知新聞』1941年9月22日
大東亜民族に寄す	『報知新聞』1941年9月25日
海陸両建の必然の意義の再認識	再認識せよ地理的国策『報知新聞』1941年9月29日
指導時代	發揮せよ東亜指導力『報知新聞』1941年10月2日
ロイド・ジョージとチャーチル	哀れむべし英の無理想『報知新聞』1941年10月6日
評論家の職域	世界は第二の廢藩置県へ『報知新聞』1941年10月9日
ヨーロッパに喪志すべき英米及びロシヤとその新方向	許すな迫はるゝ白人の恣意『報知新聞』1941年10月13日
最大のロシヤの敗因	ソ連の敗因は不徳の二字『報知新聞』1941年10月16日
原則と理想	撃て九国条約の傀儡『報知新聞』1941年10月23日
新展開に備へよ	米の反省に心許すな『報知新聞』1941年10月27日
新宗教来?	歴史進展の深奥を掴め『報知新聞』1941年10月30日
国民の覚悟	力を以て米国に応へよ『報知新聞』1941年11月3日
最後の理由	わが国力既に巖然たり『報知新聞』1941年11月6日
横断的觀察を救へ	見よ米とパナマの適性『報知新聞』1941年11月10日
議会政治家諸公に要望す	臨時議会の決意を示せ『報知新聞』1941年11月13日
指導性の發揮へ	指導性の發揮へ 議会主義更正存続の途『報知新聞』1941年11月17日
真価実力主義による適材適所の普遍的断行に進め	対米問題処理の原則『報知新聞』1941年11月20日
資源の倫理と日米問題	アメリカへ物申さん『報知新聞』1941年11月24日
共栄圏確立と枢軸強化への国民的再認識	東亜の資源確保は絶対『報知新聞』1941年11月27日
南方諸民族の心を攪れ	南方諸民族の心を掴め『報知新聞』1941年12月1日
主義の勝利	東亜共栄圏に榮辱の危機『報知新聞』1941年12月4日
この機会に禍根を能ふ限り深く絶て	米国民族対策の誤謬『報知新聞』1941年12月8日
大東亜建設と教育、練成及び拮住	南方移住と教育『報知新聞』1941年12月15日
大東亜各地の中心人口を造れ	大東亜に住み込め『報知新聞』1941年12月18日
極度の敬虔性と完全なる国民的貫戦意思	固めよ国民の貫戦決意『報知新聞』1941年12月22日
大東亜解放軍に帰属すべき比島軍	比島よ大東亜に還れ『報知新聞』1941年12月25日
世界史転回への巨歩	文化的な大東亜の建設へ『報知新聞』1941年12月30日
諸事改革これより始めらん	大東亜戦争の生活的意義『報知新聞』1942年1月2日
大東亜建設に徹底せよ	『報知新聞』1942年1月5日

大地域指導国家時代と後進民族独立の新概念	小民族の独立概念修正『報知新聞』1942年1月12日
これ第二の世界維新なり	創造的世界政策こそ必要『報知新聞』1942年1月19日
民族の天才性への自覚	民族的天才性の自覚を持って『報知新聞』1942年1月27日
大東亜建設と教育	興亜教育指導者の条件『報知新聞』1942年2月3日
大東亜建設と対宗教政策	興亜宗教政策の絶対内容『報知新聞』1942年2月10日
雪辱以上のもの	シ港の陥落と共栄圏『報知新聞』1942年2月18日
総選挙を眼前にして	総選挙と国民の義務『報知新聞』1942年2月25日
国内摩擦を避くべき非常時代の責務	我國民非常時の責務『報知新聞』1942年3月5日
すべてこれ真価実力の効	民族的求心主義の発展的 pursuit 実現『報知新聞』1942年3月11日
時局に於ける機微性と大本達道	機微性と大本達道『報知新聞』1942年3月23日
思想戦上の急務	茲に思想戦上の急務『報知新聞』1942年3月30日
新旧候補者の自覚	改選遷善の断行『報知新聞』1942年4月7日
大局と調査	調査と指導構想『報知新聞』1942年4月13日
大東亜新秩序と欧州新秩序	『報知新聞』1942年4月21日
指導選挙主義の世界的時代性とその責任	指導選挙とその責任『報知新聞』1942年4月28日
専ら千年の計に抱るべし	國民の新覚悟『報知新聞』1942年5月5日
世界のために世界の公敵を討つ	世界の公敵を討つ『報知新聞』1942年5月13日
卑劣なる人種戦術の徹底的撃破	陋劣なる人種戦術『報知新聞』1942年5月21日
完全なる思想指導へ	思想指導に万全『報知新聞』1942年5月30日
米英國民に与ふ	倫理なき国家は亡ぶ『読売新聞』1942年8月1日

『世界人権の原則』研進社、1947年1月25日

個人と世界	
民主主義の定義	
新日本建設と本質的優秀文化主義	
日本文化再建の原則	
新日本建設綱領一私案	『我観』2-4、5、1945年10月5日、12月8日
再生日本への途	『新時代』12-4、1945年10月
憲法制定と世界観の責任	『曉鐘』1-3、1946年9月10日
憲法問題を試金石として政治と倫理の原則的關係を再確認す	政治と倫理—憲法問題を試金石としての原則的關係—『生活文化』7-5・6、1946年6月1日
憲法案に対する評価、批判、及び建設的思考	憲法案に対する國民の理想的態度『講演』641、1946年4月15日
草案憲法に対する國民的評価及び批判の諸原則	新憲法案に対する評価及び批判の諸原則『光』2-5・6、1946年6月1日
基本的人権尊重主義と憲法	
世界共和制と科学的宗教の次代へ	世界共和制と科学的宗教の樹立『世紀』1-3、1946年8月15日